

# 平泉遺跡群発掘調査報告書

祇園Ⅱ遺跡第20次

国衡館跡第16次

伽羅之御所跡第31次

西光寺跡第14・15次

志羅山遺跡第120・121次

花立Ⅱ遺跡第30次

2024

令和6年3月

平泉町教育委員会

# 平泉遺跡群発掘調査報告書

祇園Ⅱ遺跡第20次

国衡館跡第16次

伽羅之御所跡第31次

西光寺跡第14・15次

志羅山遺跡第120・121次

花立Ⅱ遺跡第30次



## 序

平泉町内には、特別史跡中尊寺境内・毛越寺境内附鎮守社跡・無量光院跡、史跡柳之御所・平泉遺跡群、達谷窟、金鷄山、特別名勝毛越寺庭園、名勝旧親自在王院庭園・おくのほそ道の風景地など奥州藤原氏に関連する数多くの国指定文化財が狭い町域に分布しています。また、このほかに101箇所を数える遺跡や埋蔵文化財が町内に数多く残されています。これらは地域の風土や歴史が生み出した貴重な文化遺産であり、本町の歴史・文化を考える上で重要な資料であります。また、これらの歴史資料は本町のみならず県民・国民的財産であり、その保存・活用の重要性はいうまでもありません。

本報告書は令和4年度の国庫補助事業により実施した平泉遺跡群発掘調査成果を収録したものです。同事業では祇園Ⅱ遺跡、国衡館跡、伽羅之御所跡、西光寺跡、志羅山遺跡、花立Ⅱ遺跡の6遺跡・8地点の調査を行っております。

特に志羅山遺跡第120次調査では、12世紀の四面庇建物を始めとする建物、その周辺にはトイレ状遺構や区画溝が見つかり、過年度の調査成果を併せて当時の屋敷地の様相を把握することができ、12世紀の平泉の都市空間を考える上で貴重な資料を得ることができました。

調査データは広く活用され、今後の考古学研究・文化財の愛護・理解の一助になれば幸いです。

最後に、地域住民の方々をはじめ、ご指導・ご助言をいただきました文化庁・岩手県教育委員会・平泉遺跡群調査整備指導委員会に深く感謝申し上げます。

令和6年3月

平泉町教育委員会

教育長 吉野新平

# 例 言

- 1 本書は令和4年度の国庫補助事業により実施した平泉遺跡群発掘調査の報告である。
- 2 令和4年度の発掘調査は、祇園Ⅱ遺跡、国衡館跡、伽羅之御所跡、西光寺跡、志羅山遺跡、花立Ⅱ遺跡の6遺跡・8地点について行った。野外調査期間は令和4年4月5日から令和4年12月23日、室内整理期間は令和5年3月31日までである。
- 3 発掘調査の主体は平泉町教育委員会である。

## (1) 令和4年度

平泉町教育委員会

教 育 長	吉 野 新 平			
平泉文化遺産センター				
館 長	高 橋 国 博	主 任	千 葉 徹	
館 長 補 佐	鳥 原 弘 征	主任文化財調査員	菅 原 計 二	
主任主査文化財調査員	鈴 木 江 利 子	補 助 員 (臨時)	二階堂 里 絵	
文 化 財 調 査 員	鈴 木 博 之	補 助 員 (臨時)	佐 藤 昌 弘	
主 任	佐々木 成 淳	補 助 員 (臨時)	熊 谷 明 美	
主 任	鈴 木 理 世	補 助 員 (臨時)	菊 地 道 子	
文 化 財 調 査 員	藤 田 崇 志			

## (2) 令和5年度

平泉町教育委員会

教 育 長	吉 野 新 平			
平泉文化遺産センター				
館 長	高 橋 国 博	主任文化財調査員	菅 原 計 二	
館 長 補 佐	鳥 原 弘 征	主任文化財調査員	鈴 木 江 利 子	
主任文化財調査員	鈴 木 博 之	補 助 員 (臨時)	二階堂 里 絵	
主 任	小野寺 俊 英	補 助 員 (臨時)	佐 藤 昌 弘	
主 任	鈴 木 理 世	補 助 員 (臨時)	熊 谷 明 美	
文 化 財 調 査 員	藤 田 崇 志	補 助 員 (臨時)	菊 地 道 子	
主 任	千 葉 徹			

- 4 発掘調査・室内整理は鈴木江利子・鈴木博之・藤田・菅原・鳥原が担当し、佐藤・熊谷・菊地・二階堂の協力を得た。事務は鈴木理世（令和4年度）、小野寺（令和5年度）が担当した。
- 5 本書の執筆は、I-1・2・4・5を菅原計二、I-6・7を鈴木江利子、I-3・8を藤田・鳥原が、それ以外を鳥原弘征が担当した。
- 6 調査の基準点は、平文基準点（平面直角座標X系に準拠）をもとに調査員が打設した。なお、測量成果は過去の図面と合成できるよう測地2000に変換して使用した。
- 7 土層観察の土色は『新版標準土色帳』（小山正忠・竹原秀雄2001）によった。
- 8 調査成果の一部については、平泉遺跡群調査整備推進会議、平泉町HP等で公表している。上記と内容が異なる場合は本書を優先する。
- 9 発掘調査及び室内整理にあたっては、次の方々ならびに機関からご指導とご協力を賜った（順不同・敬称略）

文化庁、岩手県教育委員会、平泉遺跡群調査整備推進会議、（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

- 10 出土遺物及び写真・図面等の調査に関わる資料は平泉町教育委員会が保管している。

- 11 発掘調査参加者（順不同・敬称略）

阿部利彦、阿部美紗、石川誠、大石しずえ、小野寺富子、川崎寛、小岩佳糸、佐々木政記、佐々木利雄、佐々木敏治、佐々木直久、佐藤綾男、佐藤歌奈子、佐藤さよみ、佐藤参、佐藤正一、佐藤正志、菅原聡、菅原まつ子、菅原有利、高橋純一、瀧澤昌治、東福正博、田村功、千條あえ子、千葉一郎、千葉京子、千葉景雄、千葉忠枝、千葉晃久、千葉ナカ子、千葉正行、千葉光春、鳥畑恵美子、那須野繁男、西悠太郎、橋階義彦、藤原榮治、矢崎静香、矢崎木綿子、吉田琴子

# 目 次

序

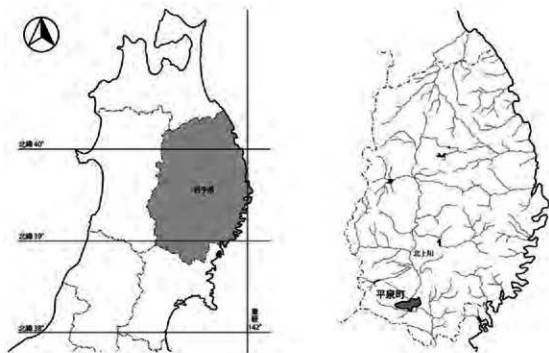
例言

目次

抄録

## I 平泉遺跡群発掘調査報告

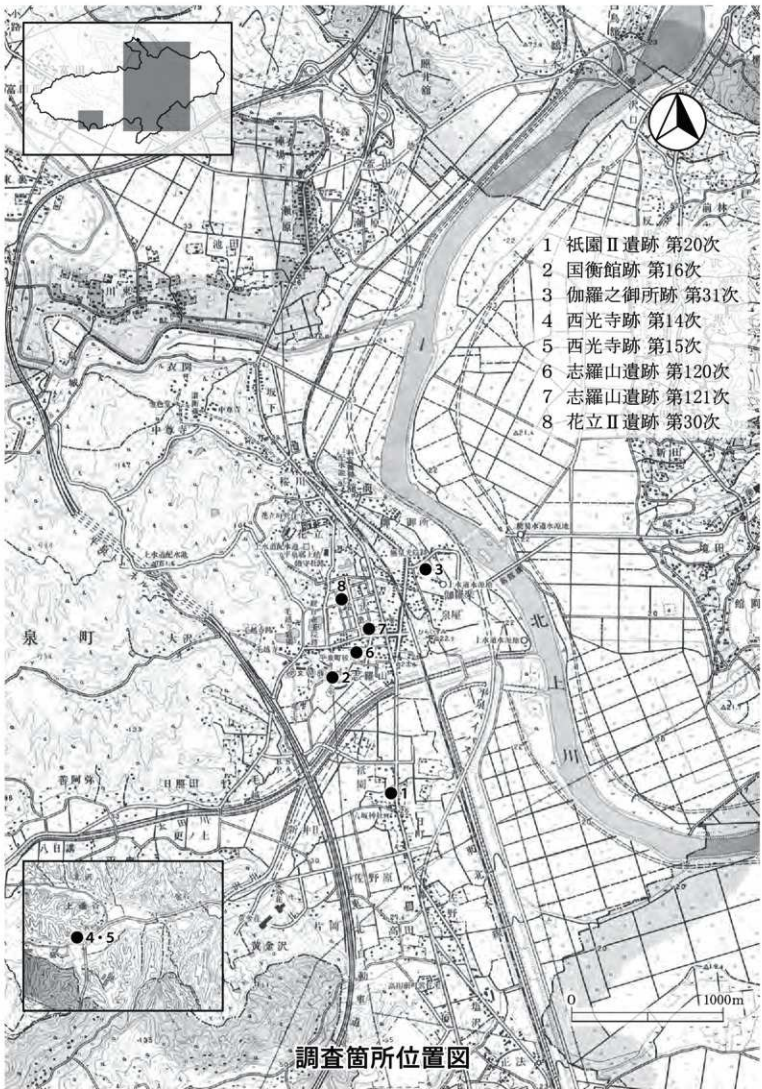
1 祇園Ⅱ遺跡第20次 .....	2
2 国衙館跡第16次 .....	17
3 伽羅之御所跡第31次 .....	24
4 西光寺跡第14次 .....	36
5 西光寺跡第15次 .....	48
6 志羅山遺跡第120次 .....	66
7 志羅山遺跡第121次 .....	89
8 花立Ⅱ遺跡第30次 .....	106



平泉町の位置

# 報告書抄録

ふりがな	ひらいずみいせきぐんはつつちょうさほうこくしょ							
書名	平泉遺跡群発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	岩手県平泉町文化財調査報告書							
シリーズ番号	第146集							
編著者名	島原弘征 菅原計二 鈴木江利子 鈴木博之 藤田崇志							
編集機関	平泉町教育委員会							
所在地	〒029-4102 岩手県西磐井郡平泉町平泉字志羅山45番地2 電話(0191)46-2111(代)							
発行年月日	西暦2024年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯 °' "	東経 °' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
祇園Ⅱ遺跡第20次	祇園5-4	03402	NE76-2087	38° 58' 42"	141° 06' 59"	20220406~0513	107㎡	住宅新築
国衙館跡第16次	倉町135-1		NE76-1082	38° 59' 09"	141° 06' 40"	20220606~0701	66㎡	住宅新築
伽羅之御所跡第31次	伽羅業68-3		NE76-1029	38° 59' 32"	141° 07' 06"	20220418~0520	61㎡	住宅新築
西光寺跡第14次	北沢16		NE84-0387	38° 58' 06"	141° 03' 29"	20220725~0831	11㎡	内容確認
西光寺跡第15次	北沢16		NE84-0387	38° 58' 06"	141° 03' 32"	20220926~1201	113㎡	仏堂建替
志羅山遺跡第120次	志羅山136-5		NE76-1065	38° 59' 14"	141° 06' 48"	20220405~0603	100㎡	住宅新築
志羅山遺跡第121次	志羅山155-5		NE76-1065	38° 59' 18"	141° 06' 52"	20220616~0823	92㎡	住宅新築
花立Ⅱ遺跡第30次	鈴沢96-2		NE76-1015	38° 59' 25"	141° 06' 44"	20220824~1112	80㎡	住宅新築
所収遺跡名	種別		主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
祇園Ⅱ遺跡第20次	散布地・寺社	平安	掘立柱建物、土坑、溝跡、柱穴		かわらけ、須恵器、国産陶器、近世磁器			
国衙館跡第16次	屋敷地	平安・中世	土坑、溝跡、柱穴		かわらけ、陶磁器、鉄製品			
伽羅之御所跡第31次	居館	平安	近世墓、土坑、焼土		かわらけ、瓦、煙管、銭貨、羽口、陶器			
西光寺跡第14次	寺社・城館	平安・中近世	池跡		かわらけ、国産陶器、銭貨、近世陶磁器、石器、羽口			
西光寺跡第15次	寺社・城館	平安・中近世	礎石建物、溝、整地		かわらけ、土師器、銭貨、近世陶磁器			
志羅山遺跡第120次	屋敷地	平安・中近世	掘立柱建物、柱穴列、トイレ状遺構、溝、柱穴		かわらけ、中国産磁器、国産陶器、銭貨、木製品、種			
志羅山遺跡第121次	屋敷地	平安・中近世	井戸跡、土坑、溝、柱穴		かわらけ、中国産磁器、国産陶器、木製品(ヘラ・箸)			
花立Ⅱ遺跡第30次	寺社・城館	平安	整地層、土坑、溝、柱穴		かわらけ、中国産磁器、国産陶器、瓦、金属製品			
要約	平泉遺跡群の発掘調査報告書である。							



- 1 祇園Ⅱ遺跡 第20次
- 2 国衡館跡 第16次
- 3 伽羅之御所跡 第31次
- 4 西光寺跡 第14次
- 5 西光寺跡 第15次
- 6 志羅山遺跡 第120次
- 7 志羅山遺跡 第121次
- 8 花立Ⅱ遺跡 第30次



調査箇所位置図



## 祇園Ⅱ遺跡第20次発掘調査

### 1 調査要項

地点	岩手県西磐井郡平泉町平泉字祇園5番4
調査面積	107㎡
調査期間	令和4年4月6日～5月13日
原因	住宅建築
調査担当	菅原計二

### 2 位置と概要

調査地点はJR東北本線平泉駅の南約1.2kmの地点に位置する住宅地である。既存建物の解体後に住宅を新築するために発掘調査を実施した。東側は県道300号三日町瀬原線に面する。県道は国道4号が平成27年(2015)4月に国土交通省から県に移管されたもので、近世の奥州道中を踏襲するとみられる。当地の南約100mに所在する八坂神社は国の特別史跡毛越寺跡附鎮守社跡の飛地祇園社跡とされる。当地の地形は北上川西岸と支流太田川の右岸に広がる沖積地で、西から東に向かう緩斜面に田畑が広がり、これらの耕作地と県道沿いと住宅地がみられる。調査地点の標高は約25mである。

調査の結果、遺構は近世の掘立柱建物跡を含む柱穴約90個、溝跡7条、土坑2基を検出した。遺物は溝跡等から近世陶磁器、柱穴や遺構外から12世紀のかわらけや常滑産陶器甕、平安時代の須恵器、中世陶器、鉄製品などが少量出土した。建物跡は雨落ちとみられる溝跡を伴う形で検出し、近世に属するものと推定した。以下は経過である。4月6日重機搬入、5日重機で表土と解体建物の攪乱除去、12日から発掘資材搬入とテント設営、同日より作業員による残土除去と粗掘りを開始した。この後、遺構検出と精査・実測等を並行して行った。5月9日調査区の全体清掃と全体写真撮影、11日埋戻し、13日に発掘資材の撤去を行い、現地での作業を終了した。



第1図 位置図 (1/5,000)

### 3 調査成果

#### (1) 土層 (第4図)

当地点の標高は調査区の北西端24.92m、北東端24.79m、南西端24.92m、南東端24.84mである。土層は調査区北壁と東壁の断面を主に観察した。土層は表土及び擾乱から地山までⅠ～Ⅳ層に分けられる。西壁では前身建物に伴う擾乱の下で旧表土とみられる堆積土を検出し、南壁では現代のコンクリートたたきの下で薄い旧表土を検出した。Ⅰは表土(1)と擾乱(1-1・1-2)及び前身建物の礎石移動時の擾乱(1-3)と地山ブロック混入(1-4)である。Ⅱ(2)は旧表土とみられる堆積土上位で南東側に切土された地山ブロックを多く含む。Ⅲ(3)は堆積土下位で地山ブロックをわずかに含む。Ⅳ(4)は地山である。

表1 土層

層	内 容	土色・土質
Ⅰ	表土(1・1-1～1-4)	10YR5/4にぶい黄褐シルト主体(1) 擾乱(1-1～1-4)
Ⅱ	堆積土上位(2)	10YR5/4にぶい黄褐シルト+10YR7/6明黄褐シルト3～20%混 南東側に地山ブロック多く混
Ⅲ	堆積土下位(3)	10YR5/4にぶい黄褐シルト 地山ブロックをほとんど含まない
Ⅳ	地 山(4)	2.5Y7/6～2.5Y6/6明黄褐シルト(調査区北東～南東) 10YR7/6明黄褐シルト(調査区北西～中央)

#### (2) 遺構

柱穴約90(掘立柱建物跡3棟含む)、溝跡7条、土坑2基を検出した。柱穴は調査区中央と南側で多く検出し、土坑は調査区北東と南東で検出した。溝跡は建物跡に伴う雨落溝や排水路とみられる。

#### 柱穴並びに掘立柱建物跡と前身建物 (第3・6図・写真図版2・4)

調査区の中央と南東側及び南側で柱穴が直線状に並ぶ展開が認められ、掘立柱建物跡3棟(1号建物～3号建物)を推定した。検出した柱穴の直径は20～40cm程の円形や楕円形を呈するものから直径15cmに満たない小穴が含まれる。3棟の建物跡以外に展開を捉えることが出来なかった柱穴が多く残るが、これらも小規模な建物を構成していたと考えられる。前身建物は本調査の事前に解体された既存の住宅を指し、この建物の基礎は直径40～50cmの円礫の上に柱を据えた建物であった。柱筋に合わせて礎石を配置し、縁の下に長方形に切り出した角礫を連ねて外周を囲っていたが、住宅を解体する際にこれらの礫はすべて移動されていた。地権者の話によれば「父から解体した建物は大正12年建築の建物と聞いていた」とのことである。柱穴1・2・12・22・36・42・64・90が礎石掘方の痕跡である。検出した掘立柱建物跡の内、1号建物と3号建物の2棟は雨落溝とみられる溝跡と並行し、埋土の様相から近世の建物跡と推定した。2号建物は5号溝東よりも古く、近世もしくはこれ以前と推定した。柱穴からの出土遺物を表5に示す。

**1号建物** 調査区中央で検出した6個の柱穴(7・10・11・86・52・54)により想定した建物跡である。東西2間×南北1間の規模で、N2°Wの軸線をもつ南北棟の建物とみられる。5号溝と並行し、平面の配置から門もしくは小規模な倉庫と推定した。北辺(柱穴7・10・11)と南辺(86・52・54)の柱間はいずれも1.70m等間で、北辺と南辺の距離は4.00mである。新旧関係は南西側の柱穴86が柱穴48に切られる。

**2号建物** 調査区南東側で検出した6個の柱穴(67・68・69・78・80・81)により想定した建物で、柱穴74・75と展開する場合は東西2間以上×南北1間以上の規模を持つ。N2°Wの軸線で、南北軸の5号溝と並行するが、南辺の柱穴68・69が5号溝東に切られている。柱間は北辺(柱穴78・80・81)が西から0.80mと1.05m、南辺(柱穴67・68・69)が西から0.85mと1.00mの間隔があり、北辺と南辺は柱間2.60mである。柱穴68と69から柱穴74・75は各々2.60mの間隔で、2号建物が南側や東側に展開する可能性がある。埋土は掘方が地山ブロックとにぶい黄褐シルトの混土、柱痕跡は灰黄褐シルト主体である。遺物は柱穴69の柱痕跡から12世紀の手づくねかわらけ3が出土した。これは

近世に建物が築かれた際、周辺から埋土に混入した可能性があり、遺構の年代は近世もしくはこれ以前と推定した。

**3号建物** 調査区南側で検出した6個の柱穴(26・30・51・59・66・71)で想定した建物跡である。直径40～60cm程の比較的大きな柱穴が東西方向にN93°Eの軸線と並ぶ。柱間は1.90～2.00m等間でこれを北辺として南側に展開する建物と考えられる。5号溝東の軸線方向が一致し、年代は近世と推定した。柱穴59から1.80m南の南壁沿いで同規模の柱穴63を検出し、南側に展開する柱穴の一つの可能性はある。

#### 土 坑 (第3図・写真図版4)

2基の土坑を検出した。1号土坑は調査区北東側、2号土坑は調査区北西側で検出した。

**1号土坑** 平面形は東西2.70m以上、南北4.10mの方形もしくは長方形を呈する。北端の一部と東側は未検出で、軸線は西辺でN2°Wとほぼ南北に伸びる。断面は逆台形で深さ65cm、底面標高は中央で23.98mを測る。新旧関係は5号溝より新しく、前身建物の礎石掘方90に切られる。埋土は上位がにぶい黄褐シルト主体、中位と下位は地山ブロック主体の人為埋土で、最下層は灰色味が強い黄褐シルトである。出土遺物は近世陶器の大堀相馬2点が出土した。用途は不明である。遺構の年代は近世～大正頃と推定した。

**2号土坑** 平面形は東西1.35m、南北2.20mの楕円形を呈し、南北方向に長く軸線はN5°Eを測る。断面は皿形で深さ16cm、底面標高24.57mを測る。新旧関係は前身建物の礎石掘方に切れ、1号溝を切る。埋土は上下2層に分けられる。上位はにぶい黄褐シルト主体で地山ブロックが少量混じり、下位は地山ブロックが主体でにぶい黄褐シルトの混土である。出土遺物は小礫1個のみで用途は不明である。遺構の年代は埋土の様相から近世～大正頃と推定した。

#### 溝 跡 (第3図・写真図版5)

7条の溝跡を検出した。

**1号溝** 調査区北西隅で検出した。検出長3.00m、溝幅55cm、断面は浅いU字形で深さ18cmを測る。軸線N20°～30°Eで南北方向に伸び、北側は調査区域外に続く。南側はわずかに屈曲して地山削平により途切れている。新旧関係は南側で2号土坑に切られる。底面標高は北壁24.58m、南端24.71mである。埋土はにぶい黄褐シルトである。出土遺物はかわらけ1片である。遺構の年代は近世～大正頃と推定した。

**2号溝** 調査区北側で検出した。検出長5.00m、溝幅50cm、調査区北壁の断面は皿形で深さ7cmを測る。底面標高は北壁24.44m、南端24.39mである。軸線N5°Eで東西方向に伸び、北側は調査区域外に続く。南側は地山削平のために途切れている。新旧関係は3号溝・4号溝と重複して5号溝に接し、この東側は地山平坦面で、溝跡の延長は検出されなかった。溝跡の埋土はにぶい黄褐シルトで互いに酷似し、2号溝は5号溝に合流する水路と推定した。出土遺物は無い。遺構の年代は近世～大正頃と推定した。

**3号溝** 調査区北側で検出した。検出長4.00m、溝幅35cm、調査区北壁の断面は浅いU字形で深さ7cmを測る。軸線N10°Wから75°Wの角度で南北方向から東西方向にL字に屈曲し、北側は調査区域外に続く。底面標高は北壁24.44m、南端24.40mである。新旧関係は北側で4号溝、東側で柱穴82に切られる。東端は5号溝と接する。この東側延長部の地山では溝の延長が認められず、3号溝は5号溝に合流していた可能性がある。埋土はにぶい黄褐シルトである。出土遺物は無い。遺構の年代は近世～大正頃と推定した。

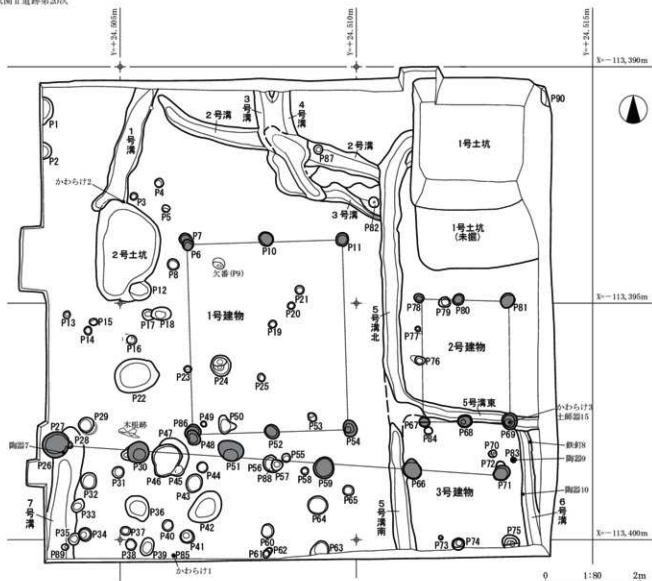
**4号溝** 調査区北側で検出した。検出長4.00m、溝幅35cm、調査区北壁の断面は浅いU字形で深さ4cmを測る。軸線N3°Wから85°Wの角度で南北方向から東西方向にL字に屈曲し、北側は調査区域外に続く。底面標高はほぼ平坦で、北壁24.42m、東端24.40mである。新旧関係は北側で3号溝を



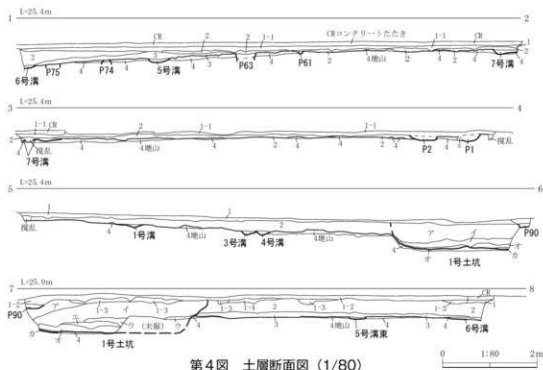
第2図 調査区全体図 (1/300)



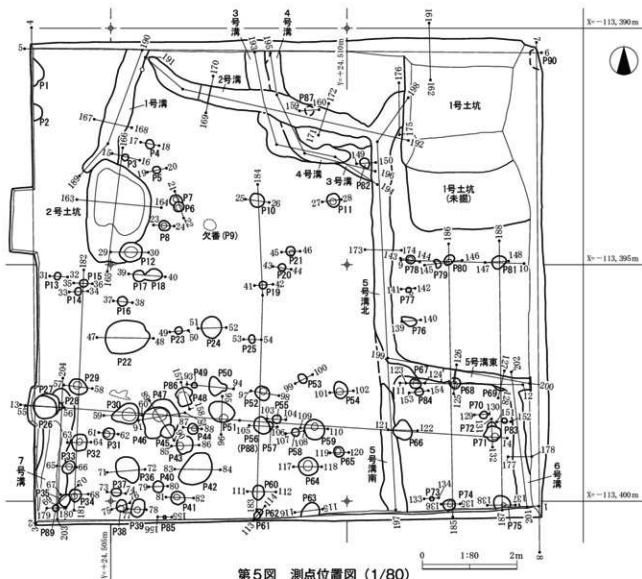
写真図版 1 調査区全体 (南から)



第3図 調査区平面図 (1/80)



第4図 土層断面図 (1/80)



1-2南壁・3-4西壁・5-6北壁・7-8東壁

順序	層	名称	土色・内容
I	I	表土	10YR5/4にぶい黄褐色シルト主体
I	I-1	視乱	10YR5/4にぶい黄褐色シルト主体 調査区南壁・西壁視乱
I	I-2	視乱	10YR5/4にぶい黄褐色シルト 視乱
I	I-3	視乱	10YR5/4にぶい黄褐色シルト 前身埴物の礎石面方と視乱面
I	I-4	視乱	10YR5/4にぶい黄褐色シルト+10YR7/6明黄褐色シルト地山ブロック20%混
II	2	堆積土上位	10YR5/4にぶい黄褐色シルト+10YR7/6明黄褐色シルト3~20%混 南東側に地山ブロック多く混
III	3	堆積土下位	10YR5/4にぶい黄褐色シルト 地山ブロックをほとんど含まない
IV	4	地山	2.5Y7/6~2.5Y6/6明黄褐色シルト(調査区北東~南東) 10YR7/6明黄褐色シルト(調査区北西~中央)

遺構

1号土坑	ア	10YR5/4にぶい黄褐色シルト主体 堆土上位
	イ	10YR5/4にぶい黄褐色シルト主体+10YR7/6明黄褐色シルト地山ブロック30%混 埋土中位
	ウ	10YR5/4にぶい黄褐色シルト
	エ	10YR5/4にぶい黄褐色シルト+10YR7/6明黄褐色シルト地山ブロック30%混
	オ	2.5Y/3黄褐色シルト 土坑底面に広がる埋土下位 灰色味が強い
	カ	2.5Y/3黄褐色シルト+10YR7/6明黄褐色シルト地山ブロック1~3cmで40%混

1号溝	埋土	10YR5/4にぶい黄褐色シルト
2号溝	埋土	10YR5/4にぶい黄褐色シルト
3号溝	埋土	10YR5/4にぶい黄褐色シルト
4号溝	埋土	10YR5/4にぶい黄褐色シルト
5号溝	埋土	10YR5/4にぶい黄褐色シルト主体+10YR7/6明黄褐色シルト地山ブロック5~10mm大で3~5%混
6号溝	埋土	10YR5/4にぶい黄褐色シルト主体+10YR7/6明黄褐色シルト地山ブロック5mm大で5%混
7号溝	埋土	10YR5/4にぶい黄褐色シルト

切り、東端は5号溝と接する。この東側延長部の地山では溝の延長が認められず、4号溝は5号溝に合流していた可能性が高い。埋土はにぶい黄褐シルトである。出土遺物は無い。遺構の年代は近世～大正頃と推定した。

**5号溝** 調査区中央東寄りで見出した。南北方向に検出長8.60m、溝幅50cmの規模である。南北方向に伸びる溝跡は中央南寄りで見出し、上面が削平されて北溝と南溝に分かれるが軸線N2°Wの同一の溝である。この南北溝からN83°Eの軸線で東に屈曲する東溝があり、全体としてT字形を呈する。南側と東側の延長は各々調査区域外に続く。新旧関係は北側で2号溝・3号溝・4号溝と重複するが、埋土が酷似していて分層が困難であり、2号溝～4号溝は5号溝に合流していた可能性がある。5号溝北の北端は1号土坑に切られ、5号溝東が柱穴68と69を切る。断面は浅いU字形で深さ12cmを測る。底面標高は北壁24.27m、南端24.45m、東端24.37mで、北と南から流入した雨水は東に下るものと推定したが、流路が重複して変遷していた可能性もある。埋土はにぶい黄褐シルトで地山ブロックシルトが少量混入する。遺物は産地不明の近世陶器1点と焙烙等の土製品とみられる破片が出土した。遺構の年代は近世～大正頃と推定した。

**6号溝** 調査区南東隅で見出した。検出長2.45m、溝幅35cm、調査区北壁の断面はU字形で、深さ6cmを測る。軸線N5°Eで南北方向に伸び、北側は調査区域外に続き、南側は地山削平により途切れる。底面標高は北壁24.37m、南側24.34mである。埋土はにぶい黄褐シルトで地山ブロックシルトが少量混入する。新旧関係は北側で5号溝東と接するが埋土が酷似し分層が困難である。この様相から1号建物や3号建物の雨落溝もしくは同時期の流路として、5号溝東から続く一連の溝として存在していた可能性がある。出土遺物は17世紀後半の肥前産染付磁器瓶が出土した。遺構の年代は17世紀後半～大正頃と推定した。

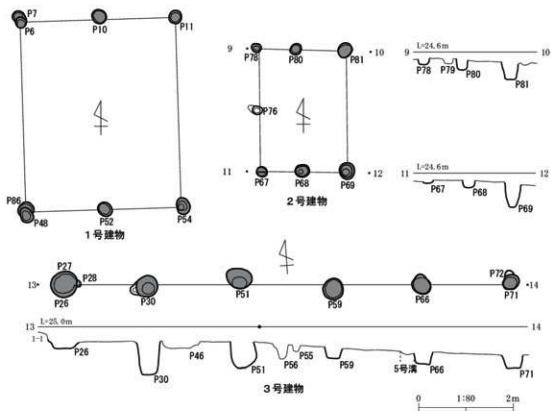
**7号溝** 調査区南西隅で南北方向に見出した。軸線N5°Eで、北側は削平により失われて浅く、南端は調査区域外に続く。検出長2.80m、溝幅65cm、断面は浅い皿形で深さ3cmである。底面標高は北側24.68m、南端24.64mでわずかに南側が低い。新旧関係は柱穴26・27・28・33・35・89と重複し、いずれも7号溝が新しい。埋土はにぶい黄褐シルトだが、南側は水分を含み灰色にグライ化して軟質である。出土遺物は無い。遺構の年代は近世～大正頃と推定した。

### (3) 遺物 (第9図・写真図版6)

本調査区から、12世紀のかわらけ13片(手づくね4、不明9、合計50g)、国産陶器(常滑産)1片、平安時代の須恵器2片、土師器1片、鉄釘1点、近世陶磁器並びに近現代陶磁器少数、不明土器や不明鉄製品が少量出土した。この内、18点を抽出して図示した。1～3は12世紀のかわらけである。1は柱穴85から、2は1号溝埋土から、3は柱穴69の柱痕跡から出土した。4は12世紀の常滑産陶器の肩部で遺構外から出土。5～14は近世から19世紀頃の陶磁器、15は平安時代(9～10世紀)の土師器、16・17は須恵器の小片、18は鉄釘の小片である。

## 4 まとめ

調査地点は祇園八坂神社の北約100mに位置する。調査の結果、検出した柱穴の展開から近世の掘立柱建物跡3棟が想定される。建物跡に伴う雨落溝もしくは排水路とみられる6号溝から17世紀後半の肥前産染付磁器瓶が出土しており、1号建物と3号建物の二棟は近世の建物跡と推定した。調査区東側の2号建物の柱穴69からは12世紀の手づくねかわらけが出土したが、後世の遺構に混入した可能性があり、年代は近世もしくはこれ以前と推定した。1号土坑と2号土坑は調査前に解体した前身建物が築かれる以前の遺構で年代は近世から大正頃とみられる。7条の溝跡は近世建物に伴う雨落溝もしくは排水路と推定した。

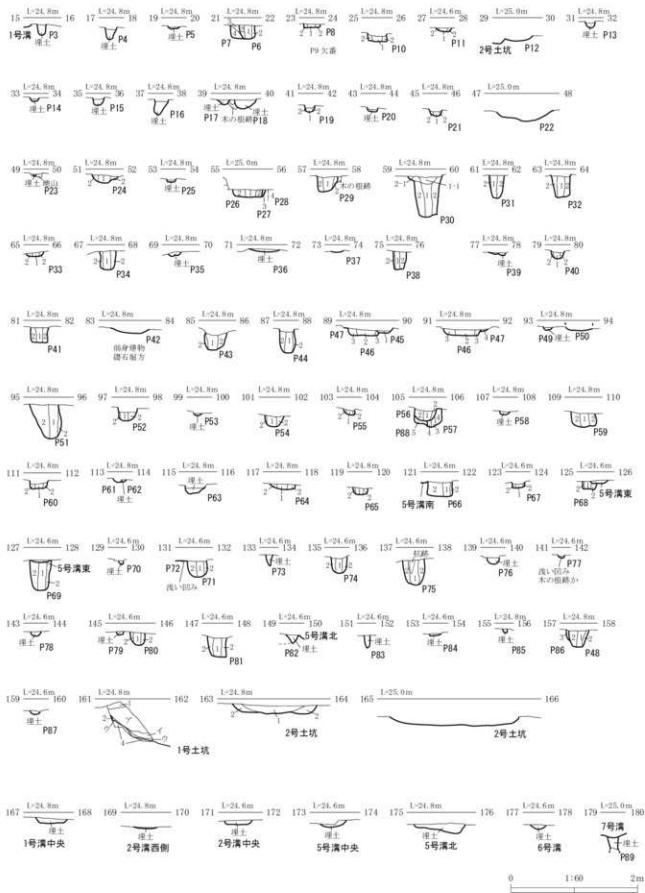


第6図 遺構 掘立柱建物跡平面図・エレベーション図 (1/80)



写真図版2 調査区全体 (北西から)





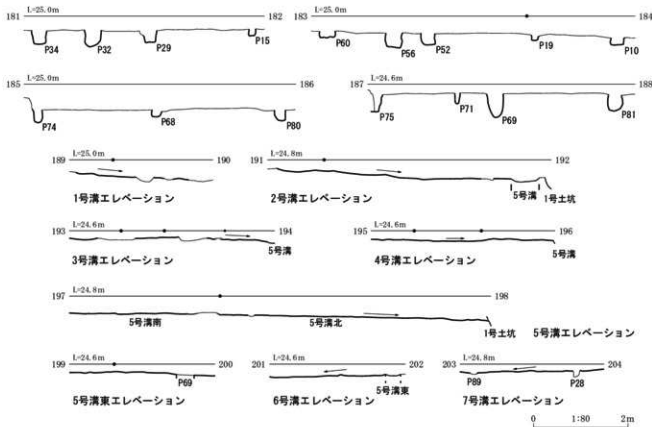
第7図 遺構断面図・エレベーション図 (1/60)

表2-1 道構 柱穴

番号	断面	平面形	柱形	断面寸法 (cm)	高さ (m)	埋土(1.柱形線 2.断面) (出土物の標高m)	新旧関係 (部注)	用途	年代	
1	60×8	円	-	15	23.69	埋土 10YR5/4に赤い黄褐色シト地山プロック40%混 底面に鉄固め石(2~10cm大の礫)が多くなる		前身建物	大正一 分和生	
2	38×8	円	-	10	23.72	埋土 10YR5/4に赤い黄褐色シト地山プロック40%混 底面に鉄固め石(2~10cm大の礫)が多くなる		前身建物	大正一 分和生	
3	14×13	円	-	19	24.32	埋土 10YR5/4に赤い黄褐色シト主体				
4	15×17	円	-	20	24.46	埋土 10YR5/4に赤い黄褐色シト				
5	16×15	円	-	6	24.62	埋土 10YR6/4に赤い黄褐色シト				
6	23×20	円	16×14	22	24.46	1. 10YR5/4に赤い黄褐色シト 2. 10YR5/4に赤い黄褐色シト+2.5Y7/4浅黄シト地山プロック少量混	6>7	1号建物	近世一 大正混	
7	29×25	円	14×13	21	24.47	3. 10YR5/4に赤い黄褐色シト 4. 10YR5/4に赤い黄褐色シト+10YR7/6明黄褐色シト地山プロック40%混下位				
8	24×24	円	12×12	6	24.64	1. 10YR5/4に赤い黄褐色シト 2. 10YR5/4に赤い黄褐色シト+2.5Y7/4浅黄シト地山プロック20%混				
9	欠番					本路線のため欠番				
10	27×31	円	17×8	-	15	24.42	1. 10YR5/4に赤い黄褐色シト 2. 10YR5/4に赤い黄褐色シト+10YR7/4に赤い黄褐色シト地山プロック5%混		1号建物	近世一 大正混
11	27×28	円	14×14	6	24.38	1. 10YR5/4に赤い黄褐色シト 2. 10YR5/4に赤い黄褐色シト+2.5Y7/4浅黄シト地山プロック少量混		前身建物	大正一 分和生	
12	49×42	楕円	-	8	24.62	埋土 柱穴に似る 浅い窪み	12>21			
13	16×16	円	-	10	24.64	埋土 10YR5/4に赤い黄褐色シト+10YR7/6明黄褐色シト地山プロック1cm大で20%混				
14	16×17	円	-	8	24.66	埋土 10YR5/4に赤い黄褐色シト+10YR7/6明黄褐色シト地山プロック20%混 浅い窪み				
15	17×14	円	-	11	24.58	埋土 10YR5/4に赤い黄褐色シト+10YR7/6明黄褐色シト地山プロック20%混				
16	25×26	円	-	24	24.46	埋土 10YR5/4に赤い黄褐色シト+10YR7/6明黄褐色シト地山プロック5~7ミリ大で30%混				
17	24×24	円	-	8	24.62	埋土 10YR5/4に赤い黄褐色シト+10YR7/6明黄褐色シト地山プロック5~10ミリ大で20%混	17と18 新旧不明			
18	36×26	楕円	-	16	24.56	埋土 10YR5/4に赤い黄褐色シト+10YR7/6明黄褐色シト地山プロック1cm大で20%混				
19	16×15	円	12×8	-	12	24.49	1. 10YR5/4に赤い黄褐色シト 2. 10YR5/4に赤い黄褐色シト+10YR7/6明黄褐色シト地山プロック20%混			
20	17×16	円	-	6	24.50	埋土 10YR5/4に赤い黄褐色シト+10YR7/6明黄褐色シト地山プロック1cm大で20%混				
21	19×19	円	11×11	11	24.41	1. 10YR5/4に赤い黄褐色シト+10YR7/6明黄褐色シト地山プロック30+10YR2/1黒色炭化物5ミリ大で1%混 2. 2.5Y7/4浅黄シト地山プロック主体+10YR5/4に赤い黄褐色シト10%混				
22	86×68	楕円	-	16	24.56	埋土 柱穴に似る 浅い窪み		前身建物	大正一 分和生	
23	18×16	円	-	5	24.68	埋土 10YR5/4に赤い黄褐色シト主体 浅い窪み 小穴				
24	41×45	楕円	19×19	-	14	24.58	1. 10YR5/4に赤い黄褐色シト+10YR7/6明黄褐色シト地山プロック10%混 2. 10YR5/4に赤い黄褐色シト+10YR7/6明黄褐色シト地山プロック40%混			
25	14×18	楕円	-	6	24.39	埋土 10YR5/4に赤い黄褐色シト+10YR7/6明黄褐色シト地山プロック10%混				
26	50×48	円	18×8	-	11	24.54	1. 10YR5/4に赤い黄褐色シト 掘方より鉄管 2. 10YR5/4に赤い黄褐色シト 掘深1.7m處各処(2.68)	26>27-28 27&28の 新旧不明	3号建物	近世
27	39×39	円	-	11	24.56	埋土 10YR5/4に赤い黄褐色シト+2.5Y7/4浅黄シト地山プロック5~7ミリ大で30%混				
28	15×8	円	-	14	24.54	埋土 10YR5/4に赤い黄褐色シト+2.5Y7/4浅黄シト地山プロック10%混				
29	40×32	楕円	19×18	26	24.41	埋土 10YR5/4に赤い黄褐色シト+10YR7/6明黄褐色シト地山プロック10ミリ大で20%混				
30	58×46	楕円	31×28	64	24.04	1. 10YR5/4に赤い黄褐色シト 1-1. 柱形線土位 10YR5/4に赤い黄褐色シト 2. 10YR5/4に赤い黄褐色シト+2.5Y7/4浅黄シト地山プロック30%混 2-1. 掘方土位 10YR5/4に赤い黄褐色シト+2.5Y7/4浅黄シト地山プロック5%混		3号建物	近世	
31	23×20	円	12×12	47	24.34	1. 10YR5/4に赤い黄褐色シト主体 2. 10YR5/4に赤い黄褐色シト+10YR7/4に赤い黄褐色シト地山プロック20%混				
32	32×35	楕円	13×12	37	24.35	1. 10YR5/4に赤い黄褐色シト主体 2. 10YR5/4に赤い黄褐色シト+10YR7/6明黄褐色シト地山プロック40%混				
33	25×25	円	13×12	8	24.60	1. 10YR5/4に赤い黄褐色シト+10YR7/6明黄褐色シト地山プロック30+5ミリ大の10YR2/1黒色炭化物3%混 2. 10YR7/6明黄褐色シト地山プロック主体+10YR5/4に赤い黄褐色シト10%混				
34	27×26	円	13×13	6	24.40	1. 10YR5/4に赤い黄褐色シト主体 2. 10YR5/4に赤い黄褐色シト+10YR7/6明黄褐色シト地山プロック20%混				
35	19×24	楕円	-	30	24.62	埋土 10YR5/4に赤い黄褐色シト+10YR7/6明黄褐色シト地山プロック30+3ミリ大の10YR2/1黒色炭化物3%混				
36	48×49	不整	-	4	24.68	埋土 10YR5/4に赤い黄褐色シト主体+3cm大の小礫少量含む				
37	21×17	楕円	-	3	24.68	埋土 10YR5/4に赤い黄褐色シト主体 浅い窪み				
38	21×26	楕円	12×12	39	24.41	1. 10YR5/4に赤い黄褐色シト 2. 10YR5/4に赤い黄褐色シト+10YR7/4に赤い黄褐色シト地山プロック5ミリ大で20%混				
39	26×32	楕円	-	5	24.62	埋土 10YR5/4に赤い黄褐色シト主体				
40	24×22	円	11×11	-	3	24.58	1. 10YR5/4に赤い黄褐色シト+10YR7/6明黄褐色シト地山プロック10%混 2. 10YR5/4に赤い黄褐色シト+10YR7/6明黄褐色シト地山プロック30%混			
41	33×29	楕円	13×12	25	24.44	1. 10YR5/4に赤い黄褐色シト 2. 10YR5/4に赤い黄褐色シト+10YR7/4に赤い黄褐色シト地山プロック5~10ミリ大で20%混				
42	60×61	楕円	-	8	24.59	埋土 柱穴に似る 浅い窪み		前身建物	大正一 分和生	
43	35×30	楕円	18×18	27	24.33	1. 10YR5/4に赤い黄褐色シト 2. 10YR5/4に赤い黄褐色シト+2.5Y7/4浅黄シト地山プロック1cm大で20%混				
44	24×25	円	12×12	38	24.28	1. 10YR5/4に赤い黄褐色シト+2.5Y7/4浅黄シト地山プロック5%+10YR2/1黒色炭化物5ミリ大で5%混 2. 10YR5/4に赤い黄褐色シト+2.5Y7/4浅黄シト地山プロック40%混				
45	30×28	円	-	5	24.60	1. 10YR5/4に赤い黄褐色シト主体+2.5Y7/6明黄褐色シト地山プロック5%混 埋土 2. 10YR5/4に赤い黄褐色シト+地山プロック5%混 柱形線				
46	60×56	不整	30×28	14	24.54	3. 10YR5/4に赤い黄褐色シト+10YR7/6明黄褐色シト地山プロック30%混 掘方 4. 2.5Y7/4浅黄シト地山プロック主体+10YR5/4に赤い黄褐色シト30%混+2~3ミリ大の10YR2/1黒色炭化物1%混 掘方	45>46>47			
47	75×8	不整	-	4	24.62	1. 10YR5/4に赤い黄褐色シト 2. 10YR5/4に赤い黄褐色シト+10YR7/6明黄褐色シト地山プロック1cm大で5%混				
48	38×37	不整	14×8	-	28	24.42	1. 10YR5/4に赤い黄褐色シト+10YR7/6明黄褐色シト地山プロック1cm大で5%混 2. 10YR5/4に赤い黄褐色シト+10YR7/6明黄褐色シト地山プロック20%混	48&46 新旧不明		
49	13×11	円	-	6	24.64	埋土 10YR5/4に赤い黄褐色シト 浅い窪み				
50	41×40	不整	-	5	24.64	埋土 柱穴に似る 浅い窪み		前身建物	大正一 分和生	
51	57×42	楕円	17×16	54	24.14	1. 10YR5/4に赤い黄褐色シト主体 2. 10YR5/4に赤い黄褐色シト+10YR7/4に赤い黄褐色シト地山プロック20%混		3号建物	近世	
52	31×30	楕円	14×14	22	24.39	1. 10YR5/4に赤い黄褐色シト主体 2. 10YR5/4に赤い黄褐色シト+10YR7/6明黄褐色シト地山プロック5~10ミリ大で10%混		3号建物	近世	
53	13×20	楕円	-	7	24.50	埋土 10YR5/4に赤い黄褐色シト				
54	29×35	楕円	18×15	19	24.33	1. 10YR5/4に赤い黄褐色シト主体 2. 10YR5/4に赤い黄褐色シト+2.5Y7/4浅黄シト地山プロック20%混		1号建物	近世	
55	19×18	円	11×8	-	10	24.48	1. 10YR5/4に赤い黄褐色シト主体 2. 10YR5/4に赤い黄褐色シト+10YR7/6明黄褐色シト地山プロック5%混			
56	38×32	楕円	14×8	-	20	24.60	1. 10YR5/4に赤い黄褐色シト 2. 10YR5/4に赤い黄褐色シト+2.5Y6/6明黄褐色シト地山プロック10%混			
57	13×9	円	6×8	-	30	24.34	3. 10YR5/4に赤い黄褐色シト+5ミリ大の10YR2/1黒色炭化物3%混 4. 10YR5/4に赤い黄褐色シト+10YR7/6明黄褐色シト地山プロック40%混	56>57>88		
58	16×16	円	-	6	24.32	埋土 10YR5/4に赤い黄褐色シト 浅い窪み				
59	42×44	円	14×16	24	24.32	1. 10YR5/4に赤い黄褐色シト+10YR7/6明黄褐色シト地山プロック5ミリ大で1%混 2. 10YR5/4に赤い黄褐色シト+10YR7/6明黄褐色シト地山プロック5ミリ大で50%混		3号建物	近世	

表2-7-2 遺構 柱穴

番号	縦方	平面形	柱直径	平面積 (cm)	平面積 (cm)	表面 積高(m)	埋土(1.柱敷跡2.縦方)(出土物の標高m)	表面積係 (倍>1)	遺構	年代
60	27×32	楕円	14×14	円	14	24.54	1. 10YR5.4にぶい黄褐色シルト+10YR7.6明黄褐色山ブロックシルト5%混 2. 10YR5.4にぶい黄褐色シルト+10YR7.6明黄褐色山ブロックシルト10%混			
61	15×16	楕円	-	-	6	24.63	埋土 10YR5.4にぶい黄褐色シルト			
62	13×9	楕円か	-	-	3	24.64	埋土 10YR5.4にぶい黄褐色シルト		61と62 表面不明	
63	39×29	楕円か	-	-	13	24.45	埋土 10YR5.4にぶい黄褐色シルト			
64	41×29	円	19×20	円	8	24.52	1. 10YR5.4にぶい黄褐色シルト 2. 10YR5.4にぶい黄褐色シルト+10YR7.6明黄褐色シルト山ブロック10%混			
65	23×20	円	12×13	円	11	24.44	1. 10YR5.4にぶい黄褐色シルト+10YR7.6明黄褐色シルト山ブロック10%混 2. 10YR5.4にぶい黄褐色シルト+10YR7.6明黄褐色シルト山ブロック20%混			
66	36×44	不整	14×-	-	23	24.21	1. 10YR5.4にぶい黄褐色シルト+10YR7.6明黄褐色シルト山ブロック1〜2m大で10%混 2. 10YR5.4にぶい黄褐色シルト+10YR7.6明黄褐色シルト山ブロック1〜2m大で30%混		66>5号溝	3号 建物
67	23×20	円	12×-	-	10	24.34	1. 10YR5.4にぶい黄褐色シルト+10YR7.6明黄褐色シルト山ブロック5%混 2. 10YR5.4にぶい黄褐色シルト+10YR7.6明黄褐色シルト山ブロック20%混 浅い窪み			2号 建物
68	26×21	楕円	14×14	円	12	24.30	1. 10YR5.4にぶい黄褐色シルト+5ミリ大の10YR2.1黒色炭化物1%混 埋土ブロック1片混 2. 10YR5.4にぶい黄褐色シルト+10YR7.6明黄褐色シルト山ブロック少量混		68<3号溝	2号 建物
69	36×-	円か	12×12	円	48	23.88	1. 10YR5.4にぶい黄褐色シルト+10YR7.6明黄褐色シルト山ブロック20%+2〜5ミリ大の10YR2.1 2. 10YR5.4にぶい黄褐色シルト+10YR7.6明黄褐色シルト山ブロック40%混		69<5号溝	2号 建物
70	15×17	円	-	-	9	24.33	埋土 10YR5.4にぶい黄褐色シルト 小穴			
71	37×31	楕円	15×14	円	25	24.13	1. 10YR5.4にぶい黄褐色シルト+10YR7.6明黄褐色シルト山ブロック5%混 2. 10YR5.4にぶい黄褐色シルト+10YR7.6明黄褐色シルト山ブロック20%混 浅い窪み		71と72 表面不明	3号 建物
72	21×-	円か	-	-	6	24.33	埋土 10YR5.4にぶい黄褐色シルト 浅い窪み			
73	10×10	円	-	-	18	24.30	埋土 10YR5.4にぶい黄褐色シルト 杭状			
74	27×23	円	12×11	円	27	24.20	1. 10YR5.4にぶい黄褐色シルト+10YR7.6明黄褐色シルト山ブロック5%混 2. 10YR5.4にぶい黄褐色シルト+10YR7.6明黄褐色シルト山ブロック30%混			
75	34×-	円か	10×8	円	39	24.01	1. 10YR5.4にぶい黄褐色シルト+10YR7.6明黄褐色シルト山ブロック5〜10%混 2. 10YR5.4にぶい黄褐色シルト+10YR7.6明黄褐色シルト山ブロック5〜10%混 3. 10YR5.4にぶい黄褐色シルト+10YR7.6明黄褐色シルト山ブロック5〜10%混 4. 10YR5.4にぶい黄褐色シルト+10YR7.6明黄褐色シルト山ブロック5〜10%混			3号 建物
76	34×18	楕円	-	-	13	24.34	埋土 10YR5.4にぶい黄褐色シルト+2.5Y7.4浅黄シルト山ブロック20%混			
77	11×9	円	-	-	5	24.33	埋土 10YR5.4にぶい黄褐色シルト 浅い窪み			
78	20×17	楕円	-	-	6	24.34	埋土 10YR5.4にぶい黄褐色シルト+10YR7.6明黄褐色シルト山ブロック10%混			2号 建物
79	26×22	楕円	-	-	6	24.36	埋土 10YR5.4にぶい黄褐色シルト+2.5Y7.4浅黄シルト山ブロック30%混			
80	23×20	楕円	12×11	円	21	24.24	1. 10YR5.4にぶい黄褐色シルト+10YR7.6明黄褐色シルト山ブロック1m大で20%混 2. 5Y7.4浅黄シルト山ブロック主体+10YR5.4にぶい黄褐色シルト20%混			2号 建物
81	32×24	楕円	16×16	円	31	24.04	1. 10YR4.3にぶい黄褐色シルト 2. 10YR5.4にぶい黄褐色シルト+10YR7.6明黄褐色シルト山ブロック20%混			2号 建物
82	23×21	円	-	-	14	24.28	埋土 10YR5.4にぶい黄褐色シルト+10YR7.6明黄褐色シルト山ブロック30%混 不整な窪み			
83	10×10	円	-	-	20	24.20	埋土 10YR5.4にぶい黄褐色シルト 陶器片 丸瀬布高麗1Rc (24.11)			
84	18×16	円	-	-	4	24.40	埋土 10YR5.4にぶい黄褐色シルト 本根跡で柱穴ではない 浅い窪み			
85	9×8	円	-	-	8	24.64	埋土 10YR4.3にぶい黄褐色シルト+10YR7.6明黄褐色シルト山ブロック20%+2ミリ大の10YR2.1黒 色炭化物5%混 杭跡状の小穴 かわらけ1 (24.71)			
86	28×13	円か	-	-	18	24.52	埋土 10YR5.4にぶい黄褐色シルト+10YR7.6明黄褐色シルト山ブロック1m大で20%混		48と86 表面不明	1号 建物
87	18×20	円	-	-	6	24.34	埋土 10YR5.4にぶい黄褐色シルト		87<2号溝	
88	不明	不明	-	-	(10)	24.35	5. 2.5Y7.4浅黄シルト山ブロック主体+10YR5.4にぶい黄褐色シルト10%混		56>32>88	
89	15×14	円	-	-	(22)	24.42	埋土 10YR5.4にぶい黄褐色シルト 本根跡か			
90	38×8	不明	-	-	18	24.59	埋土 10YR4.4間〜10YR5.4にぶい黄褐色シルト 前身建物の礎石面の窪み		90>1土	前身 建物 大正〜 金暦4年



第8図 柱穴・溝跡工レベション (1/80)

表3 遺構 土坑

土坑	検出長 (m)	平面形	軸線	断面形	深さ (cm)	底面標高 (m)	土色・土質	新旧関係	年代
1号土坑	東西 2.70以上× 南北 4.10	方形又は 長方形	N2°W	逆台形	65	23.98	ア 10YR5/4にぶい黄褐シルト 埋土上位 イ 10YR5/4にぶい黄褐シルト+10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック30%混 ウ 10YR5/4にぶい黄褐シルト エ 10YR5/4にぶい黄褐シルト+10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック30%混 オ 2.5Y5/3黄褐シルト 土坑底面に広がる埋土上位 灰色味が強い カ 2.5Y5/3黄褐シルト+10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック1~3cmで40%混	1土>5溝	近世～ 大正頃
2号土坑	1.35×2.20	楕円	N5°E	圓形	16	24.57	1 10YR5/4にぶい黄褐シルト+2.5Y6/6明黄褐シルト地山ブロック5%混 2 10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック+10YR5/4にぶい黄褐シルト40%混	2土>1溝	近世～ 大正頃

表4 遺構 溝跡

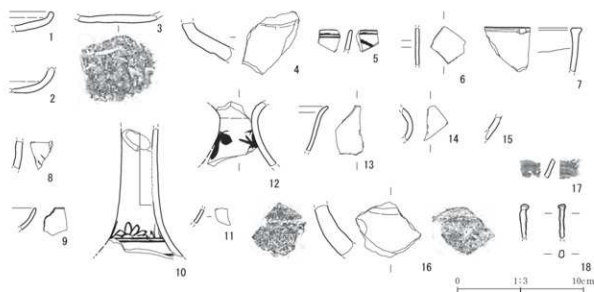
溝跡	検出長 (m)	幅 (m)	軸線	断面	深さ (cm)	底面標高 (m)	土色・土質	新旧関係	年代
1号溝	3.00	0.75	北N20°E ～南N30°E	浅い U字形	18	北24.58 南24.71	埋土 10YR5/4にぶい黄褐シルト～10YR6/3にぶい黄褐シルト主体 2ミリ大の黒色炭化物を微量含む かわらけ片・小礫少量、常滑産陶器1点出土	2土>1溝	近世～ 大正頃
2号溝	5.00	0.50	N40°W ～75°W	浅い 圓形	7	西24.61 東24.39	埋土 10YR5/4にぶい黄褐シルト	2溝>4溝> 3溝	近世～ 大正頃
3号溝	4.00	0.35	北N10°W ～東N75°W	浅い U字形	7	北24.44 東24.40	埋土 10YR5/4にぶい黄褐シルト		近世～ 大正頃
4号溝	4.00	0.35	北N3°W ～東N85°W	浅い U字形	4	北24.42 東24.40	埋土 10YR5/4にぶい黄褐シルト		近世～ 大正頃
5号溝	8.60 2.90東	0.50 0.30東	南北N2°W 東西N85°E	浅い U字形	12	北24.27 南24.46 東24.37	埋土 10YR5/4にぶい黄褐シルト主体+10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック5～1ミリ大で3～5%混	68・69< 5溝東	近世～ 大正頃
6号溝	2.45	0.35	N5°W	浅い U字形	6	北24.37 南24.34	埋土 10YR5/4にぶい黄褐シルト主体+10YR7/6明黄褐シルト地山ブロック5ミリ大で5%混	5溝76溝	17C後～ 大正頃
7号溝	2.80	0.65	N5°E	浅い 圓形	3	北24.68 南24.64	埋土 10YR5/4にぶい黄褐シルト	26～28・33-35 との新旧不明	近世～ 大正頃

表5 遺物集計表 遺構別出土遺物

土層・遺構	かわらけ			その他		
	小計	手づくね	不明		重量g	
I (1) 表土・擾乱及び遺構外一括	2		2	3	近世磁器1 (在地)、近現代陶器3、瓦質土器1、不明土器2、焼土1	
II (2) 埋土上位	2		2	3	国産陶器1 (常滑産12C)、須恵器片2、近世陶器4 (瀬戸美濃3、大瀬相馬1)、近世磁器7	
柱穴26 埋土					近世陶器1 (在地香印)	
柱穴29 柱痕跡	1	1		2		
柱穴30 柱痕跡					柱根木片少量	
柱穴33 柱痕跡					焼土2	
柱穴51 柱痕跡					焼土1	
柱穴52 柱痕跡					不明土器2	
柱穴56 柱痕跡					焼土1	
柱穴68 柱痕跡	1		1	1	焼土1	
柱穴69 埋土					土加器1	
柱穴69 柱痕跡	4	1	3	24		
柱穴75 掘方					焼土2	
柱穴83 埋土					近世陶器1 (大瀬相馬18C)	
柱穴85 埋土	1	1		7		
1号土坑 埋土					近世陶器2 (大瀬相馬18C)、焼土2、鉄片3	
1号溝 埋土		1	1	9		
2号溝 埋土		1		1	1	
5号溝 埋土					近世陶器1 (不明)、不明土器2、焼土3	
6号溝 埋土					近世磁器1 (肥前産染付磁器17C後)、鉄釘1	
合計	13	4	9	50		

表6 遺物観察表 かわらけ

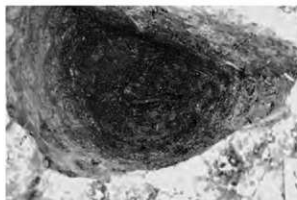
No	図版	写真	出土位置・層位	種類	法量 (推定) cm			残存率 (%)	年代	備考 (標高m)	登録	
					口径	口径	器高					
1	9	6	柱穴85 埋土	手づくね・小	-	-	-	-	破片	12C	表面風化 (24.70)	30
2	9	6	1号溝 埋土	手づくね・大	-	-	-	-	破片	12C	表面風化 (24.71)	31
3	9	6	柱穴69 柱痕跡	手づくね	-	-	-	-	破片	12C	表面風化 (24.05)	27



第9図 出土遺物 (1/3)

表7 遺物観察表 陶磁器 その他

No	図版	写真	出土位置・層位	種類	器形	部位	残存率	年代	備考	登録	
4	9	6	全体層序Ⅱ	2層	陶器	甕	肩	破片	12C	常滑	19
5	9	6	全体層序Ⅱ	2層	磁器	碗	口縁～体	破片	18C	肥前 内外染付	2-2
6	9	6	1号土坑	埋土	陶器	瓶	体	破片	18C	大瀬相馬	3-1
7	9	6	柱穴26	埋土	陶器	香炉	口縁～体	破片	18C	在地	14
8	9	6	5号溝	埋土	陶器	皿	体	破片	近世	産地不明	17
9	9	6	柱穴83	埋土	陶器	皿	口縁～体	破片	18C	大瀬相馬	24
10	9	6	6号溝	埋土	磁器	瓶	頸～体	破片	17C後	肥前染付 花卉文様	25
11	9	6	1号土坑	埋土	陶器	碗皿	体	破片	18C	大瀬相馬	46
12	9	6	遺構外	一括	磁器	瓶	頸～体	破片	近世	在地鉄絵 産地不明	52-1
13	9	6	遺構外	一括	陶器	碗	口縁～体	破片	19C	大瀬相馬	52-2
14	9	6	遺構外	一括	陶器	瓶か	体	破片	19C	大瀬相馬	52-3
15	9	6	柱穴69	埋土	土師器	環	体	破片	9～10C		26
16	9	6	全体層序Ⅱ	2層	須恵器	甕	頸～肩	破片	9～10C		2-1
17	9	6	北側検出	2層	須恵器	環	体か	破片	9～10C		7
18	9	6	6号溝	埋土	鉄釘	角釘	-	破片	不明	残存長2.4・幅0.6・厚さ0.5cm 重量1.4g	18



2号建物柱穴69柱痕跡かわらけ3出土 (西から)



6号溝肥前染付磁器瓶10出土 (北西から)

写真図版3 遺物出土状況



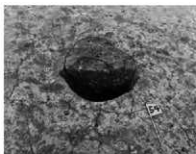
遺構検出作業（西から）



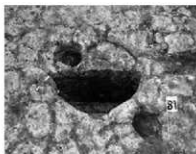
掘立柱建物跡（西から）



調査区東壁断面（西から）



1号建物柱穴54断面（南から）



2号建物柱穴81断面（南から）



3号建物柱穴51断面（南から）



1号土坑北側断面（南から）



2号土坑完掘（南西から）

写真図版4 遺構検出及び完掘

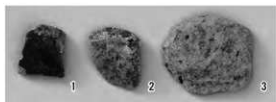


5号溝完掘（北から）

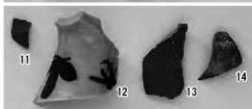
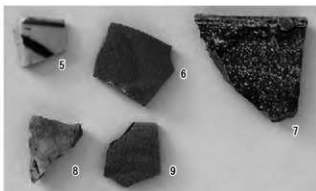


調査区北側の溝跡（東から）

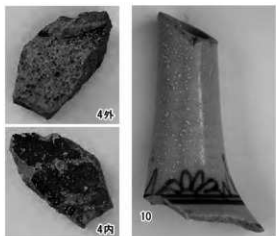
写真図版5 溝跡



1～3かわらけ

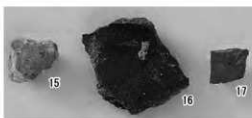


5～14近世陶磁器



4常滑産斐

10肥前染付磁器瓶



15土師器 16・17須恵器



18鉄釘

写真図版6 出土遺物

## 国衡館跡第16次発掘調査

### 1 調査要項

地 点	岩手県西磐井郡平泉町平泉字倉町135番1
調査面積	66㎡
調査期間	令和4年6月6日～7月1日
原 因	住宅建築
調査担当	藤田崇志・菅原計二

### 2 位置と概要

調査地点は町立平泉中学校校門の西隣に位置する住宅地で、国の特別史跡毛越寺境内の山門から南東約300mに当たる。当地の地形は、北上川支流太田川左岸の沖積地が自然沢により浸食された舌状台地の一部で、平泉小学校の東側から発する沢の流路が当地の北と東側を開削して南の太田川の低地に至る。この沢は昭和40年代まで開削していたが、昭和50年頃に東北新幹線一関トンネル工事で派生した礫によって沢全体が埋められている。当地については近世の風土記御用書上（安永風土記）や古絵図等の史料に、「南大門の南に国衡やしき」、「クニヒラヤシキ」、「八花形」等の記載が見られ、奥州藤原氏三代秀衡公の嫡男国衡の屋敷跡とも伝わる。本調査は住宅予定地に逆T字形のトレンチを設定して重機で遺構確認面まで掘り下げた後、人力による遺構検出と精査を行った。調査の結果、切土された平坦な地山面と調査区北側と東側から沢の落込みを検出した。沢は昭和50年以降の厚い盛土に被われており、近年まで自然地形の沢が開削していたことが分った。調査区中央から南側にかけは住宅解体の混乱を含む厚さ40cmほどの盛土が覆い、切土された地山面から昭和30～40年代の掘立柱建物の一部とみられる少数の柱穴や土坑、溝跡を検出した。土坑は埋土の様相から新しい掘り込みで、溝跡は沢に向かう流路とみられる。今回の調査区では12世紀の遺構は確認されなかった。遺物は風化した12世紀のかわらけ片少量と近現代の陶磁器、瓦、踏鉄、ガラス片等の雑物が少量出土した。以下は経過である。6月6日、重機による掘削作業。調査区の北側と東側で沢跡とみられる落



第1図 位置図 (1/5,000)



込みを検出。7日から発掘資材の搬入と残土除去と粗掘り。その後、遺構検出と精査、実測を並行して行い、22日に遺構の清掃と全体写真撮影・資材搬出、24日に補足的な実測、7月1日に埋戻しを行い、現地での調査を終了した。

### 3 調査成果

#### (1) 地形と土層 (第2図・第6・7図)

本調査区の地形は舌状台地東端が自然沢により開削された狭小な平場の先端で北から東を沢地形が巡り、南は太田川河岸の低地に至る斜面地である。標高は現状で北端26.30m、南西端26.48m、南東端26.20mである。当地の土層は南北トレンチの東・西・北壁の三面と、東西トレンチの南壁並びに南側トレンチで観察した。Ⅰ(1・1-1～1-2)は客土で昭和以降の盛土や攪乱が入る。Ⅱ(2・2-1～2-2)は切土盛土で近世や近現代の陶磁器や雑物が混じる。Ⅲ(3・3-1～3-4)は切土された地山直上の黄褐色シルトの層位、Ⅳ(4・4-1～4-5-4)は1号溝(沢跡)の埋土である。Ⅴ(5・5-1・5-2)は調査区南側の客土と田表土の上位と下位、Ⅵ(6)は地山である。地山は検出地点により灰白シルトや砂質主体の地層がみられる。

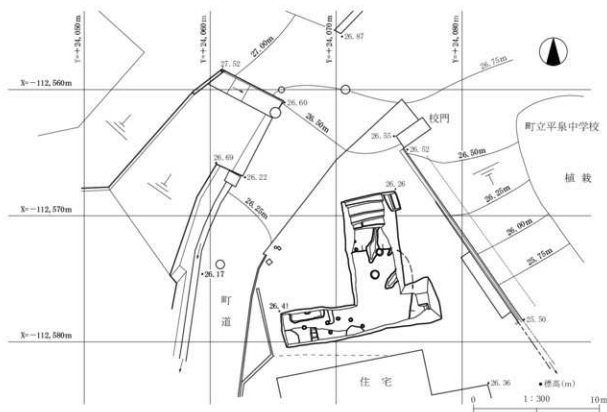
#### (2) 遺構と遺物 (第3図)

遺構は調査区の北側と東側で旧地形の沢跡の落込みを検出し、1号溝とした。調査区中央の平坦面と北側落込みにかけて柱穴10個、北東側で溝跡2条、土坑2基を検出した。遺物は、かわらけ片少量、近現代陶磁器、雑物(ガラス瓶等)が少量出土した。

#### 溝跡

沢跡を含めて3条を検出した。

**沢跡(1号溝)** 南北トレンチの北側で東西方向、東西トレンチの東側で南北方向に向かう沢跡の落込みを検出した。検出長4m以上、溝幅不明、深さ2m以上を測る。沢跡は当地の地山削平面から

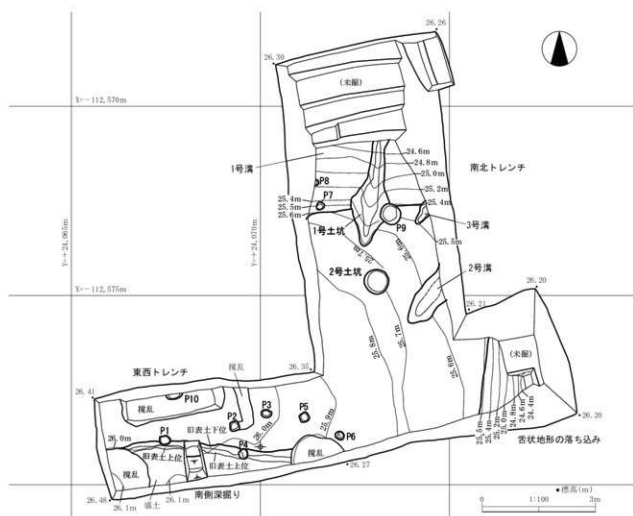


第2図 調査区周辺地形図 (1/300)

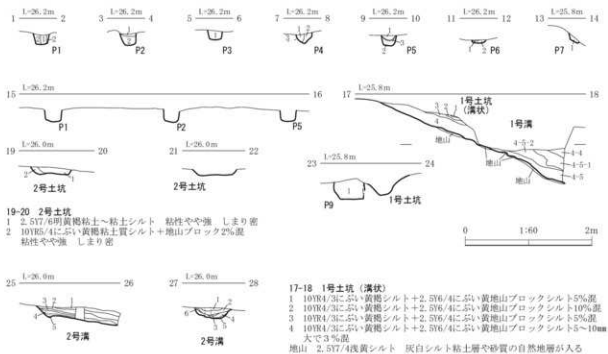
40～45度の急傾斜で北と東に落ち込み、埋土は下位がオリーブ褐シルト主体で地山ブロックが少量混入する斜面堆積土。上位は黄褐～オリーブ褐シルト主体で埋土にガラス瓶等が混入する。当地の沢は住宅地の周囲に昭和40年代まで開口していたが昭和50年頃に埋め立てられており、住宅地のかさ上げを目的とした切土盛土による客土で造成が行われた様相である。今回の調査範囲は沢跡の部分的な掘削に止まったため、岩盤掘削の派生礫を埋め立てた層位には到達していない。

**2号溝・3号溝** 調査区北東側から東壁で検出した。2条の溝跡は共にN40°Eの軸線で北東方向に傾きを持ち、溝跡の中心で1.50mの間隔を持って並行する。2号溝は検出長2.00m、溝幅65cm、深さ18cmで、埋土は上位がにぶい黄褐シルト、中位が黄褐シルト主体で地山ブロックシルトが混入し、中位と下位には酸化鉄分をやや多く含む。下位は浅黄粘土主体である。3号溝は検出長70cm、溝幅36cm、深さ14cmを測り、断面形は浅いU字形である。埋土はにぶい黄褐シルト主体である。いずれも出土遺物は無く、年代は不明である。2号溝と3号溝の2条は埋土の様相から沢跡に注ぐ流路とみられるが、国衙館跡第7次調査で沢地形に下る小規模な「通路跡」の両側に各々側溝が付く検出例があり、これと同様に通路に伴う側溝の可能性を想定しておくたい。

**柱穴** 南側の地山平坦面と北側の1号溝の落込みにかけて10個の柱穴を検出した。柱穴は直径16～26cm程で円形もしくは楕円形を呈し、深さは10～40cmを測る。この内、調査区南西側で東西方向に並ぶ柱穴1・2・5は小規模な建物跡の一部とみられる。地権者の母の話では、長島地区から夫婦で当地に移り住み、昭和30年代には当地にマヤと呼ぶ建物を建てて1頭のウシを飼っていたとのことである。昭和39年作製の平泉町都市計画図(第8図)に南北棟の建物が描かれており、上記の建物



第3図 調査区平面図 (1/100)



- 19-20 2号土坑  
 1 2.5Y7/6明黄褐色粘土～粘土シルト 粘性やや強 しまり密  
 2 10YR5/4にぶい、黄褐色粘土質シルト+地山ブロック2%混 粘性やや強 しまり密
- 25-26 27-28 2号溝  
 1 10YR4/3にぶい、黄褐色シルト  
 2 2.5Y5/3黄褐色シルト+2.5Y6/4にぶい、黄地山ブロックシルト20%混  
 3 2.5Y5/3黄褐色シルト+10YR6/6明黄褐色酸化鉄分15~20%混  
 4 2.5Y5/3黄褐色シルト主体  
 5 2.5Y6/4にぶい、黄地山ブロックシルト+10YR6/6明黄褐色酸化鉄分10%混  
 6 2.5Y7/4浅黄地山ブロックシルト+2.5Y5/3黄褐色シルト30%混

第4図 断面図1 (1/60)

表1 柱穴

No.	掘方 (cm)	平面形	柱痕跡 (cm)	平面形	深さ (cm)	底面標高 (m)
1	26×26	円	10	円	19	25.78
2	25×25	方形	-	-	25	25.77
3	22×18	円	-	-	14	25.86
4	21×24	方形か	-	-	21	25.79
5	25×23	方形	-	-	18	25.77
6	21×21	楕円	12	円	8	25.80
7	22×20	楕円	-	-	17	25.41
8	14×-	円	-	-	38	25.02
9	52×53	円	-	-	32	25.22
10	46×-	円か	-	-	9	25.71

表2 溝跡

遺構名	検出長 (cm)	幅 (cm)	断面形	深さ (cm)	底面標高 (m)
1号溝	400以上	不明	不明	130以上	24.32
2号溝	200	65	U字形	18	西25.70 東25.42
3号溝	70	36	U字形	14	25.38

表3 土坑

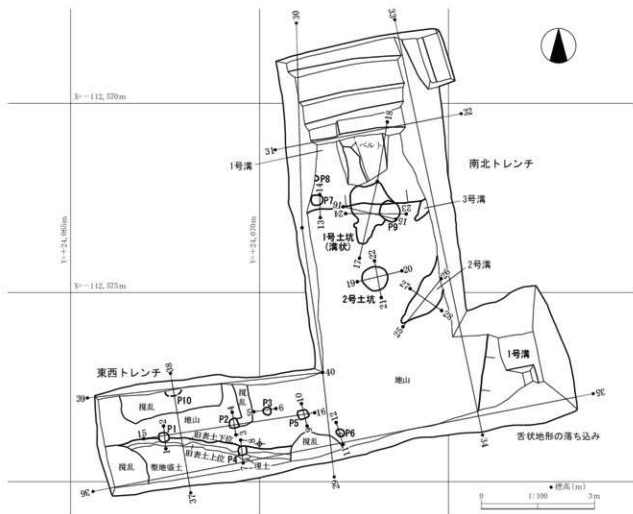
遺構名	検出長 (cm)	平面形	断面形	深さ (cm)	底面標高 (m)
1号土坑 (溝状)	260×100	楕円又は 菱形	U字形	-	25.68南 24.34北
2号土坑	65×65	円形	U字形	13	25.63



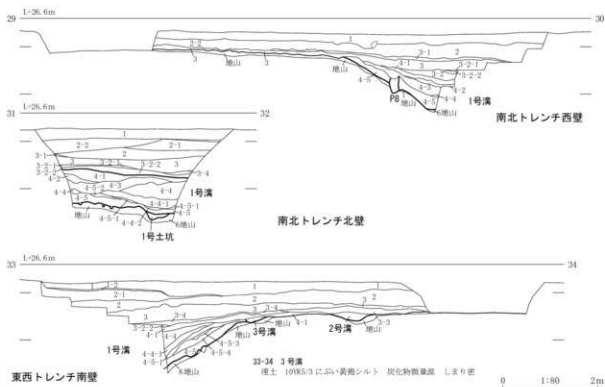
写真図版1 沢跡南東側の落ち込み (北から)



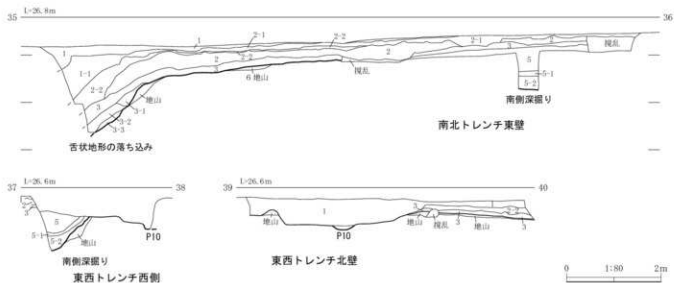
写真図版2 北東側の遺構と1号溝 (東から)



第5図 測点位置図 (1/100)



第6図 断面図2 (1/80)



第7図 断面図3 (1/80)

17-181号溝 29-30西壁 31-32北壁 33-34東壁 35-36南壁

- 1 10YR4/4褐シルト しまりやや礫 1~5cm大の礫多く含む 現代客土
- 1-1 10YR5/8黄褐シルト しまりやや密+10~100ミリ2.5Y6/4にぶい黄地山ブロック10~15% 10~30ミリ礫少量混 現代客土
- 1-2 10YR2/1黒色 アスファルト片 現代客土
- 2 2.5Y6/4にぶい黄~2.5Y7/4浅黄粘土地山ブロック主体+2.5Y4/4オリーブ褐シルト5~10%混 しまり密 切土盛土
- 2-1 2.5Y7/4浅黄粘土地山ブロック+2.5Y4/4オリーブ褐シルト30%混+2.5Y5/6黄褐シルト1%混 しまり密 切土盛土
- 2-2 2.5Y7/4浅黄~2.5Y6/4にぶい黄粘土シルト+2.5Y3/2黒褐シルトがブロック状に入る 炭化物微量混 しまりやや密 切土盛土
- 3 2.5Y5/4黄褐シルト+炭化物微量混 しまり密
- 3-1 2.5Y5/6黄褐シルト+炭化物微量混 しまり密
- 3-2 2.5Y5/6黄褐シルト+2.5Y3/2黒褐シルト1%混 炭化物微量混 しまり密
- 3-2-1 2.5Y7/4浅黄シルト しまり密+2.5Y5/4黄褐シルトブロック30%混
- 3-2-2 2.5Y5/4黄褐シルト しまり密+2.5Y7/4浅黄シルト1% 炭化物微量混
- 3-3 2.5Y5/6黄褐シルト しまりやや密+2.5Y6/4にぶい黄地山ブロック1% 炭化物微量混
- 3-4 2.5Y7/4浅黄シルト地山ブロック+灰黄褐シルト50%混 3-2-1に似る
- 4 1号溝埋土
- 4-1 2.5Y4/4オリーブ褐シルト しまり密+2.5Y6/4にぶい黄地山粒1% 炭化物微量混
- 4-2 2.5Y5/4黄褐シルト しまり密+2.5Y7/4浅黄地山粘土ブロック5~10% 炭化物微量混
- 4-3 2.5Y4/4オリーブ褐シルト しまり密+炭化物微量混
- 4-4 2.5Y4/4オリーブ褐シルト しまり密+2.5Y6/4にぶい黄地山ブロック40%混
- 4-4-1 2.5Y4/3オリーブ褐シルト しまり密+2.5Y6/4にぶい黄地山ブロック15~20% 炭化物微量混
- 4-4-2 2.5Y7/4浅黄地山ブロック粘土主体
- 4-5 10YR4/4褐~10YR5/3にぶい黄褐シルト主体+2.5Y7/4浅黄地山ブロック1% 炭化物 鉄分微量混 しまり密
- 4-5-1 2.5Y4/4オリーブ褐~10YR5/3にぶい黄褐シルト+2.5Y6/4にぶい黄地山ブロックシルト1~30% 炭化物微量混 しまり密
- 4-5-2 2.5Y4/4オリーブ褐~10YR5/3にぶい黄褐シルト+2.5Y7/4浅黄地山ブロックシルト1~10% 炭化物1%混 しまり密
- 4-5-3 10YR4/4褐シルト しまり密+炭化物微量混
- 4-5-4 10YR4/4褐シルト しまり密+2.5Y7/4浅黄地山粒1% 炭化物微量混
- 5 2.5Y6/4にぶい黄粘土シルト主体 しまり密+2.5Y5/6黄褐シルト1%混 炭化物微量混 南壁客土 (昭和40年代以降)
- 5-1 2.5Y4/3オリーブ褐シルト しまり密 田表土上位
- 5-2 2.5Y4/6オリーブ褐シルト しまり密 炭化物微量混 田表土下位
- 6 2.5Y6/3にぶい黄シルト~2.5Y7/4浅黄粘土 地山



写真図版3 舌状台地平坦面の遺構と沢跡(東から)



第8図 昭和39年平泉町都市計画図

と推定される。これらの柱穴の埋土は、にぶい黄粘土からシルト主体で黄褐シルトや暗褐シルトが5%程混入するものと、オリーブ褐や黄褐シルトが主体のもの、地山ブロック主体の掘方埋土に黄褐シルトが混入するものがある。いずれも粘性が強くしまりは密だが、埋土の様相からいずれも昭和30年代以降の建物に伴う痕跡と判断した。柱穴3・4・6の埋土も同様で同一建物の補助的な柱と思われる。柱穴7・8・9は北側斜面上に位置する。柱穴7・8の埋土は褐シルト主体、柱穴9は直径52cm、深さ32cmを測る比較的大きな掘方で、黄褐シルト主体で地山ブロックと炭化物が微量混入するが柱痕跡は認められず、年代・性格共に不明である。1号土坑（溝状）との新旧は不明である。柱穴10は攪乱直下で検出した。記録前に埋土が失われ、内容は不明である。

**土坑** 2基を検出した。1号土坑は東西約1m、南北2.60m以上の楕円形又は菱形を呈し、当初土坑の名称を与えたが北側の沢に落ち込む自然流路と判明した。埋土はにぶい黄褐シルト主体で地山ブロックが少量混じる。出土遺物が無く年代は不明である。2号土坑は直径65cmの円形で、深さ13cmの浅いU字形に掘り込まれる。埋土は明黄褐粘土と地山ブロック主体で昭和30～40年代以降の掘り込みと判断した。

### (3) 遺物

かわらけ15片、近世から昭和40年代頃の陶磁器片と瓦、鉄製品(踏鉄)やガラス瓶等が少量出土した。かわらけはいずれも風化した小片で12世紀と推定されるが、実測可能なものはない。陶磁器は18世紀の陶器1片を含むが、これは昭和40年代以降の自然沢に堆積した新しい埋土から出土した。

## 4 まとめ

調査地点は「八花形(やつはながた)」と呼ばれる太田川左岸の沖積台地の一部で、自然沢が開削した舌状台地の東端に位置する。今回の調査で狭小な舌状台地の平坦面北側と東側で自然沢の落込みを検出した。削平を受けた地山平坦面では、昭和30～40年代の建物跡とみられる少数の柱穴、北東側では沢跡に下る小規模な溝跡と土坑を検出した。遺物は風化したかわらけ15片と近世以降の陶磁器や雑物が少量出土したが、12世紀の遺構は確認されなかった。出土したかわらけ片は当地周辺に存在した遺構や堆積土から移動した可能性がある。



写真図版4 国衛館跡第16次調査区全体(北から)

# 伽羅之御所跡第31次発掘調査

## 1 調査要項

地点	岩手県西磐井郡平泉町平泉字伽羅薬68-3
調査面積	61㎡
調査期間	令和4年4月18日～5月20日
原因	住宅新築
調査担当	藤田崇志・鈴木博之

## 2 遺跡の位置（第1図）

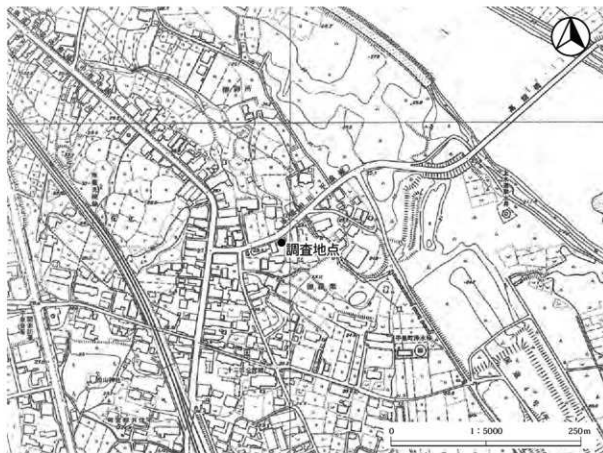
### 概要

伽羅之御所跡は、三代秀衡の日常の住まいとされた「伽羅御所」があったと推定されている遺跡である。「伽羅御所」の範囲は明らかではないが、地形や地名、伝承などから周知の埋蔵文化財包蔵地である「伽羅之御所跡」として範囲を定めている。遺跡は東側に猫間が淵跡、北～西側を無量光院跡、白山社遺跡、南側を鈴沢の池跡と接し、過去の発掘調査では四面庇建物（7・20次）、総柱の掘立柱建物（25次）や、和鏡と鏡箱がセットで出土した井戸跡（5次）等を検出している。

調査地点はJR平泉駅の北約600mに位置し、標高は概ね23m、遺跡範囲の北東端にあたる。調査前の現況は宅地で、南の隣接地では昭和20年代に土取りした際に12世紀の軒平瓦が見つかった。

## 3 基本土層

I層：表土 10YR3/2黒褐シルト 現代の擾乱



第1図 位置図

- Ⅱ層：整地層 25Y6/6明黄褐シルト 近年の宅地としての造成土  
 Ⅲ層：耕作土 10YR3/4暗褐色シルト 近～現代の旧表土、耕作土か  
 Ⅳ層：堆積土 10YR3/4暗褐色シルト 12世紀の遺物を含む堆積土  
 V層：地 山 25Y7/6明黄褐粘土 一部鉄分を層状に含む  
 VI層：地 山 5Y6/2灰オリブ粘土 グライ化

#### 4 調査概要

重機により概ねⅣ～Ⅴ層まで掘削し、人力により遺構検出及び精査を行った。調査区は北から南に傾斜しており、調査区南部には12世紀とみられる遺物を少量ながら含むⅣ層が広がっていた(第2図)。遺構は全てV層上面で検出した。

検出遺構：土坑6基、焼土遺構1基、柱穴1基を検出した。個々の属性は表のとおりである。

##### (1) 土坑

6基検出した。5号土坑以外は近世の墓塚と考えられる。

遺構名	平面形	検出規模(m)	断面形	深さ(cm)	検出標高	底面標高	出土遺物等
1号土坑	不整形	1.05×0.95	方形	75	22.83～22.85	22.08～22.10	棺桶 銭 ガラス瓶
2号土坑	不整形	1.63×1.20	皿状	32	22.86～22.96	22.60～22.57	かわらけ 常滑片 古瓦 鏡 寛永通宝 ガラス片
3号土坑	不整形	1.04×1.02	逆台形	116	22.84～22.87	21.68～21.70	かわらけ 磁器 古瓦 煙管 羽口 寛永通宝 銭 ガラス瓶片
4号土坑	方形	0.90×1.08	逆台形	84	22.72～22.80	21.93～21.96	寛永通宝 ガラス瓶片
5号土坑	方形	0.40×0.32	方形	19	22.82～22.82	22.62～22.63	無
6号土坑	不整形	1.08×1.00	逆台形	84	22.85～22.91	22.03～22.06	かわらけ 煙管 ガラス瓶

**1号土坑(第3図、写真図版1・4)** <位置>調査区北端に位置し、上端の一部が調査区外に延びる。<埋土>上位がぶい黄色粘土を主体とし、中位は褐色土シルト、下位は浅黄色～グライ化した灰オリブ色の粘土シルトで構成される。底面から後述する棺桶が出土したものの陥没・崩壊的な堆積ではなく、上位から人為的に埋め戻されていることから、改葬されたと考えられる。上層からガラスが出土しており、改葬時期を示すものと思われる。また、この改葬は近接する6号土坑と一括で行われ、連続する同一層によって埋め戻されたため、新旧関係は不明である。<出土遺物>底面より棺桶の底及び側面の一部が出土した。上層からガラス瓶片、下層からは時期不明の固着した鉄銭(No16)が出土した。<所属時期>ガラス片が出土したが、改葬時に混入したものであり、底面の棺桶及び鉄銭から、近世に帰属する墓塚と考えた。

**2号土坑(第3図、写真図版1・2)** <位置>調査区中央に位置する。<埋土>上位が暗褐色の粘土シルトを主体とし、中位は明黄褐色粘土に暗褐色粘土シルトが混じる。下位はオリブ灰粘土で、砂質シルトが混じる。上位層は1号土坑と同様に改葬に伴う人為堆積である。<出土遺物>埋土中よりかわらけ、常滑片(No1)、平瓦(No8)、鉄(No13)、鏡(No14)、銅銭5点(No17～21)、漆膜、ガラス瓶が出土した。<所属時期>現代の遺物が混じるが、改葬時に混入したものであり、鏡・銅銭の出土状況から近世に帰属する墓塚と考えた。

**3号土坑(第4図、写真図版2)** <位置>調査区中央に位置する。<埋土>上位が暗褐色の粘土シルトを主体とし、中位は明黄褐色粘土にV層ブロックが混じる。下位はオリブ褐色粘土で、V層ブロックが混じる。いずれも人為堆積である。1号土坑と同様に上位から人為的に埋め戻されていることから、改葬されたと考えられる。また、この改葬は近接する4号土坑と一括で行われ、連続する同一層によって埋め戻されたため、新旧関係は不明である。<出土遺物>埋土中よりかわらけ、渥美片(No2)、瓦(No9)、羽口片(No11)近～現代磁器、瓦(No9)、煙管(No15)、寛永通宝(No22～24)、鉄銭(No25)ガラス瓶、底面より棺桶の一部とみられる木製品が出土した。<所属時期>現代の遺物が含まれているが、改葬時に混入したものであり、寛永通宝の出土等から近世に帰属する墓塚と考えた。

**4号土坑(第4図、写真図版2)** <位置>調査区中央に位置する。<埋土>上位が暗褐色の粘土シル



トを主体とし、中位は明黄褐色粘土にV層ブロックが混じる。下位はオリープ褐色粘土で、V層ブロックが混じる。いずれも人為堆積である。1号土坑と同様に上位から人為的に埋め戻されていることから、改葬されたと考えられる。また、この改葬は近接する3号土坑と一括で行われ、連続する同一層によって埋め戻されたため、新旧関係は不明である。〈出土遺物〉埋土中より常滑片(No.3)新寛永通宝(No.26)が出土し、ほかにガラス瓶、空き缶などの現代遺物が出土したが、改葬時に混入したものである。〈所属時期〉現代の遺物が含まれているが、改葬時に混入したものであり、寛永通宝の出土等から近世に帰属する墓塚と考えた。

**5号土坑(第5図、写真図版2)**〈位置〉調査区北端に位置し、一部は調査区外に延びる。〈埋土〉にぶい黄色粘土シルトで、いずれも人為堆積である。〈出土遺物〉無。〈所属時期〉不明。

**6号土坑(第3図、写真図版1・5)**〈位置〉調査区北端に位置する。〈埋土〉上位がにぶい黄色粘土を主体とし、中位は褐色土シルト、下位は浅黄色～グライ化した灰オリープ色の粘土シルトであり、いずれも人為堆積である。1号土坑と同様に上位から人為的に埋め戻されていることから、改葬されたと考えられる。また、この改葬は近接する6号土坑と一括で行われ、連続する同一層によって埋め戻されたため、新旧関係は不明である。〈出土遺物〉底面より棺桶の底及び側面の一部が出土した。埋土よりかわらけ、煙管(No.12)、ガラス瓶が出土している。〈所属時期〉現代の遺物が含まれているが、改葬時に混入したものであり、煙管の出土等から近世に帰属する墓塚と考えた。

## (2) 柱穴

遺構名	平面形	検出規模(m)	断面形	深さ(cm)	検出標高	底面標高	出土遺物等
柱穴1	円形	0.34×0.22	圓状	8	22.66~22.67	22.56~22.59	無

**1号柱穴(第2・5図、写真図版2)**：調査区東端に位置する。〈埋土〉V層ブロックの少量混じった暗褐色シルトの単層で、検出時には直上に被熱した礫が乗っていた。〈出土遺物〉なし。〈所属時期〉不明。

## (3) 焼土遺構

遺構名	平面形	検出規模(m)	断面形	深さ(cm)	検出標高	底面標高	出土遺物等
焼土遺構1	方形	0.25×0.30	圓状	6	22.69~22.73	-	無

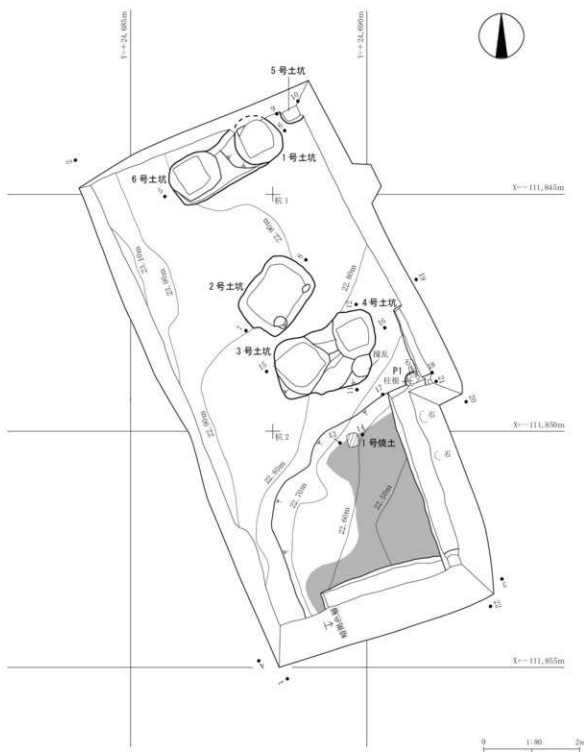
**1号焼土(第2・5図、写真図版2)**：調査区南部に位置する。〈埋土〉褐色シルトの単層で、炭化物粒とV層ブロックを含む。〈出土遺物〉なし。〈所属時期〉不明。

**出土遺物**：かわらけ細片が少量、国産陶器6点(常滑・渥美各3点)、瓦3点、煙管2点、銅鏡1点、鉄製品1点、寛永通宝9枚、鉄銭5枚、羽口1点が出土し、かわらけ以外はすべて掲載した。この他に、棺桶の部材、板石(総重量2981.63g)、近現代磁器やガラス瓶等が出土した。明確に遺構に帰属するものは近世墓塚に伴う、鏡・煙管・鍔・銭貨であり、12世紀に帰属する遺物は墓塚の改葬時の攪乱もしくは表土中から出土した。

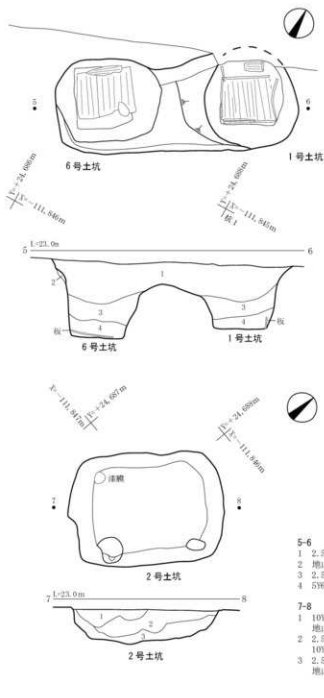
## 5 まとめ

今回の調査では、調査区北側から中央にかけて近世の墓塚である土坑1~4、6号土坑を検出した。各墓塚からは棺桶や副葬品である寛永通宝、手鏡の出土があったが、上位から攪乱が著しく入りガラス瓶等の現代遺物が混入していたことから、近～現代にかけて改葬を施したものである。また、調査区南東側では、遺跡北側に所在する猫間が淵の低地につながる斜面肩部があり、猫間が淵の範囲

を考える上で貴重な位置情報を得ることができた。今回の調査では12世紀に帰属する遺構は確認されなかったが、かわらけ細片や国産陶器片、平瓦の出土が確認された。恐らく、斜面上位に位置する無量光院跡から流れ込んだものと思われる。



第2図 伽羅之御所跡第31次全体図



6・1号土坑全景



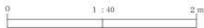
1号土坑底面

5-6

- 1 2.5Y6/4いぶい黄粘土シルト 粘性強 しまり密 10YR3/2黒褐色ブロック2%含
- 2 地山
- 3 2.5Y7/3浅黄粘土シルト 粘性強 しまりやや密
- 4 5Y6/2灰オリブ粘土シルト 粘性強 しまりやや疎  $\phi 1\sim 3mm$ 礫1% 木片含

7-8

- 1 10YR3/4暗褐色粘土シルト 粘性強 しまりやや密  
地山ブロック ( $\phi 2\sim 5cm$ ) 3%
- 2 2.5Y6/6明黄褐色粘土ブロック主体 粘性強 しまりやや密  
10YR3/4暗褐色粘土ブロック ( $\phi 10cm$ ) 20%
- 3 2.5Y4/3オリブ褐色粘土 粘性強 しまり密  
地山ブロック ( $\phi 1\sim 5cm$ ) 20%

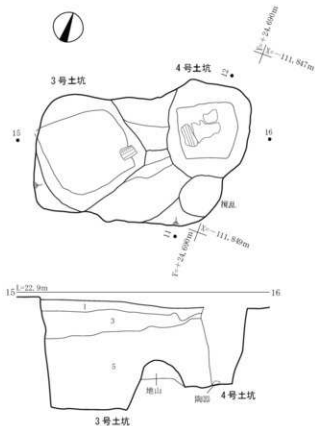


第3図 1・2・6号土坑

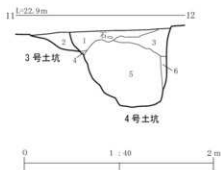
第1表 国産陶器観察表

( ) 残存値

No	図版	写真 図版	出土位置・層位	種類	器種	部位	年代	備考	登録No
1	6	3	2号土坑 1層	常滑	甕	胴部	12c		18
2	6	3	3・4号土坑 5層	瀬美	甕	胴部	12c		46-1
3	6	3	4号土坑 5層	常滑	甕	胴部	12c		61.64-1
4	6	3	表土	常滑	甕	底部	12c		1-1
5	6	3	表土	瀬美	甕	胴部	12c		1-2
6	6	3	褐色土層	瀬美	甕	胴部	12c		2-2



3・4号土坑全景



11-12・15-16

- 1 10YR3/4暗褐粘土 粘性強 しまりやや密 地山ブロック(φ5~20mm)30%
- 2 2.5Y6/4にぶい黄粘土 粘性強 しまり密 10YR3/4暗褐粘土ブロック(φ5~10mm)2%
- 3 2.5Y6/4にぶい黄粘土 粘性強 しまりやや密 地山ブロック(5~30mm)40%
- 4 10YR/4褐粘土 粘性強 しまりやや密
- 5 5G6/1オリーブ灰粘土 粘性強 しまりやや密 グライ化(7.5Y5/2灰オリーブ砂質粘土シルト)30%含
- 6 2.5Y6/4にぶい黄粘土 粘性強 しまりやや疎 10YR3/4暗褐粘土ブロック20%含

第4図 3・4号土坑

第2表 近世陶器観察表

No	図版	写真 図版	出土位置・層位	種類	器種	部位	年代	備考	登録No
7	6	3	表土	陶器	香炉	口縁部	近世	美濃産	1-3

第3表 瓦観察表

No	図版	写真 図版	出土位置・層位	種類	法 量 (cm)			重量(g)	色調	備考	登録No
					長さ	幅	厚さ				
8	-	3	2号土坑 埋土	平瓦	<3.4>	<3.0>	<0.8>	8.4	7.5YR7/4にぶい 橙	中世 凹面に布目 剥離激しい	14-2
9	-	3	3号土坑 埋土	不明	<4.0>	<3.9>	<2.4>	29.1	7.5YR7/4にぶい 橙	中世 小片 剥離激しい	17-2
10	-	3	南東部褐色土区	平瓦か	<4.0>	<3.5>	<0.9>	16.6	7.5YR6/4にぶい 橙	中世 凸面に縄目 剥離激しい	66-2

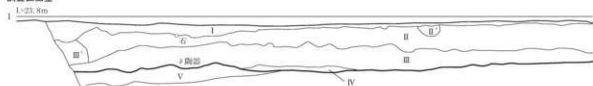
第4表 羽口観察表

No	図版	写真 図版	出土位置・層位	法 量 (cm)			重量(g)	備考	登録No
				長さ	幅	厚さ			
11	-	-	3号土坑 1~3層	3.2	3.0	1.9	13.1		57-2

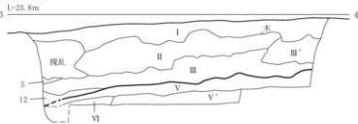
第5表 金属製品観察表

No	図版	写真 図版	出土位置・層位	種類	法 量 (cm)			重量(g)	備考	登録No
					長さ	幅	厚さ			
12	6	3	6号土坑 崩落層	銅 棒管	<8.1>	0.9	0.2	3.1	火皿は欠損	21
13	6	3	2号土坑 埋土	鉄 鉄	<11.8>	3.3	1.3	26.7	留め具有り 箱底版の本貫付着	15
14	6	3	2号土坑 埋土	銅 籠	<8.1>	7.4	0.3	28.2	表面に布付着 表面に縄の文様	13-1
15	6	3	3・4号土坑 5層	銅 棒管	<4.0>	1.0	0.2	1.5	火皿は欠損 何かの付着物	46-5

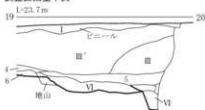
調査区西壁



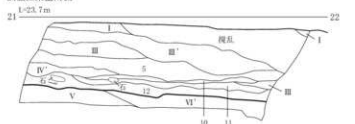
調査区南壁



調査区東壁中央



調査区東壁南側



5号土坑



17号土坑



1号焼土



基本層序 (1-2・3-4・19-20・21-22)

- I 101R3/2黒褐色シルト 粘性ややなし しまりやや密 炭化物粒1%  
φ5~30mm小礫含
- II 2.5V6/6明黄褐色 粘性強 しまり密 101R4/4褐色土ブロック3%含
- II' 2.5V6/4(ふい)黄 粘性強 しまり密 I層ブロック20%含 覆乱?  
φ5~30mm礫含
- III 101R3/4暗褐色 粘性やや強 しまり密 II層ブロック5%含  
φ5~30mm礫含
- III' 101R4/4褐色シルト 粘性ややなし しまりやや密 3層ブロック50%含
- IV 101R3/4暗褐色 粘性やや強 しまりやや密 II層ブロック40%含
- IV' 101R4/4褐色シルト 粘性やや強 しまり密 小礫含
- V 2.5V6/6明黄褐色シルト 粘性強 しまり密 堆山  
5V6/1オリーブ灰一部分グライ化
- V' 2.5V6/6明黄褐色シルト 粘性強 しまり密 堆山
- VI 5V6/2灰オリーブ粘土 粘性強 しまり密 炭化物粒1%

9-10

- 1 2.5V6/4(ふい)黄粘土シルト 粘性強 しまりややなし
- 101R3/2黒褐色粘土ブロック1%
- 2 2.5V6/4(ふい)黄粘土シルト 粘性強 しまりややなし
- 101R3/2黒褐色粘土ブロック3%

3-4・19-20・21-22

- 4 2.5V7/6明黄褐色粘土 粘性強 しまり密
- 5 2.5V7/4明黄褐色粘土シルト 粘性やや強 しまり密  
暗褐色土ブロック3%含 φ5~30mm礫含 炭化物微量
- 6 101R3/4暗褐色シルト 粘性やや強 しまり密
- 7 2.5V7/4明黄褐色粘土 粘性強 しまり密 暗褐色土ブロック3%含
- 10 5V3/2オリーブ集シルト 粘性やや強 しまり密 堆山ブロック1%含
- 11 5V2/2オリーブ集シルト 粘性やや強 しまり密 堆山粒1% 炭化物粒1%含
- 12 5V3/2オリーブ集シルト 粘性やや強 しまり密 褐色土ブロック1%  
堆山ブロック1%含

17-18

- 1 101R3/4暗褐色シルト 粘性あまりなし しまり密
- 堆山(101R3/4(ふい)黄粘土)粘土ブロック5% 炭化物1%未調査
- 2 5V4/1灰粘土シルト 粘性やや強 しまりあまりなし  
堆山(グライ化)土ブロック30% 鉄分含

13-14

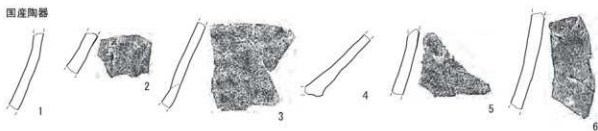
- 1 7.0YR4/6褐色シルト 粘性なし しまり密 炭化物粒φ1~3mm1%
- 堆山ブロックφ5~10mm5%含
- 2 2.5V6/4(ふい)黄粘土 粘性強 しまり密 堆山

第5図 断面図

第6表 銭貨観察表

No	国図	写真図版	出土位置・層位	種類	大きさ (cm)	重量 (g)	備考	登録No
16	-	3	1号土坑 3~4層	鉄銭	<2>	1.5	銭種不明 3枚	23-1
17	6	3	2号土坑 埋土	銅銭	2.4	1.9	古寛永通宝 18と重なり出土	8-1
18	6	3	2号土坑 埋土	銅銭	2.4	4.0	古寛永通宝	8-2
19	6	3	2号土坑 埋土	銅銭	2.2	1.8	新寛永通宝 裏に「文」	9-1
20	6	3	2号土坑 埋土	銅銭	2.3	1.9	古寛永通宝	9-2
21	6	3	2号土坑 埋土	銅銭	2.4	1.6	新寛永通宝 裏に「文」	9-3
22	6	3	3号土坑 5層	銅銭	<2>	1.8	新寛永通宝 23と重なり出土	55-1
23	6	3	3号土坑 5層	銅銭	2.2	2.0	古寛永通宝	55-2
24	6	3	3号土坑 5層	銅銭	2.2	1.4	古寛永通宝 裏に「文」	56-1
25	-	3	3号土坑 5層	鉄銭	2.3	1.6	銭種不明 2枚	56-2
26	6	3	4号土坑 5層	銅銭	2.4	1.8	新寛永通宝	62

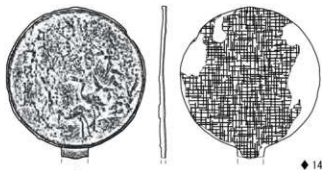
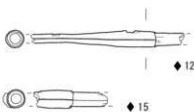
国産陶器



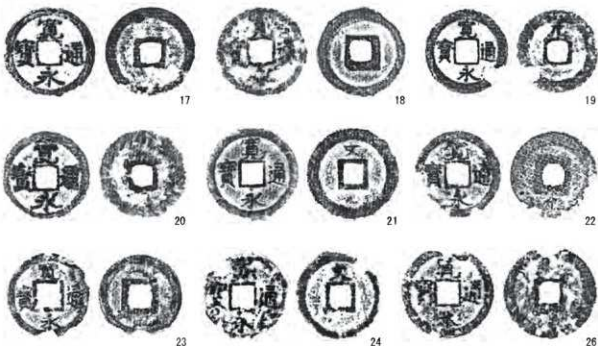
近世陶器



金属製品



銭貨



銭貨 原寸 ◆ 0 1:2 5cm 0 1:3 10cm

第6図 出土遺物



調査区全景（南から）



調査区検出状況（南から）



6・1号土坑完掘（南から）



6号土坑底板検出状況（南から）



6号土坑断面5-6（南から）



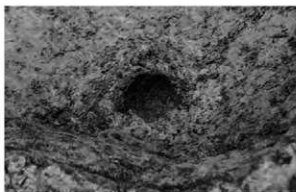
1号土坑断面5-6（南から）



2号土坑完掘（北西から）



2号土坑断面7-8（南から）



2号土坑漆膜検出状況（北西から）



調査区南東側（北西から）



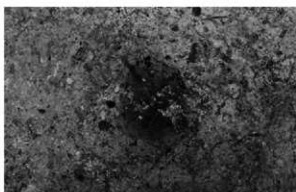
3・4号土坑完掘（南から）



3・4号土坑断面15-16（南から）



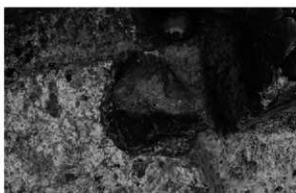
5号土坑断面9-10（南から）



1号焼土（南東から）



P1完掘（東から）



P1検出（西から）



国産陶器



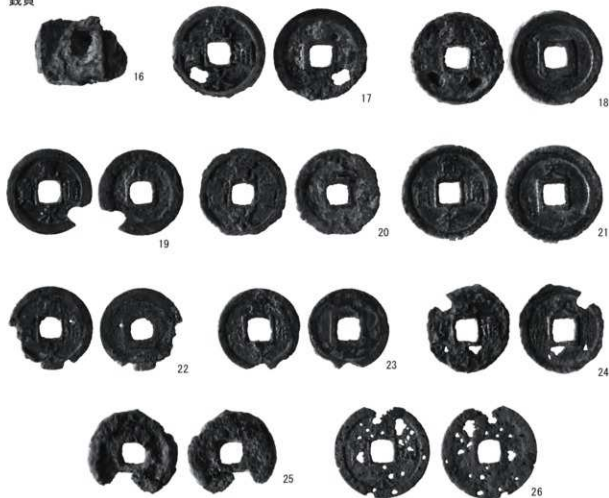
近世陶器



金属製品



銭貨



写真図版3 出土遺物



写真図版4 1号土坑 出土棺桶



写真図版5 6号土坑 出土棺桶

第7表 棺桶観察表

No	土坑名	部位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	備考	登録No
1	1号土坑	隅木	26.0	2.5	2.2		31
2	1号土坑	側板	51.8	8.0	0.8		32
3	1号土坑	隅木	35.2	3.0	2.5		33
4	1号土坑	側板	52.2	12.2	1.0	2片接合	34
5	1号土坑	底板	52.1	17.7	1.1		35
6	1号土坑	側板	47.5	7.0	1.0		36
7	1号土坑		9.2	4.5	0.7	2片接合	37
8	1号土坑		18.8	10.0	1.0	穴2箇所あり 2片接合	38
9	1号土坑	底板	54.4	20.5	1.0		39
10	1号土坑	底板	53.2	30.1	0.9		40
11	3号土坑				1.1		
12	3号土坑	小さい板	15.1	9.5	1.0	穴4箇所あり	63
13	6号土坑		-	-	-		47
14	6号土坑	底板	31.8	4.9	1.1	4片に分解 1番大きい破片のみ計測	48
14	6号土坑	底板	30.5	8.0	1.2	10片以上に分解 1番大きい破片のみ計測 2片接合	49
15	6号土坑	板の破片	13.4	8.8	1.3		50

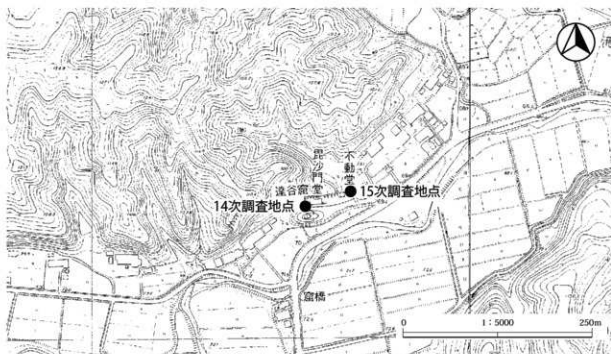
## 西光寺跡第14次発掘調査

### 1 調査要項

地点	岩手県西磐井郡平泉町平泉字北沢16番
調査面積	11㎡
調査期間	令和4年7月25日～8月31日
原因	内容確認調査
調査担当	菅原計二・藤田崇志

### 2 位置と概要

本調査は達谷西光寺境内の西側に位置する窟毘沙門堂前面で実施した苑池遺構に関わる内容確認調査である。「西光寺跡」は国史跡「達谷窟」の指定を受ける真鏡山達谷西光寺境内と周知の遺跡を含む東西約350m、南北260mの範囲で、標高は約60～120mである。地形は北上川支流太田川北岸の狭い沖積平坦地と、西の奥羽山脈から続く小起伏丘陵の一つである真鏡山の南側に立地する。達谷西光寺に伝わる縁起によれば、延暦二十年（801）に蝦夷平定を果たした征夷大将軍坂上田村麻呂により京の清水寺を模して懸造の窟毘沙門堂を建立し、翌年に別當達谷西光寺が創建されたと伝える。「吾妻鏡」の文治五年（1189）九月二十八日条には源頼朝が平泉から鎌倉への帰途の折、「田谷窟」を参詣した旨を記す。堂は火災により度々失われたがその都度再建されている。慶長20年（1615）建築の堂は仙台藩伊達政宗公によって建立されたが昭和21年（1946）に焼失し、現存する堂は昭和36年（1961）に再建された建物で5代目の堂に当たる。西光寺の発掘調査は、昭和43年（1968）に蝦夷が池中島の辯天堂改築に伴う第1次調査が行われた後、昭和60年（1985）に岩面大佛の崖下から窟毘沙門堂の前庭にかけて暗渠関連工事に伴う第2調査を実施した。このとき窟毘沙門堂の石製基壇南側で3箇所の調査トレンチを掘削したところ、人頭大の川原石を4・5段重ねた「石積み遺構」と池跡堆積土を検出した。この石積みは窟毘沙門堂の石製基壇と並行し、トレンチ下層の池跡とみられる湿潤な埋土から奥州藤原氏時代の多数のかわらけや木製鉢等が出土した。このことから12世紀の



第1図 西光寺跡第14次・15次調査位置図 (1/5,000)

苑池が窟毘沙門堂の直下まで広がるということが判明した。この後、平泉町教委では蝦蟇が池の護岸整備や平成25年に辯天堂新築に伴う調査、平成27年には鐘樓改修に伴う調査を実施している。平成30年度からは苑池遺構に係わる情報を得るために窟毘沙門堂の前庭部でレーダー探査（受託者・桜小路電機株式会社）を実施した。これらの成果を元に本調査（14次）では12世紀の苑池の範囲と「石積み遺構」の延長を確認することを目的として、蝦蟇が池護岸の北西側と窟毘沙門堂西側の前庭部に2カ所のトレンチを設定して掘り下げた。前者をトレンチ1（T1）、後者をトレンチ2（T2）と呼ぶ。調査面積はT1が東西5m×南北1m、T2が東西1.5m×南北4mの範囲で、共に現在の地表面から約2mの深さまで掘削した。調査地点の標高はT1北西で69.92m、T2北西で70.14mである。調査の結果、T1では12世紀から中世以降とみられる池跡堆積土を検出し、この下層から10世紀初頭の十和田a降下火山灰とみられる層位や池底直上から植物腐植土層を確認した。これにより苑池の基盤とみられる湿潤な低地が当地点よりも西側に広がることが分った。表土直下では昭和60年以降の暗渠溝を検出し、この下に近世以降の落込みもしくは溝跡とみられる埋土が池跡堆積土の上位堆積土を掘り込んでいた。T2では昭和60年の第2次調査トレンチの掘り込み跡とみられる埋戻し土を検出し、これを取り除いて深掘りしたところ、トレンチの南側で未精査の池跡堆積土、トレンチの北側でT1と同様の火山灰土層とこの直上に砂質シルト主体の低地堆積土が厚く被い、旧地形の低地がさらに北側に続くことが分った。この低地堆積土は北側崖面の凝灰岩が風化崩落して堆積した層位とみられる。池跡堆積土はこの北側低地堆積土が南に下る傾斜面の上に堆積しており、この層位が一時期の苑池の水際であった様相を示すものである。レーダー探査で反応が認められた地点では、昭和60年調査で検出した12世紀の「石積み遺構」の続きとみられる明瞭な石積みの痕跡は確認されなかったが、暗渠溝の碎石や池跡堆積土から人頭大の礫がまばらに出土しており、これに反応した可能性がある。この調査結果から12世紀の苑池はT1地点よりも西側に広がり、T2地点は苑池の北西側で一時期の水際に当たるものと考えられる。以下は経過である。7月19日から発掘資材準備、基準点移動、地形測量。7月25日～8月4日T1精査・実測・写真撮影等、5～9日埋戻し。8日からT2表土粗掘り、9～31日精査・実測・写真撮影。この後埋戻しを行い、現場での作業を終了した。



写真図版1 窟毘沙門堂西側のトレンチ2（西から）

### 3 調査成果

**T1 遺構**：〔低地と池跡〕低地及び池底（10世紀以前の低地、火山灰土、池跡堆積土、）

〔近世以降〕南側落込みもしくは溝跡〔昭和60年以降〕暗渠溝

**遺物**：〔12世紀・中世〕かわらけ、国産陶器（常滑・渥美産）、銭貨（熙寧元寶・永樂通寶）

〔近世〕近世陶磁器〔不明〕加工木、種子等

**T2 遺構**：〔低地と池跡〕北側低地斜面土（菟池水際の池跡堆積土）、2次調査トレンチ埋戻し土

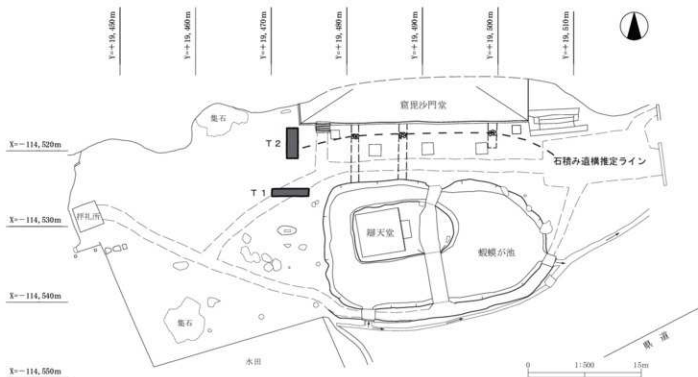
**遺物**：〔12世紀〕かわらけ〔近現代〕近現代陶磁器

#### 土層（第6～8図）

T1の土層は7層（Ⅰ～Ⅶ群）と砂礫土の地山Ⅷ、T2は8層（Ⅰ～Ⅷ群）に分けられる。T1とT2は約4mの近さにあるが、土質の特徴からトレンチ毎に層序の名称を与えた。T1のⅥ（6）層とT2のⅦ（7）層が同一の火山灰土として対応する。T2の6層は火山灰土直上の北側低位堆積土で、菟池構築以前に崖面が風化し堆積した層位である。

(1) **T1** トレンチ1は蝦蟇が池護岸の北西端から約5～10mの地点で東西方向に5m、南北1mの規模で長方形に設定して掘り下げた。Ⅰ（1・1-1）は境内参道の豆砂利敷きとトレンチ周囲の表土である。Ⅱ（2）は山砂で昭和60年以降の客土、Ⅲ（3）は暗渠溝の碎石、Ⅳ（4）は近世以降とみられる池跡上位の堆積土で（4-1～4-3）は東側に傾斜する落込みもしくは溝跡の埋土、（4-4～4-6）はシルトから砂質シルトが主体でグライ化が著しい範囲がある一方、酸化層との境界に酸化鉄分が集積する。Ⅴ（5）は12世紀から中世以降とみられる池跡堆積土で、上位のシルトから下位の粘土や泥質の遷移層に植物腐植物が混入する。下位は水分が多く粘性が増す。この層位から銭貨2点や加工木、礫などが出土した。Ⅵ（6）は火山灰土で細かいテフラが10cm程の厚さで帯状に堆積する。Ⅶ（7）は植物腐植物堆積土、Ⅷ（8）は自然砂礫土の地山である。

**低地と池跡** T1では砂礫層の地山直上に植物腐植土層（Ⅶ）、この上に厚さ約10cmの火山灰土層（Ⅵ）



第2図 西光寺跡第14次調査トレンチ配置図（1/500）

が堆積する。二つの層位はT2の火山灰土層(Ⅶ)と合わせて平坦な低地が広がっていることを示す。池跡の堆積土は層序Ⅴ(5)に相当する。中～下位は泥質土と粘土、砂質シルトが堆積して植物腐植物が含まれる。この層位から12世紀のかわらけ片や銭貨2点、加工木等が出土した。近世の遺物は出土せず、12世紀から中世頃の湿潤な環境が広がる中で埋土が堆積したと思われる。上位はシルトから砂質シルトを主体とし、グライ化の著しい部分から褐灰を呈する酸化した層位の間に酸化鉄分集積層がみられる。

**南側落込みもしくは溝跡** 池跡の埋没が進行した段階で、T1の南側から落込みもしくは溝跡のような傾斜面が認められる。この埋土から近世の肥前染付磁器(8～10)が出土した。3片が接合する。

**暗渠溝** T1の表土直下で断面逆台形の溝状の掘り込みを検出した。N58°Eの傾きで南西から北東方向に伸び、検出長2.00m、溝幅60cm、深さ24cmを測る。北西端にも同様の掘り込みがあり、共に1～4cm大の碎石が均一に入ることから、昭和60年頃に施工した暗渠溝の一部とみられる。

(2) T2 トレンチ2は窟毘沙門堂の西端から約2mの地点で、南北方向に4m、東西幅1.5mの長方形に設定して掘り下げた。T2は蝦蟇が池から約7m離れているが池側からの漏水が激しく、調査時には水中ポンプで常時排水しながら調査を行った。I(1・1-2～1-3)は表土と杭跡とみられる擾乱を一括した。II(2・2-1～2-4)は昭和60年以降～平成の客土で、2-4は昭和60年調査トレンチの埋戻し土である、III(3・3-1～3-4)は新しい盛土、IV(4・4-1～4-13)は池跡堆積土北側の直上に酸化鉄分が多く沈着した層位と北側低地堆積土の上位に当たる人為的な掘削を受けたとみられる層位を一括した。V(5・5-1～5-5)は12世紀から中世以降にかけての池跡堆積土で、湿潤な泥質土に粘土や砂質が堆積し植物腐植物が混入する。VI(6・6-1～6-6)は火山灰土層の直上を覆う均質でしまりがあるシルトで、北側崖面が風化崩落した砂質シルト主体の低位堆積土である。これが苑池護岸の基盤層となるものと考えられる。VII(7)は火山灰土で、T1と同様に十和田a降下火山灰テフラが平坦な低地に二次堆積した層位とみられる。火山灰土の上面は標高68.45～68.60mで、これが池底面と推定される。VIII(8)は粘土主体の低位堆積土で自然堆積の地山の可能性がある。T2では砂礫の地山は確認されなかった。各層序は土色・土質や内容により細分した。西壁の4-11層は4-13層を掘り込む形で6層に似た均質な砂質シルトだが、ややしまりがない。これは断崖の北壁直下から堂の石製基壇西側にかけて人為的に掘削した直後に埋戻した可能性があるが、遺物は出土せず時期は不明である。4-8層や4-12・4-13層はIV群に属する層位と捉えた。

### (3) 出土遺物 (第9図・表8 写真図版8)

T1の池跡堆積土V層から手づくねかわらけ2片と銭貨2点(永楽通寶・熙寧元寶)、板状の加工木や杭状の木、自然木、石器1点が出土した。先端を失らず加工木は長さ40cm以上あり、南壁から取り上げることができなかった。IVとV層からは凝灰岩や溶結凝灰岩、安山岩、デイスイト等の大振りの礫が10個以上出土した。南側の落込みもしくは溝跡の傾斜土からは近世の肥前染付磁器が出土した。IV層から12世紀の常滑産甕、表土から近現代の陶磁器と十円銅貨1点が出土した。

T2の5層から12世紀のかわらけ17片、渥美産陶器1点、加工木や自然木少量、羽口1点が出土した。表土(I)や昭和60年の埋戻し土であるII層(2-4)からは、かわらけ31片と近現代陶磁器、ガラス片などの雑物が出土した。火山灰土層や植物腐植土層からは自然木や不明種子が少量出土した。

【T1】かわらけ、銭貨2点(永楽通寶1・熙寧元寶1)、国産陶器(渥美1・常滑1)、近世陶磁器(肥前染付磁器)、礫、石器(石鏝)1、羽口1、加工木(板・杭状・木片)少量、自然木(枝・葉)、金属製品少量、種子(モモ類・マツ球果、不明)等少量

【T2】かわらけ、不明土器、鉄製品、加工木片、自然木(枝と葉)、種子(モモ類、不明)少量

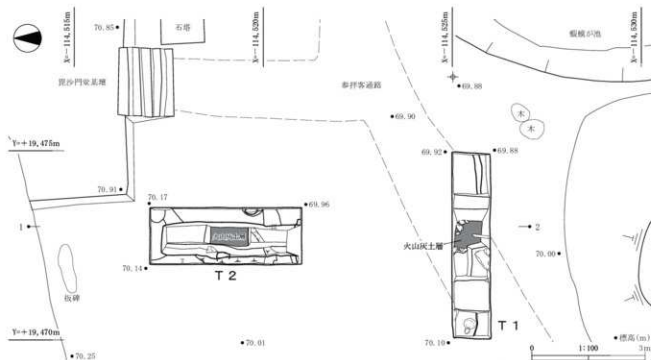
#### 4 まとめ

本調査は西光寺跡第2次調査で検出した「石積み遺構」の西側延長と苑池の広がりを確認するため、窟毘沙門堂南西側と蝦蟇が池の北西側に設定した2か所のトレンチを約2m掘り下げた。調査の結果、T1では12世紀から中世頃とみられる池跡堆積土の層位を検出した。この層位は地山直上の植物腐植土層を覆う火山灰土の直上に堆積しており、この火山灰土の上面が池底と推定される。T1の池跡堆積土は湿潤な粘土や泥質土が主体で、この層位からかわらけ片や加工木、銭貨などが出土し、さらに西側に広がる様相を示す。T1の上位では近世の染付磁器を含む南側の落込みもしくは溝跡を検出し、池の埋没が進んだ段階での遺構の変遷が推定される。T2ではT1と同様に火山灰土層が北側に水平方向に続き、10世紀頃には平坦な低地が北側崖面近くまでに広がっていたと推定される。ここでは火山灰土の直上に崖面の凝灰岩が風化して堆積したとみられる均質な砂質シルトが北側低位堆積土を形成している。これを基盤とする形で南側に下る斜面の上に池跡とみられる砂質ラミナや泥質土などの水成堆積層が被っており、これが一時期の苑池の水際と考えられる。当地の地形と池跡について以下の変遷が想定される。

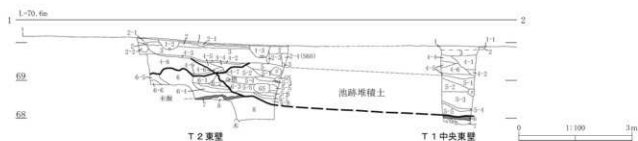
【年代】	【調査地点の様相】
【10世紀以前】	北側崖面の直下まで低地が広がる
【10世紀初頭（915年頃）】	火山灰土が堆積（十和田a降下火山灰テフラ）
【10世紀～12世紀】	北側崖面が風化崩落して土砂が低地に堆積
【12世紀】	北側の低位堆積土を切土して傾斜面を形成 一時期の苑池護岸の傾斜面
【12世紀～中世以降】	苑池に水際の浸食や風化により砂質土や粘土・泥質土が堆積、ラミナ層の形成護岸部での崩落土の堆積
【近世以降～昭和60年代】	T1付近では池跡上位まで土砂が堆積して埋没・池の縮小、溝もしくは落込みが築かれる この後、整地により蝦蟇ヶ池西側が平坦になる 境内西側に暗渠溝を設置



写真図版2 蝦蟇ヶ池の北西側に当たるトレンチ1（T1）（北東から）



第3図 調査トレンチ平面配置図 (1/100)

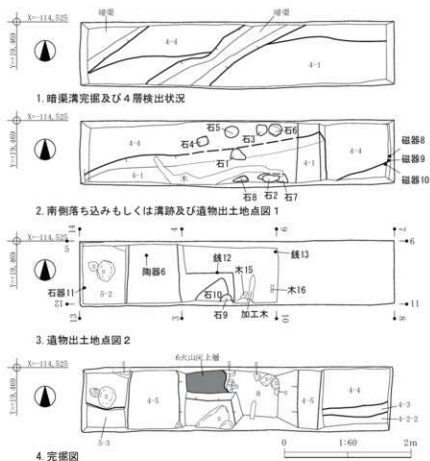


第4図 T1中央東壁・T2東壁土層断面合成図 (1/100)



写真図版3 トレンチ2 (T2) 完掘 (南西から)





第5図 T1平面図(1/60)



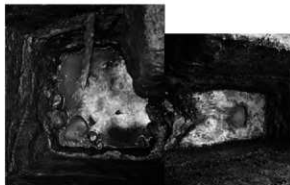
写真図版4 T1完掘(西から)



1. T1南壁土層断面(北から)

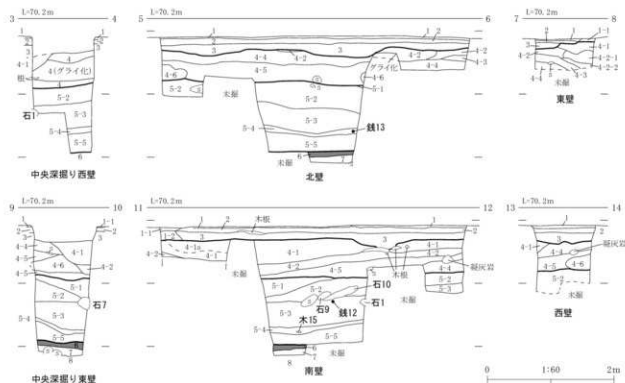


2. T1中央 南壁土層断面(北から)



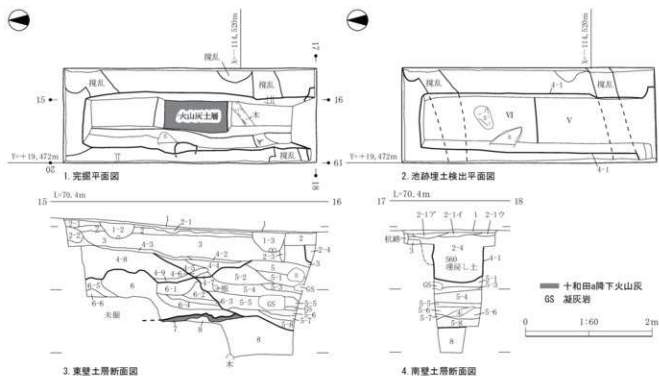
3. 地山砂礫層と火山灰土層(北から)

写真図版5 T1土層断面及びトレンチ中央の状況



第6図 T1断面図(1/60)

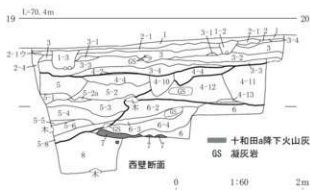
層	名称	土色・土質	内容	推定年代	
I	1	表土	豆砂利参道	2.5Y4/3オリーブ褐 5~10ミリ大の豆砂利敷き 検出標高69.90m	平成一令和4年
	1-1	表土	南東側	10YR3/1黒褐シルト	
II	2	客土		2.5Y6/4黄褐~2.5Y6/4にぶい黄砂質シルト 山砂 しまりあり	昭和60年以降
III	3	砕石		2.5GY4/1暗オリーブ灰 砕石ラン 暗葉溝	昭和60年以降
IV	4	近世以降堆積土		2.5Y4/6オリーブ褐シルト 5~10ミリ大の小礫少量混	近世以降
	4-1	南側落込み埋土		5Y3/1オリーブ黒砂質シルト グライ化 木根の細根多く入る	
	4-1-1	南側落込み埋土		5Y3/1オリーブ黒砂質シルト+5Y4/1灰砂質シルト30~40%混	
	4-1-2	南側落込み埋土		2.5Y5/3黄褐シルト主体	
	4-2	東側落込み堆積土		2.5Y4/1黄灰~10YR3/2黒褐シルト主体+7.5YR5/6明褐酸化鉄分10%比着 上位グライ化	
	4-2-1	東側落込み堆積土		10YR4/2灰黄褐シルト~10YR5/3にぶい黄褐シルト主体+7.5YR5/6明褐酸化鉄分少量混	
	4-2-2	東側落込み堆積土		10YR4/2灰黄褐シルト主体	
	4-3	東側落込み堆積土		10YR4/2灰黄褐~10YR4/1褐灰シルト+10YR2/1黒色炭化物2%混 近世磁器出土北壁	
	4-3	東側落込み堆積土		2.5Y5/2暗灰黄砂質シルト主体+2.5Y6/4にぶい黄砂質ブロック3~5cm大で3%混	
	4-4	池路上位堆積土		10YR4/3にぶい黄褐シルト~砂質シルト グライ化して2.5Y5/2暗灰黄シルト+2.5Y6/4にぶい黄砂質シルト3~5cm大で3%混	中世~近世以降
	4-5	池路上位堆積土		5GY4/1暗オリーブ灰シルト主体 (グライ化) 酸化して2.5Y5/3黄褐となる+7.5YR2/2黒褐砂質少量含む	
	4-6	池路上位堆積土		10YR4/3にぶい黄褐シルト+7.5YR6/6褐酸化鉄分シルト20%+2.5Y6/4にぶい黄砂質シルト地山ブロック30%混 4~5の間層	
V	5	池路堆積土		上位グライ化したシルト~下位は植物腐植体主体の層 植物茎や種子が少量入る	12世紀~中世以降
	5-1	池路堆積土		10YR4/1褐灰シルト (酸化) グライ化して2.5GY4/1暗オリーブ灰となる	
	5-2	池路堆積土		10YR4/1褐灰シルト 植物腐植体混入 グライ化して2.5GY4/1暗オリーブ灰シルトとなる	
	5-3	池路堆積土		10YR3/2黒褐粘土質シルト+植物腐植体混入 5-2と5-3の間にやや大振りの縄が入る	
	5-4	池路堆積土		10YR3/2黒褐粘土主体 植物腐植体が多く入る	
	5-5	植物腐植土層		10YR3/2黒褐高質粘土 植物腐植土が多く入る	
VI	6	火山灰土層		2.5Y7/1灰白~N7/灰 厚さ約10cmの火山灰テフラ 所々に植物腐植体が薄くワミナ状に堆積 十和田a降下火山灰の二次堆積層とみられる	10世紀初頭 (西暦915年頃)
VII	7	植物腐植土層		10YR2/2黒褐 植物腐植土 軟質シルト20%混	10世紀初頭以前
VIII	8	砂礫土		7.5Y4/1灰 砂礫質の地山 3~25cm大の礫が主体で砂質分が入る	



第7図 T2平面図・断面図 (1/60)



写真図版6 T2完掘

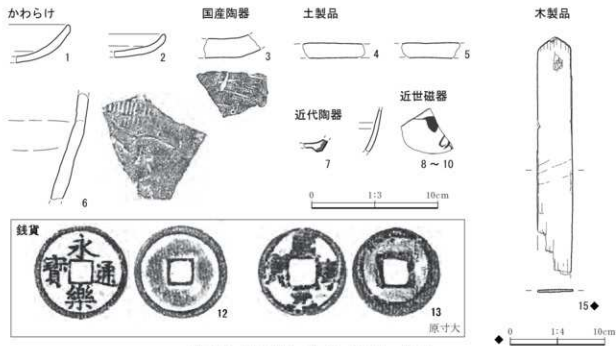


第8図 T2西壁断面図 (1/60)



写真図版7 T2北西側断面 (南東から)

層	名称	土色・土質 内空	推定年代
I	1	表土	10YR3/4暗褐～10YR3/2黒褐色シルト
	1-2	電線埋設	2. 5Y5/4黄褐色シルト+10YR5/2灰黄褐色シルト20%混
	1-3	電線埋設	2. 5Y5/4黄褐色シルト+10YR5/2灰黄褐色シルト40%混
II	2	客土	2. 5Y5/4黄褐～2. 5Y4/6オリーブ黄褐色シルト 2-1の下位
	2-1	客土	10YR4/4黄褐色シルト+2. 5Y7/4浅黄褐色シルト地山ブロック5%混 粘性余りなし 2の上位
	2-1A	客土	2. 5Y5/1黄灰砂質シルト
	2-1イ	客土	2. 5Y5/4黄褐色シルト
	2-1ウ	客土	2. 5Y6/4にぶい黄砂質シルト
	2-2	客土	10YR5/4にぶい黄褐色シルト+2. 5Y7/4浅黄褐色シルト地山ブロック30%混
	2-3	粘砂 覆土	10YR5/2灰黄褐色シルト主体
2-4	埋戻し土	2. 5Y4/1黄灰シルト+2. 5Y6/4にぶい黄砂質シルト30～40%混 下位グライ化 昭和60年調査トレンチの埋戻し土	
III	3	盛土	東7. 5YR5/4にぶい褐～10YR5/2灰黄褐色シルト主体+2. 5Y7/4浅黄褐色地山ブロックシルト5%混 酸化鉄分微量混 上位2. 5Y5/4黄褐色シルト 西10YR4/2灰黄褐色シルト主体+2. 5Y6/4にぶい黄シルト地山ブロック1～3cm大で20%混 ビニール付混入 新しい埋土
	3-1	盛土	2. 5Y6/4にぶい黄シルト 西側の土層
	3-2	盛土	10YR4/3にぶい黄褐色シルト+2. 5Y6/4にぶい黄砂質シルト20～30%混
	3-3	盛土	10YR5/4にぶい黄褐色シルト+7. 5YR5/6明褐色酸化鉄分沈着土20%混
3-4	盛土	10YR5/3にぶい黄褐色シルト	
IV	4	酸化鉄分沈着土	7. 5YR5/6明褐色シルト 酸化鉄分沈着層 シルト主体堆積土
	4-1	酸化鉄分沈着土	7. 5YR5/6明褐色シルト 酸化鉄分沈着層 2-4 (昭和60年調査トレンチの埋戻し土) との間 に5～10ミリ厚で鉄分が集積した層
	4-2	黒色炭化物土	2. 5Y5/1黄灰シルト+10YR2/1黒色炭化物物30%混 3～4cm厚さで堆積
	4-3	帯状堆積土	2. 5Y5/1黄灰シルト+2. 5Y6/4にぶい黄シルト～砂質シルト混 西壁3-4と同か
	4-4	酸化鉄分沈着土	2. 5Y5/1黄灰シルト+10YR4/4褐色シルト酸化鉄分30%混
	4-5	酸化鉄分沈着土	7. 5YR5/6明褐色シルト 酸化鉄分沈着層
	4-6	酸化鉄分沈着土	7. 5YR5/6明褐色シルト 酸化鉄分沈着層
	4-7	酸化鉄分沈着土	7. 5YR5/6明褐色シルト 酸化鉄分沈着層
	4-8	北側上位埋土	10YR5/4にぶい黄褐色シルト+やしまりなし
	4-9	酸化鉄分沈着土	7. 5YR5/6明褐色シルト 酸化鉄分沈着層
	4-10	掘り込み状	10YR5/4にぶい黄褐色シルト+砂質シルト+2～5ミリ大の10YR2/1黒色炭化物物3%混 地山ブロック20%混 柱穴か
4-11	北側掘込み状	10YR4/6暗褐色シルト+2. 5Y6/4にぶい黄砂質シルト30%混 やしまりなし 北側崖下の 一時的な掘込みか 4-13を切る	
4-12	北側低位堆積土か	2. 5Y6/4にぶい黄砂質シルト+5GY5/1オリーブ灰砂質シルト30%混 硬入る 4-11層よりも固くしめる 6層北側低位堆積土に似る	
4-13	黒色硬粘土	10YR2/1黒色マンガン粒集積とみられる固い土層 4-11に切られる	
V	5	池跡堆積土	2. 5Y4/1黄灰シルト 水成堆積土
	5-1	池跡堆積土	2. 5Y4/1黄灰シルト+5GY5/1オリーブ灰シルト10%混
	5-2	池跡堆積土	2. 5GY5/1オリーブ灰シルト+2. 5Y4/1黄灰シルト50%混
	5-2a	池跡堆積土	2. 5Y4/1黄灰シルト+5GY5/1オリーブ灰砂質シルト30%混 5-1に似る
	5-3	池跡堆積土	2. 5Y4/1黄灰シルト+5GY5/1オリーブ灰シルト地山ブロック40%混
	5-4	池跡堆積土	2. 5Y4/1黄灰シルト+5GY5/1オリーブ灰シルト地山ブロック30%+礫少量混
	5-5	池跡堆積土	2. 5Y4/1黄灰シルト+5GY5/1オリーブ灰砂質シルト20%混
	5-6	池跡堆積土	2. 5Y4/1黄灰粘土
5-7	池跡堆積土	2. 5Y4/1黄灰粘土+2. 5GY5/1オリーブ灰砂質シルト10%混	
5-8	池跡堆積土	2. 5Y4/1黄灰粘土泥質土 植物腐植物入る	
VI	6	北側低位堆積土	2. 5GY5/1オリーブ灰砂質シルト 崖面の風化堆積土とみられる層位
	6-1	北側低位堆積土	10YR5/6黄褐色シルト酸化鉄分沈着+5GY5/1オリーブ灰シルト30%混 グライ化
	6-2	北側低位堆積土	5GY5/1オリーブ灰シルト+2. 5Y4/1黄灰シルト30%混
	6-3	北側低位堆積土	2. 5Y4/1黄灰シルト
	6-4	北側低位堆積土	2. 5Y4/1黄灰シルト～2. 5Y3/1黒粘粘土
	6-5	北側低位堆積土	10YR4/3にぶい黄褐色シルト
6-6	酸化鉄分沈着土	10YR5/6黄褐色シルト	
VII	7	火山灰土	7. 5YR/1灰白 十和田a降下火山灰テフラ 直下グライ化 5GY5/1オリーブ灰
VIII	8	経地堆積土	7. 5Y4/1オリーブ灰粘土主体 トレンチ北端に自然木か



第9図 出土遺物 (1/3・原寸大・1/4)

表1 遺物観察表 かわらけ

No	図版	写図	出土位置	層位	種類	器種・部位	法量(推定) cm	残存率 (%)	年代	備考(標高m)	登録
							口径 底径 器高				
1	9	8	T2	V層	かわらけ	手づくね皿・小	- - -	15	12C	小片	60-1
2	9	8	T2	V層	かわらけ	手づくね皿・大	- - -	20	12C	小片	60-2

表2 陶磁器 土製品

No	図版	写図	出土位置	層位	種類	器種・部位	年代	備考(標高m)	登録
3	9	8	T2	V層	陶器 瀬美	壺・底	12C	焼成不良 (68.68)	59
4	9	8	T2	V層	土製品 鉢小	底小	不明	焙焼小	43
5	9	8	T2	V層	土製品 鉢小	底小	不明	焙焼小	41
6	9	8	T1	IV層 (4-5)	陶器	常滑 茶・煎	12C	格子状押印 内外面摩滅 (69.25)	22
7	9	8	T1	IV層	陶器	不明 皿・底	近代	小片	1-2
8	9	8	T1	IV層 (4-3)	磁器	肥前 瓶・体			5
9	9	8	T1	IV層 (4-3)	磁器	肥前 瓶・体	18c	8~10 3片接合 外面染付	8
10	9	8	T1	IV層 (4-3)	磁器	肥前 瓶・体			9

表3 石器

No	図版	写図	出土位置	層位	種類	形状	法量 (cm)	残存率 (%)	年代	備考(標高m)	登録
							長さ 幅 厚さ				
11	-	8	T2	V層	土製品	門基無差	2.0 1.3 0.45	100	不明	(69.15)	25

表4 銭貨

No	図版	写図	出土位置	層位	種類	法量 (cm, g)	残存率 (%)	年代	備考(標高m)	登録
						大きさ 重量				
12	9	8	T1	V層 (5-2)	水堂通寶	2.5 2.7	100	1408	明銭 (68.71)	13
13	9	8	T1	V層 (5-4)	熊掌元寶	2.4 3.5	100	1068	北宋銭 (68.41)	14

表5 土製品

No	図版	写図	出土位置	層位	種類	器種・部位	法量 (cm) (残存率)	残存率 (%)	年代	備考(標高m)	登録
							長さ 幅 厚さ				
14	-	8	T2	V層 (5-5)	土製品	羽口	(5.0) (4.8) (1.2)	破片	不明	4片接合 (68.71)	56

表6 木製品

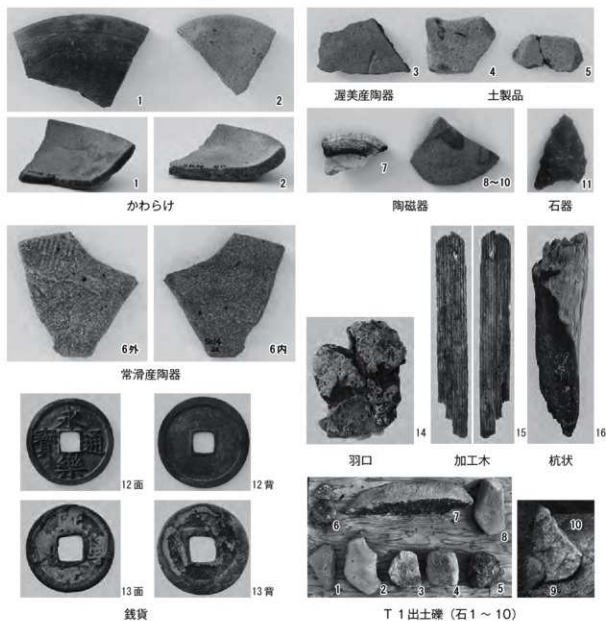
No	図版	写図	出土位置	層位	種類	形状	法量 (cm)	残存率 (%)	年代	備考(標高m)	登録
							長さ 幅 厚さ				
15	9	8	T1	V層 (5-3)	加工木	板状	25.0 3.7 0.2	不明	不明	一端山形に加工 (68.28)	16
16	-	8	T1	V層 (5-3)	加工木	板状	21.8 6.2 -	不明	不明	先端焼け焦げ (68.22)	17

表7 T1出土礎 (石1~10)

No	大きさ (cm)	石質	層位	標高 (m)	No	大きさ (cm)	石質	層位	標高 (m)
石1	22 × 16 × 7	テイスイト	IV (4-5)	69.15	石6	16 × 14 × 8	凝灰岩	V	69.15
石2	30 × 20 × 10	テイスイト	IV (4-5)	69.62	石7	62 × 18 × 15	安山岩	V	69.62
石3	21 × 16 × 7	凝灰岩	IV (4-5)	69.23	石8	31 × 15 × 11	テイスイト	V	69.23
石4	15 × 14 × 15	消結凝灰岩	IV (4-5)	69.32	石9	20以上	消結凝灰岩	V-2	69.32
石5	19 × 15 × 12	凝灰岩	IV (4-5)	69.27	石10	60以上	凝灰岩	V-2	69.27

表8 遺物集計表

地点・層位	かわらけ				遺物(年代・種類・図等)
	小計	手づくね	不明	重量g	
T1・II(2)					十円青銅貨(昭和44)1、近代陶器1
T1・IV一括					常滑産陶器壺1、木片少量、加工木少量
T1・IV(4-3)	1		1	1	肥前産染付磁器3片集合(図8-10)
T1・IV(4-5)					罐(石1~5)
T1・V(5)	2	2		14	銭貨2(永楽通寶1、熙寧元寶1)、加工木2(図15)、杭状1(図16)、種子12(モモ類10、マツ球果1、不明1)、石器(石鎌)1、礫(石6~10)、骨?1
T1・VI(7)					木片(枝)1
T1・層位不明					金風製品か
小計	3	2	1	15	
T2・II	6	4	2	34	土製品1(焙烙)、ガラス少量
T2・II(2-4)	10	7	3	72	土製品1(焙烙)、近現代磁器1(昭和60年トレンチ埋戻し)
T2・III(3)	12	7	5	28	種子1(不明1)
T2・IV(4)	21	12	9	107	木の枝葉少量
T2・V(5)	17	12	5	38	かわらけ(図1・2) 肥前産陶器壺1(図3)、加工木1、木片少量、種子1(不明1)
T2・VI(6-1)					凝灰岩2、木枝3
T2・層位不明	2	2		2	
小計	68	44	24	272	
合計	71	46	25	287	



写真図版8 出土遺物(1~16)・T1出土礫(石1~10)

# 西光寺跡第15次発掘調査

## 1 調査要項

地点	岩手県西磐井郡平泉町平泉字北沢16番
調査面積	113㎡
調査期間	令和4年9月27日～12月1日
原因	内容確認調査（堂改修に伴う発掘調査）
調査担当	菅原計二

## 2 位置と概要

本調査は、達谷西光寺境内の「姫待不動堂」の改修（新築建替）に伴う内容確認調査である（36頁第1図参照）。堂は境内西側の窟毘沙門堂並びに鐘樓堂と境内中央の本堂の間に挟まれた白山沢右岸に立地し、標高は約72mである。別當代達谷窟敬祐氏によれば、寺伝に太田川の姫待滝付近に達谷西光寺の飛地があり、ここに奥州藤原氏二代基衡公により堂が建立されて本尊を祀っていたが、長年の風雨により堂が朽ちたため、これを再建するのに際して現在地に移されたものと伝わる。堂は桁行三間梁間三間一重宝形造堂葺で、南面する正面と左右の三方に縁を巡らし正面には向拝と階段が取付く。本尊は木造不動明王坐像（岩手県指定有形文化財）で平安時代後期の作とされ、堂には寛政元年（1789）の棟札が残る。本調査は現状の堂建物を解体して礎石が残された段階から開始した。礎石の平面断面を実測した後に重機で礎石を移動し、堂の盛土基壇中央に十字トレンチ及び堂跡の四辺と柱筋の礎石掘方に沿って方眼状のトレンチを設定して掘り下げ、土層と遺構の状況を確認した。調査の結果、姫待不動堂は自然沢を2回埋めた整地の上に築かれていた。自然沢が中ほどまで埋没した時期に1回目の地業を行い、直後に幅約3mの大溝である1号溝を築いて一時期の流路としていた。この1号溝が自然堆積によって半分ほど埋まった時期に、当地の上面を切土して大溝も含めた形で2回目の地業を行っており、この盛土上面に姫待不動堂の基盤となる礎石を据えて堂を構築していた。検出した遺構は旧地形の沢跡、地業層（1期整地）、大溝（1号溝）、堂建物の地業（2期整地）並びに礎石遺構（礎石・掘方・根固め石）、堂の雨落溝（2号溝）である。主な遺物は寛永通寶などの銭貨、沢の西側斜面土から土師器甕、沢の東側斜面土から12世紀のかわらけと常滑産陶器、南側の斜面土から縄文土器が出土した。以下は経過である。9月27日基準点とレベル移動、28日基準点杭打ち、29日平板による地形測量開始、10月11日発掘資材搬入・礎石検出並びに実測開始、20日礎石の移動と計測、21日礎石の計測と地形測量、24日礎石掘方の根石検出と実測、28日西トレンチ精査開始、11月2日調査区中央の十字トレンチ精査、10日調査区北東側の1号溝精査、14日礎石掘方の根石検出と写真撮影、18日南側深掘りと北側トレンチ精査・実測、24日十字トレンチ西側斜面精査・実測、30日全体清掃と写真撮影、12月1日実測の捕捉と発掘資材の撤去を行い、現場での作業を終了した。

## 3 調査成果

- 遺 構** [平安～近世] 沢跡（白山沢）、地業層（1期整地）、1号溝  
 [近世] 姫待不動堂（礎石・礎石掘方・根固め石）並びに地業層（2期整地）  
 [昭和～現代] 2号溝
- 遺 物** [平安（9～10世紀）] 土師器甕、土師器  
 [12世紀] かわらけ・常滑産陶器

[近世] 銭貨(寛永通寶)、陶磁器

[その他] 縄文土器、不明土器、鉄釘等少量、近現代陶磁器少量、近現代銭貨(賽銭)

### (1) 土層 (第3図・表1)

土層は北側トレンチと十字トレンチ、南西側の深掘りトレンチの層序を主として確認した。本調査区の層序は大きくⅠ～Ⅸ群の9層に分けられる。Ⅰは表土と攪乱及び堂の雨落溝である2号溝を一括した。表土には堂の床下と基壇の風化土層を含む。Ⅱは堂礎石の掘方埋土、Ⅲは2期整地で堂の基壇となる造成土、Ⅳは1号溝、Ⅴは1期整地、Ⅵは東側斜面堆積土、Ⅶは西側斜面堆積土、Ⅷは沢跡埋土、Ⅸは地山である。

表1 土層

Ⅰ	1-1~1-1-2	表土 堂基壇上面埋土 10YR4/3にぶい黄褐シルト主体 攪乱 2号溝(雨落溝)
Ⅱ	2-1-2-2	堂礎石掘方埋土 掘方底面に根石が入る 一部の礎石掘え直しの際に銭貨混入
Ⅲ	3-1~3-5	2期整地 人為的な切土盛土 10YR4/3にぶい黄褐シルト+地山ブロックシルト混
Ⅳ	4-1~4-10	1号溝 上位は流路の上層 中位は火山灰土 下位は流路の下層 2期整地が被う
Ⅴ	5-1~5-4	1期整地 人為的な切土盛土 25Y7/4浅黄シルト~粘土地山ブロック主体
Ⅵ	6-1~6-4	東側斜面堆積土 沢跡左岸の斜面堆積土 12世紀のかわらけ片出土
Ⅶ	7-1~7-4	西側斜面堆積土 7.5YR3/2黒褐シルト他 旧表土及び地山壁面崩壊土混 土師器出土
Ⅷ	8-1~8-9	沢跡 上位褐灰粘土 中位火山灰土 下位泥質土と砂質シルトが交互に堆積
Ⅸ	9-1~9-5	地山 25Y7/4浅黄シルト~粘土主体 ぶい黄褐砂質土とグラウ化層がみられる

### (2) 遺構

#### 姫待不動堂の概要

解体された近世の「姫待不動堂」の規模は礎石中央で東西7.50m、南北8.30mを測る。三間×三間の身舎は間飛びの礎石の上に柱を据え、外周の四面に縁を回して床東で支える形で、中央内陣の須弥壇に不動明王座像を設置する。前面の階段は角型の木材と石材を併用する。第11図の堂外観と間取り図は達谷窟敬祐氏の原因によるものである。礎石の一部については昭和から現代にかけての縁の補修や防災関連の電気ケーブルを埋設した際に礎石を掘え直した痕跡が見られた。遺物は堂床下の表土や礎石掘方の埋土から寛永通寶や明治・大正の銭貨が出土したが、これらは礎石を掘え直しの際に混入したもので、地鎮等で埋納された状況とみられるものは無い。解体された堂の部材は境内近くの倉庫に保管し、状態が良好な柱や壁板などの部材は礎石とともに新築する堂に使用されることとなった。姫待不動堂の礎石には堂の修復を担当する棟梁により番号が付けられており、本報告もこの番号の名称を使用した(第3図)。

#### 姫待不動堂の基礎 2期整地(Ⅲ)並びに礎石・掘方・根固め石(Ⅱ)(第2~6図・表2・写真図版4)

姫待不動堂の礎石は前述の通り、二回の整地の上に築かれていた。自然沢を人為的な切土盛土で埋める一回目の地業層である「1期整地」を逆台形の1号溝が掘り込み、1号溝が流路の土砂や有機質の堆積物で中ほどの深さまで埋まった段階で、堂の基壇を造成する二回目の地業である「2期整地」を行っている。そして堂造営のための一連の工程として2期整地の上面を掘り込み、礎石の掘方となる穴の底に拳大の小礫を多数敷き詰めて根固めとし、この上に礎石を据えて堂を構築している。2期整地の厚さは中央トレンチ北側から中央で10~20cm、中央トレンチ南側で約60cmである。1期整地の直上に2期整地の埋土が乗ることから、2期整地の地業の際に1期整地の上位を切土削平したものと考えられる。遺構は確認できないものの、1期整地を行う段階で当地の上面に何らかの建造物等を造作する目的があった可能性がある。



## 沢跡（白山沢）と東側斜面堆積土（Ⅵ）・西側斜面堆積土（Ⅶ）（第7図・写真図版6）

沢跡は姫待不動堂の基盤となる2回の整地と1号溝の下で検出した。堂北側の上流側から眞鏡山の表層地盤である凝灰岩を開削し、北上川支流の太田川に至る自然沢の流路である。沢跡は本調査区のほぼ全面に広がる様相で、北側トレンチの東西両端を拡張して掘り下げ、地山とみられる土層を検出した。検出長約10.50m、溝幅14.00m、深さ200cm以上を測る。調査区北西端の深掘りトレンチで検出した土層断面では、沢跡堆積土の直上に1期整地が被い、これを逆台形の1号溝が掘り込む。1期整地の直上には堂の基盤となる2期整地の地業層が被い、1号溝が存在した頃の表土は認められない。これは2期整地の盛土を行う直前に当地一帯を平坦に切土する地業を行ったのちに盛土を施したものと考えられる。沢跡の埋土は下層が砂や泥質土・植物腐植土の堆積がみられる自然堆積土の様相で、中位の火山灰土層を挟んで上位には流水性のシルトが堆積する。沢跡の埋土は、上位が褐灰～黒褐粘土で植物腐植物がやや多く入る。中位が十和田a降下火山灰とみられるにぶい黄～褐灰土で細かい粒子のテフラ層、下位は灰～褐灰を呈する砂質土と粘土のラミナや水分が多い泥質土が重なる。東側斜面土は1期整地以前の沢跡堆積土である。12世紀のかわかけ片が出土した。西側斜面堆積土は旧地形の上面に堆積する土砂が、9～10世紀の土師器と共に自然沢に流れ込んだ層位である。黒色炭化物を含む。

### 1期整地（Ⅴ）（第7・8図・写真図版2）

1期整地は当地の旧地形である自然沢の流路に地山を切土した土砂を用い、当地を平坦にするために行った大規模な地業層である。検出範囲は本調査区西辺と北東側の東西間で約14mの幅があり、北側トレンチの北壁側でも整地と同様の埋土が覆っていることから、沢地形のほぼ全面に広がっているものと考えられる。北西側トレンチ断面では約70cmの厚さがあり、鐘樓堂から当地の北側を回る参道通路の一段高い平坦部も含めてこれらは人為的な盛土地形であると推定される。1期整地に係わる遺構については、1期整地の上面が削平されているために痕跡は確認できないが、堂などの建造物や施設を構築することを目的として地業が行われた可能性がある。1期整地の年代は確定できないが、東側の沢跡斜面堆積土（Ⅷ）からかわかけ片が出土していること、堂の建立が近世であることから12～18世紀以前と推定した。

### 溝跡（第1・7図・写真図版2）

沢跡と2条の溝跡を検出した。沢跡は当地で「白山沢」と呼ばれる流路の前身で、12世紀～近世以前の自然流路である。1号溝は自然流路の1号溝を埋めた1期整地の直後に掘り込まれた溝跡である。18世紀まで開口し、2期整地により埋められている。2号溝は姫待不動堂の雨落溝で現代の溝跡である。

**1号溝（Ⅳ）** 1号溝は調査区北西側の北壁から南西側にかけて検出した。白山沢の自然流路全体を人為的に埋めた1期整地層を掘り込んで築かれた溝跡で、断面形は逆台形を呈し溝幅約3m、底幅1.20m、深さ約1mの大溝である。N10°Wの軸線で、底面標高は北西側74.28m、南西側74.04m以下で北から南に下る。上位の埋土は2期整地とみられる人為的な埋戻し土である。自然堆積の埋土は中位のにぶい黄褐や黄橙、灰黄褐シルトから下の層位がそれに当たり、下位は砂質と泥質土のラミナである。1号溝は1期整地の地業に伴い、白山沢の排水を確保する目的で築かれた一時期の流路と考えられる。

**2号溝（Ⅰ）** 姫待不動堂の四方を巡る雨落溝である。検出長は北辺9.80m、南辺10.80m、東辺10.00m、西辺10.00m、溝幅45～70cm、深さ2～10cmを測り、断面形は浅い皿形である。埋土はにぶい黄褐砂質シルト主体である。埋土から現代の陶磁器やガラス片などが出土し、古い様相は認められない。



写真図版1 西光寺跡第15次調査終了全景（南から）



写真図版2 北側トレンチ北西側 1号溝・1期整地・沢跡断面（南から）

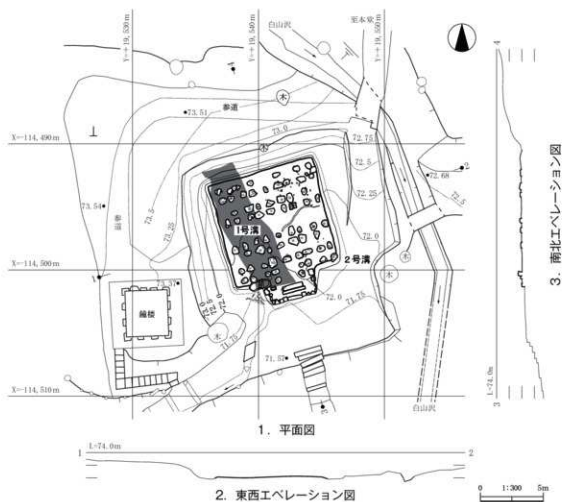
**(3) 遺物(第9・10図・表4～9・写真図版7)**

本調査区から12世紀のかわらけと常滑産陶器1点、平安時代(9～10c)の土師器甕1点と内黒土師器、銭貨、近世陶器、縄文土器、不明土器、鉄釘、鉄製品、近現代の陶磁器や雑物等が少量出土した。銭貨は古寛永と新寛永の波銭のほか、仙台北通寶や明治や大正時代の銭貨がある。賽銭とみられる現行の貨幣については達谷西光寺の所有物として扱った。これらの出土遺物の中から36点を抽出して図示した。1～3は12世紀のかわらけである。1は口縁で沢跡東側堆積土出土、2は手づくね、3はロク口底部、4は国産陶器で渥美産甕(12c)、5～8は近現代磁器(19～20c)、9は近世陶器で大掘相馬の鉢(18c)、10は在地産の陶器碗(19c)、11～13は土師器甕(9～10c前半)。11は小型甕の接合完形、12は内黒甕の胴部、13は長胴甕の底部破片である。土師器は調査区西側の黒褐色斜面堆積土から多く出土し、田表土からの流れ込みとみられる。14・15は縄文土器で、14は鉢もしくは深鉢、15は深鉢底部、16～31は銭貨で表土もしくは礎石掘方から出土した。16～23・25・29は寛永通寶で18と25は背11波である。21と22は古寛永、その他は新寛永である。24は桐一銭青銅貨(大正9年)、26～28は仙台北通寶で26は鋳が著しく、27は鋳と風化のため粉々の状態だが、28は状態良好である。30・31は半銭銅貨(1873～1888年)、32は不明鉄製品、33～35は鉄製品の和釘で堂の解体時に落下したものとみられる。36は1号溝出土の釘状の不明鉄製品である。

**4 まとめ**

本調査は達谷西光寺境内の「姫待不動堂」の改修(新築建替)に伴う内容確認調査である。調査の結果、堂は白山沢の旧地形である自然流路を人為的に埋めた2回の地業(1期整地・2期整地)と1期整地を逆台形に掘り込む1号溝の上に築かれていた。沢跡の下層には十和田a降下火山灰とみられる層が自然堆積しており、10世紀以前には沢の流路が開いた地形であったと考えられる。この流路が自然堆積により中ほどまで埋まった時期に1期整地を行い、この直後に1号溝が掘り込まれている。この溝には周辺部の土壌が風雨の侵食や風化により周辺から土砂が流れ込み、溝が中ほどまで自然堆積が進んだ段階で、姫待不動堂の基盤となる「2期整地」が行われ、基壇に礎石を据えて堂が築かれた。堂の周囲にみられる雨落溝には現代の雑物が混じる。出土した遺物は平安時代(9～10世紀)の土師器甕、12世紀のかわらけと常滑産陶器、近世以降の陶磁器、寛永通寶などの銭貨、鉄製品、縄文土器、近現代陶磁器や雑物が少量出土した。これらの調査成果から当地点の様相について、以下の変遷を想定している。

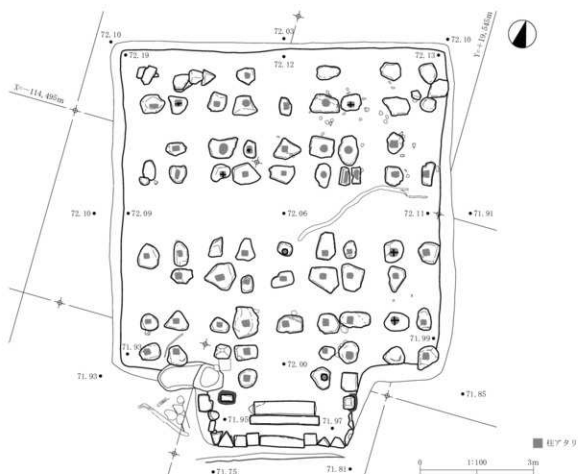
年代	内容
【10世紀以前】	白山沢(自然沢)の周囲に土師器甕を使用した生活空間が存在
【10世紀初頭】	白山沢の下層に十和田a降下火山灰が堆積(915年頃)
【12世紀】～【中世・近世】	沢に土砂が自然堆積して中位まで埋まる。人為的な地業による「1期整地」で沢全体を埋め立てる。この直後「1期整地」の西側に1号溝を南北に掘り込み、一時期の白山沢の流路とする
【18世紀】	1号溝が自然堆積土で中ほどまで埋まった頃に「1期整地」の上面を平坦に切土し、この直上に「2期整地」の地業を行う。「2期整地」の上面に礎石を据えて姫待不動堂が築かれる(1789年)
【昭和～現代】	堂の緑補修、保安設備等の電気ケーブル敷設工事、堂の全面的改修のため解体(令和4年)



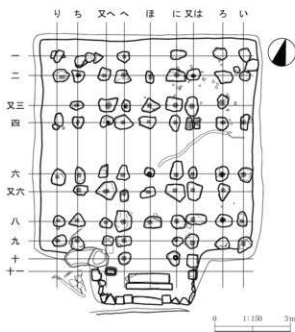
第1図 地形 平面図・エレベーション図 (1/300)



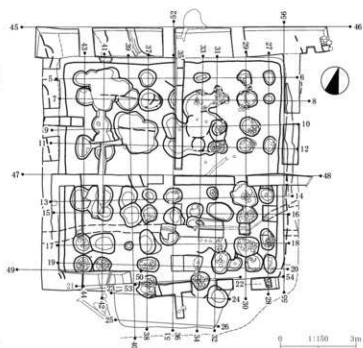
写真図版3 調査前状況 (南西から)



第2図 基壇及び礎石配置図 (1/100)



第3図 礎石番付図 (1/150)



第4図 測点位置図 (1/150)

表2 姫待不動堂礎石一覽

礎石番号	一	二	又三	四	六	又六	八	九	十	十一
い	い一 37×32×24 71.99m (堂北東端)	い二 41×37×27 71.99m	なし	い四 32×32×21 72.00m	い六 31×34×18 72.00m	なし	い八 37×35×35 71.86m	い九 48×64×28 71.90m (堂南東端)		
ろ	ろ一 46×50×15 72.06m	ろ二 46×48×20 71.99m	ろ又三 52×51×25 72.00m	ろ四 49×48×34 71.92m	ろ六 44×34×28 71.96m	ろ又六 44×65×30 71.96m	ろ八 63×45×37 71.83m	ろ九 55×47×30 71.96m		
又は	なし	又は二 32×42×18 72.03m	又は又三 31×75×28 71.99m	又は四 28×63×17 72.02m	又は六 32×48×20 72.01m	又は又六 60×69×21 71.95m	又は八 77×41×27 71.86m	又は九 47×56×36 71.92m	又十 39×50×19 71.92m	又は十一 22×32×41 71.93m 礎石の上にコン クリート東石 71.91m
に	に一 25×37×19 72.05m	に二 70×48×30 71.99m	に又三 56×31×26 71.99m	に四 38×63×17 72.02m	に六 30×22×15 72.04m	に又六 72×69×28 71.86m	に八 59×49×25 71.88m	に九 33×38×30 71.86m	に十 43×38×34 71.86m	
ほ	なし	ほ二 32×48×21 71.96m	ほ又三 73×34×32 71.93m	ほ四 64×37×19 71.91m	ほ六 36×34×28 71.91m	ほ又六 58×40×30 71.92m	ほ八 64×43×29 71.92m	なし	なし	
へ	へ一 31×43×22 71.99m	へ二 60×33×24 71.94m	へ又三 29×46×19 71.95m	へ四 73×58×25 71.90m	へ六 50×32×19 71.91m	へ又六 38×48×24 71.88m	へ八 60×80×24 71.82m	へ九 30×35×39 71.71m	へ十 38×41×36 71.71m	
又へ	又へ一 なし ち一東端石 35×37×29 東端石 33×45×27	又へ二 46×50×22 71.93m	又へ又三 74×35×35 71.82m	又へ四 31×48×27 71.86m	又へ六 34×50×15 71.92m	又へ又六 79×67×25 71.83m	又へ八 47×36×28 71.76m	又へ又九 40×39×43 71.83m	又へ十 31×31×12 71.91m	又へ十一 34×19×33 -m 礎石の上に コンクリート台 71.93m
ち	ち一 東側礎 30×43×13 72.02m	ち二 50×43×14 71.85m	ち又三 31×32×14 71.96m	ち四 42×48×31 71.79m	ち六 36×61×38 71.74m	ち又六 54×38×29 71.81m	ち八 62×50×33 71.72m	ち九 47×55×20 71.83m		
り	り一 土礎24×47×12 72.11m 下礎56×36×18 71.99m (堂北西端)	り二 64×49×12 72.03m	なし	り四 34×48×22 71.97m	り六 52×39×28 71.92m	なし	り八 48×44×28 71.80m	り九 53×44×27 71.81m (堂南西端)		

凡例 礎石東西通り番号 直数字(一〜十一) 礎石南北通り番号 いろは組(い〜ろ)  
礎石番号: 長さ×幅×厚さ(cm) ( )内は推定値 礎石上面の標高(m) 備考の順に記載

礎石(北)長さ105×幅19×厚さ30(北西角) 71.96m  
礎石(南)長さ105×幅19×厚さ30(南西角) 71.96m



堂礎石検出(南西から)

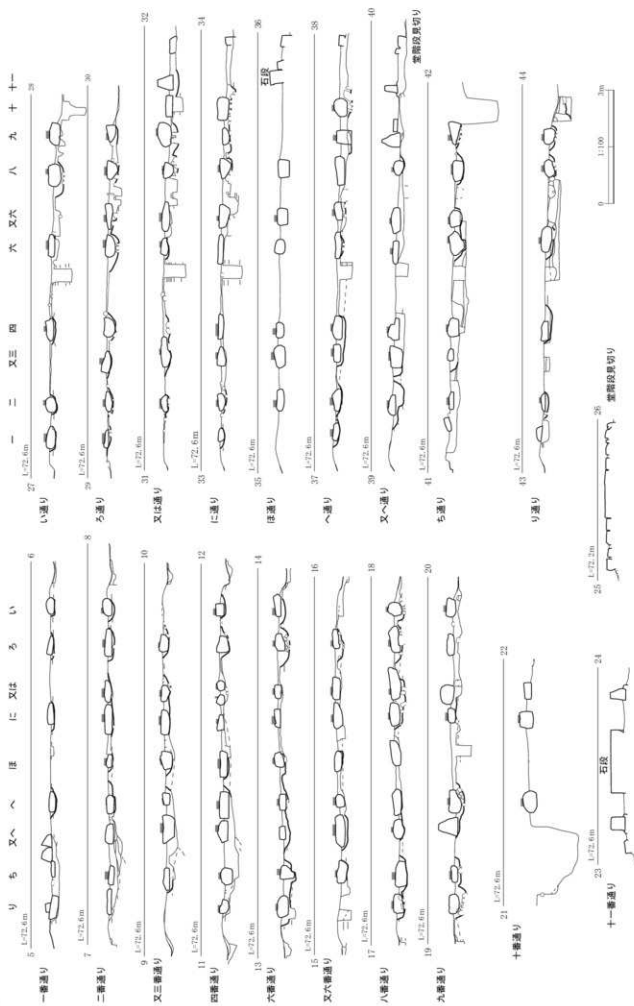


堂礎石の根石検出状況(東から)

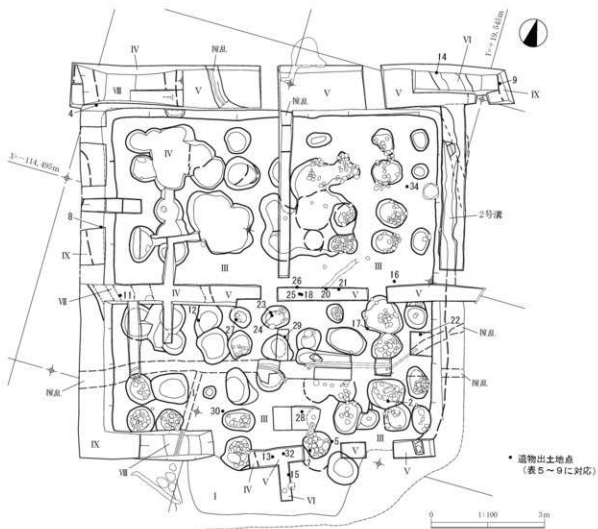
写真図版4 姫待不動堂の礎石と根石

表3 遺構 溝跡

溝跡	検出長 (m)	幅 (m)	輪郭	断面	深さ (cm)	底面標高 (m)	土色・土質 備考	新旧関係	年代
1号溝	3.00	0.75	N 23° W (推定)	逆台形 (推定)	18	北端71.58	上位 2期整地 人為土質 中位 土壌黄褐色、灰黄褐色、灰黄褐色の自然堆積土 下位 砂質土と泥質土のラミナ 自然堆積土	2期整地(堂) > 1号溝 > 1期整地 > 沢跡(白山段)	18世紀以前
2号溝	北 5.80 東10.00 西10.00 南10.80	0.50	N 15° W	浅い矩形	7	北端中央 72.02南西 71.62	埋土 10YR5/4に近い黄褐色シルト 磁珠ガラス片等の雑物少量混入	不動堂に伴う面遺溝	昭和~現代
3号溝 (白山段)	10.50	14.00	N 20° W (推定)	逆台形もしくは丁字形 (推定)	200以上	未観測	上位 褐色~黒褐色粘土 中位 土和山降下火山灰付テフラ 下位 灰~褐色砂質シルト、泥質粘土ラミナ 西側堆積面崩壊土、東側堆積土	なし	12世紀以前



第5図 礎石断面図 (1/100)

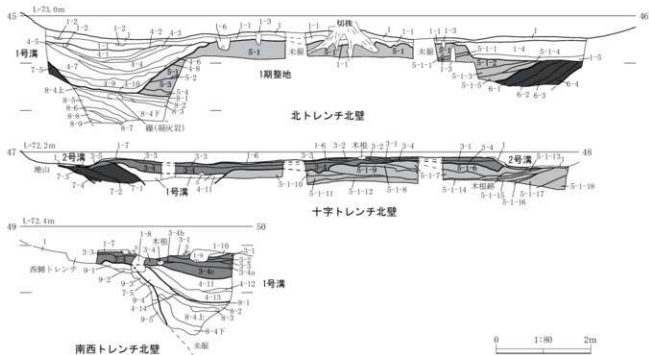


第6図 完掘図及び遺物出土地点位置図 (1/100)



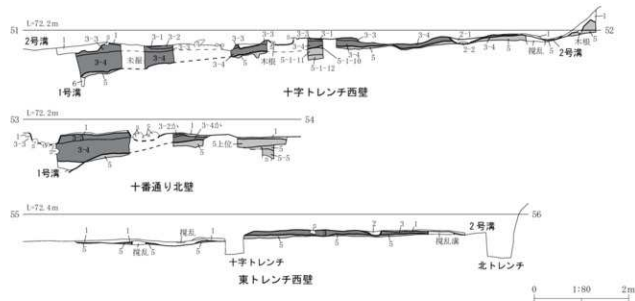
写真図版5 礎石掘方根石とトレンチ完掘 (南から)





第7図 土層断面図1 (1/80)

層	層	名称	土色・土質	内容	推定年代 期相・層代
I	1-1	表土	10YR4/3に多い黄褐色シルト	草場用に形成される	
	1-2	斜面埋土	10YR4/3に多い黄褐色シルト	電線パイプ埋設跡に覆土される	
	1-3	斜面埋土	10YR4/3に多い黄褐色シルト	2.5Y7/4黄褐色シルト+2.5Y7/4黄褐色シルト+堆山ブロック10%混	1-1の上位遺土層
	1-3	抗跡	10YR4/3に多い黄褐色シルト		
	1-4	北東側面込み	10YR4/3に多い黄褐色シルト+堆山ブロック+10YR4/2R黄褐色シルト30%	盛り込みを埋めた切土遺土	
	1-5	北東側面込み	10YR4/2R黄褐色シルト	変質10YR4/2R黄褐色シルト+2.5Y7/4黄褐色シルト	平坦面段状の盛り込み
	1-6	草床下埋土	10YR4/3に多い黄褐色シルト	草床下の風化埋土層	黄褐色粘土
	1-7	表土	10YR4/2R黄褐色シルト	グライ化	変質西南側の表土
	1-8	覆土	10YR4/3に多い黄褐色シルト+黄褐色シルト+堆山ブロック10%混	変質内積土層の覆土	
	1-9	覆土	10YR4/3に多い黄褐色シルト+黄褐色シルト+堆山ブロック20%混	電線ケーブル埋設の覆土	礎石南方と整地の一部を覆り込む
II	1-10	表土	10YR4/3に多い黄褐色シルト	段状下の表土層	
	2-1	安室右面方埋土	10YR4/3に多い黄褐色シルト+主体	階段不整安室右面方埋土	18世紀
	2-2	安室右面方埋土	10YR4/2R黄褐色シルト	グライ化	
	3-1	2期整地	10YR4/3に多い黄褐色シルト+主体	やや明るい	18世紀
	3-2	2期整地	10YR4/3に多い黄褐色シルト+主体	2.5Y7/4黄褐色シルト+堆山ブロック30~40%混	
	3-3	2期整地	10YR4/3に多い黄褐色シルト		
	3-4a	2期整地	10YR4/3に多い黄褐色シルト+主体		
	3-4b	2期整地	10YR4/3に多い黄褐色シルト+堆山ブロックシルト20%		
	3-4c	2期整地	上位10YR4/2R黄褐色シルト+主体+中位10YR4/2R黄褐色シルト	下位7.5YR4/4褐色酸化物混分10%混	全体に2.5Y7/4黄褐色シルト+堆山ブロック含む
	3-5	2期整地	10YR4/3に多い黄褐色シルト+主体		
III	4-1	1号溝	2.5Y7/4黄褐色シルト+10YR7/4に多い黄褐色堆山ブロック+主体+10YR4/3に多い黄褐色シルト30~40%	2期整地の一部	12世紀~11層
	4-2	1号溝	2.5Y7/4黄褐色シルト+10YR7/4に多い黄褐色堆山ブロック+主体+10YR4/3に多い黄褐色シルト20%混	人為埋土	2期整地の一部
	4-3	1号溝	10YR4/3に多い黄褐色シルト+主体+10YR7/4に多い黄褐色堆山ブロック10%混		
	4-4	1号溝	10YR4/3に多い黄褐色シルト+10YR4/2R黄褐色シルト+10YR4/3に多い黄褐色シルト5:1で10%混		
	4-5	1号溝	10YR4/3に多い黄褐色シルト+10YR4/2R黄褐色シルト+主体		
	4-6	1号溝	10YR4/3に多い黄褐色シルト+10YR4/2R黄褐色シルト+主体		
	4-7	1号溝	10YR3/3暗褐色シルト+10YR2/2暗褐色シルト+主体	10YR2/1褐色酸化物多く入る	
	4-8	1号溝	10YR6/3に多い黄褐色シルト	2層の下	1期整地の埋土層
	4-9	1号溝	10YR6/3に多い黄褐色シルト+主体+7.5YR4/4褐色酸化物混分5%混+2.5Y7/4黄褐色シルト+主体	1号溝断面に西側から覆れ込んだ埋土層	
	4-10	1号溝 最下位	5Y4/2R赤土層(砂質シルト)+土色(10YR5/2に多い黄褐色)+2.5Y5/2黄褐色シルト+主体		
IV	4-11	1号溝 南側上位	2.5Y7/4黄褐色シルト+10YR7/4に多い黄褐色堆山ブロック+主体+10YR4/3に多い黄褐色シルト30~40%	2期整地の一部	
	4-12	1号溝 南側中位	2.5Y7/4黄褐色シルト+10YR7/4に多い黄褐色堆山ブロック+主体+10YR4/3に多い黄褐色シルト20%混	人為埋土	2期整地の一部
	4-13	1号溝 南側下位	10YR4/3に多い黄褐色シルト+10YR7/4に多い黄褐色堆山ブロック10%混		
	4-14	1号溝 南側底面	10YR2/1暗褐色粘土+堆山ブロック+主体+10YR4/3に多い黄褐色シルト+主体+10YR4/3に多い黄褐色シルト5%混		
	5-1	1期整地	2.5Y7/4黄褐色シルト+堆山ブロック+主体+10YR4/3に多い黄褐色シルト30~40%	1号溝断面に西側から覆れ込んだ埋土層	12世紀~11層
	5-1-1	1期整地 北東側	2.5Y4/2黄褐色シルト+主体	整地中間部	堆山ブロックほとんど含まない
	5-1-2	1期整地 北東側	2.5Y7/4黄褐色シルト+粘土堆山ブロック+10YR6/6暗褐色シルト30~40%混	整地埋土から5cm以上はけず量出	
	5-1-3	1期整地 北東側	2.5Y7/4黄褐色シルト40%+2.5Y4/2黄褐色シルト140%混		
	5-1-4	1期整地 北東側	2.5Y7/4黄褐色シルト+堆山ブロック+2.5Y4/2黄褐色シルト150%混		
	5-1-5	1期整地 北東側	2.5Y4/2黄褐色シルト+主体+堆山ブロック20%混		
V	5-1-6	1期整地	5-1-6黄褐色シルト+堆山ブロック+主体	5-1-7黄褐色シルト+堆山ブロック+堆山黄褐色シルト10%	5-1-8黄褐色堆山ブロック+主体+5-1-9に多い黄褐色堆山ブロック+主体
	5-1-10	1期整地	5-1-10黄褐色堆山ブロック+主体+5-1-11に多い黄褐色シルト+黄褐色堆山ブロック20%	5-1-12黄褐色シルト+主体+堆山黄褐色シルト30%	5-1-13黄褐色シルト+主体+黄褐色堆山ブロック20%
	5-2	1期整地	7.5YR4/4暗褐色シルト+2.5Y7/4黄褐色堆山ブロックシルト30%	酸化分比高層	
	5-3	1期整地	7.5YR6/8暗褐色シルト+2.5Y7/4黄褐色シルト+シルト40%	酸化鉄分多し層	
	5-4	1期整地	50Y6/1オリーブ灰粘土+堆山ブロック+主体+10YR1/1褐色粘土+少量腐	グライ化	
	5-5	1期整地	10YR3/3暗褐色シルト+2.5Y7/4黄褐色シルト+堆山ブロック20%混		



第8図 土層断面図2 (1/80)

層	層	名称	土色・土質	内容	推定年代	
VI	6-1	東側斜面堆積土	10B3/2灰黄地～10B3/2黒褐色質・10B3/3暗褐色シルト主体		12世紀～近世	
	6-2	東側斜面堆積土	10B3/2灰黄地シルト主体	下位原質		
	6-3	東側斜面堆積土	10B3/3暗褐色シルト主体	酸化鉄分少量		
	6-4	東側斜面堆積土	10B3/2黒褐色シルト主体			
VII	7-1	西側斜面堆積土	10B3/2暗褐色シルト	自由灰(西側の巨礫埋層堆積土)	8～10世紀	
	7-2	西側斜面堆積土	7.506/2灰オリーブ砂質シルト	斜面礫土・下位は礫山ブロック主体		
	7-3	西側斜面堆積土	7.5036/8粘土・酸化鉄分少量土	2.507/4灰黄地シルト～シルト40% 酸化鉄分多い		
	7-4	西側斜面堆積土	5V4/1灰砂質シルト			
	7-5	西側斜面堆積土	10B3/2灰黄地シルト+2.507/4灰黄シルト・礫山ブロック20%混	礫山礫土	西十字トレンチ	
	8-1	穴跡	10B3/7黒灰～10B3/1黒粘土	深層で粘り面層中に穴や多くなる		
	8-2	穴跡	2.504/3オリーブ焼火山灰上層	細小な粒子状の粘土が混入して黒味がある	10世紀以前	
	8-3	穴跡	2.506/4に多い黒火山灰テフラ	細小な粒子状の火山灰土	十番通り跡下火山灰とみられる一次堆積土	
	8-4	穴跡	5V4/1灰砂質シルト	礫灰(礫含む)	斜面礫土	10世紀以前
	8-5	穴跡	2.504/1灰砂質シルト+2.503/1オリーブ灰地山ブロック砂質シルト20%1～2m大で混	水分多		
VIII	8-6	穴跡	10B3/7黒粘土主体			
	8-7	穴跡	10B3/2黒粘土+シルト20%混	水分多で軟質		
	8-8	穴跡	5V4/2灰オリーブ砂質土+灰質土20%混			
	8-9	穴跡	5V4/2灰オリーブ粘土			
	8-10	穴跡	南西トレンチ			
	8-11	穴跡	10B3/2灰黄地シルト	粘り強い灰質土	10世紀以降	
	8-12	穴跡	火山灰土	2.507/3灰黄～2.507/2灰黄テフラ	約10cmの厚さで堆積する十番通り跡下火山灰とみられる層	8-3と同一
	8-13	穴跡	7.505/2灰オリーブ砂質土+砂質土20%+5V4/1灰黄質土10%混		10世紀以前	
IX	9-14	穴跡	5036/1オリーブシルト主体+砂質土20%+5V4/1灰黄質土10%混		10世紀以前	
	9	塋山	2.507/4灰黄シルト主体			
	9-1	塋山	2.507/4灰黄シルト			
	9-2	塋山	10B36/4に多い黒粘砂質シルト			
	9-3	塋山	2.507/4灰黄シルト～粘土			
	9-4	塋山	2.507/3灰黄砂質シルト+7.5036/8粘土酸化鉄分少量層			
X	9-5	塋山	6036/1オリーブ灰シルト主体			
	2号溝	埋土	10B3/7に多い黒粘砂質シルト	壁の崩落跡 ガラス片、近現代磁器、ビニール等少量出土	昭和～現代	

表4 遺物集計表

層	出土地点・層位	かわらけ(磁器技法)	国産陶器	土師器	近世陶磁器	近現代陶磁器	金属製品	銭貨	その他
I(1)	表土・礎瓦	3(不明)		2	陶器1 (大塚相馬18c)	磁器2 陶器1	不明鉄製品5 鉄釘(洋釘)6 鉄釘(洋釘)2	寛永通寶8 手銭銅貨1	縄文土器1、不明土器4、漆塗器1、雑物少量
I	2号溝 埋土					磁器1		寛永通寶1	ガラス片等少量
	い六 板瓦							寛永通寶1	
	い七 板瓦							寛永通寶1	
	(礎石張り直し)							手銭銅貨1	
II(2)堂礎石板瓦	い六 板瓦							寛永通寶1	
	い七 板瓦	1(不明)						手銭銅貨1	
	い八 板瓦							手銭銅貨1	
	い九 板瓦							手銭銅貨1	
III(3)	1号溝		1(ロクロ)						
	1号溝		1(ロクロ)						
	1号溝		1(ロクロ)						
	1号溝		1(ロクロ)						
IV(4)	1号溝		1(泥瓦産地2c)	3					縄文土器1 不明土器1
	1号溝	14(手づかぬ)・不明13)		3					縄文土器2 不明土器2
V(5)	1号溝		1(ロクロ)						縄文土器1
	1号溝		1(ロクロ)						
VI(6)	東側斜面堆積土	1(ロクロ)							
	西側斜面堆積土								
VII(7)	西側斜面堆積土								
	西側斜面堆積土								
合計	合計	24(手づかぬ)・ロクロ2・不明21)	1(泥瓦産地2c)	49(表1層位混合)	陶器1 (大塚相馬18c)	磁器4 陶器1	不明鉄製品6 鉄釘(洋釘)12 鉄釘(洋釘)2	16)寛永通寶10・山内通寶2・一銭銅貨1・手銭銅貨2)	縄文土器5 不明土器6 土製品1 漆塗器1 雑物(ガラス片、ビニール片等)少量

かわらけ



国産陶器



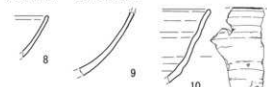
縄文土器



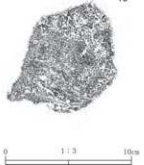
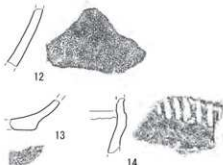
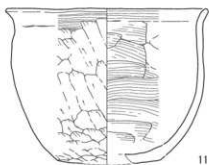
近現代磁器



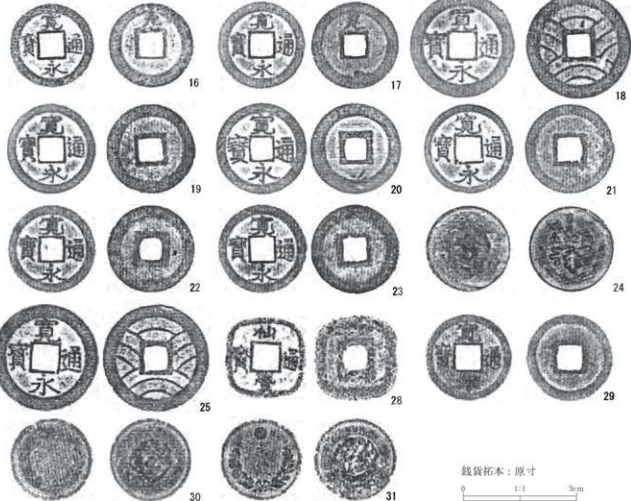
近現代磁器 近世以降陶器



土師器

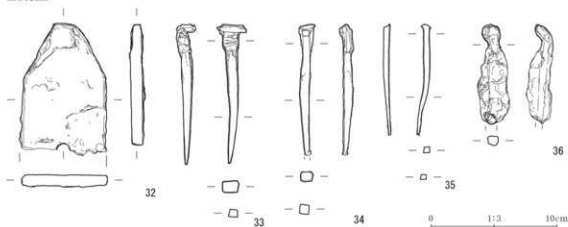


銭貨



第9図 出土遺物1 (1/3・原寸大)

## 金属製品



第10図 出土遺物2 (1/3)

表5 遺物観察表 かわらけ

No.	図版	写回	層	出土位置・層位	種類	形状	部位	法量(推定)cm			残存率(%)	年代	備考(標高m)	登録
								口径	底径	器高				
1	9	7	Ⅲ	北側トレンチ北東 東側埋土上	かわらけ	口タロ・底	口縁一体	-	-	-	小片	13c	(71.78)	47
2	9	7	V	北八の南溝リ・1期埋土	かわらけ	口縁一体	-	-	-	-	小片	13c	(71.82)	17
3	9	7	V	東溝・1期東地検出面	かわらけ	口タロ・底	-	-	-	-	小片	不明	(71.25)	85

表6 遺物観察表 国産陶器・近世～現代陶磁器

No.	図版	写回	層	層位	種類	器種	部位	年代	備考(標高m)		登録
									焼成不良(72.03)		
4	9	7	Ⅲ	西トレンチ 2期埋土	陶器	甕	底	12c	焼成不良(72.03)		25
5	9	7	I	北への西 表土1層	陶器	甕	底～高台	19～20C	惣鉢(71.99)		4
6	9	7	I	全体検出一括 1層	陶器	甕	体	19～20C	産地不明		5-1
7	9	7	Ⅲ	北に十南西側方 礎石敷え直し	陶器	甕	底～高台	20C	惣鉢(71.85)		15
8	9	7	I	西トレンチ 2号埋土上	陶器	甕	口縁一体	20C	産地不明(71.91)		29
9	9	7	I	北トレンチ 東端1層	陶器	甕	体	18C	丸瓶相馬(72.23)		16
10	9	7	I	北トレンチ 東端1層	陶器	甕	口縁一体	19	在池 4片集合(72.42) 惣鉢		4

表7 遺物観察表 土師器・縄文土器

No.	図版	写回	層	出土位置・層位	種類	器種	部位	年代	備考(標高m)		登録
									口径(口)	底径(底)	
11	9	7	Ⅲ	西側斜溝埋土 灰黄層シルト	土師器	長頸甕	口縁～胴	9～10C	口径160・底径82・器高12.3cm	破片集合(7.7)	80
12	9	7	I	又へ六の西 表土1層	土師器	長頸甕	胴下	9～10C	内面黒色(71.94)		10
13	9	7	Ⅲ	は九付迄 十字トレンチ1号溝の上 3-1層	土師器	長頸甕	胴下～底	9～10C	内面十字彫整		70
14	9	7	V	北側トレンチ東側埋土 1期埋土	縄文土器	不明	胴	縄文	7cm大の破片(71.62)		84
15	9	7	Ⅲ	十字トレンチ南端 北に灰黄層シルト	縄文土器	不明	底	縄文	内面十字彫 底径12.8cm	(71.27)	47

表8 遺物観察表 銭貨

No.	図版	写回	層	出土位置・層位	素材	法量 直径(cm)	重量(g)	調査年代(初調)	備考(標高m)		登録		
									寛永通寶(古)				
16	9	7	I	ろ六の北	銅銭	2.3	1.9	1626(寛永3年)	寛永通寶(古)	(72.14)	1		
17	9	7	I	ろ六・ろ又六の西	1層	銅銭	2.3	2.3	1668(寛文3年)	寛永通寶(新)	(72.11)	2	
18	9	7	I	十字トレンチ	1層	銅銭	2.7	4.2		寛永通寶(新)銭銭(11度)	磨滅片(72.05)	39	
19	9	7	I	調査区全体一括	1層	銅銭	2.3	2.2		寛永通寶(新)		12	
20	9	7	I	十字トレンチ	1層	銅銭	2.4	3.4	1626(寛永8年)	寛永通寶(古)	(72.08)	40	
21	9	7	I	十字トレンチ	1層	銅銭	2.4	2.9		寛永通寶(古)	(72.08)	41	
22	9	7	Ⅲ	い六の南	1層	銅銭	2.3	2.7		寛永通寶(古)	(71.91)	14	
23	9	7	Ⅲ	は六西側方直し	掘方埋土	銅銭	2.3	1.8	1626(寛永8年)	寛永通寶(古)	(71.98)	裏土直し痕入	34
24	9	7	Ⅲ	は六東側方直し	掘方埋土	銅銭	2.3	3.8	1820(天正9年)	銅一厘有脚銭(71.97)	裏土直し痕入	25	
25	9	7	I	十字トレンチ	1層	銅銭	2.8	4.5	1769(明和6年)	寛永通寶(新)銭銭(11度)	(72.05)	28	
26	-	-	-	十字トレンチ	1層	鉄貨	2.2	2.9	1784(天明4年)	始台通宝	銭銭が著しい(72.05)	27	
27	-	-	-	へ六	掘方埋土	鉄貨	不明	25		始台通宝	銭銭著しく、現状態+ (71.96)	49	
28	9	7	I	は八・は九の西	1層	鉄貨	2.1	3.2		始台通宝	(72.04)	3	
29	9	7	I	は又六付近	1層	銅銭	2.3	2.5	1626(寛永3年)	寛永通寶	(72.04)	45	
30	9	7	Ⅲ	へ九東側方直し	掘方埋土	青銅銭	2.2	3.3	1873～1888	手銭銀貨	年号確認のため不明(71.80)	36	
31	9	7	I	全体検出一括	1層	銅銭	2.1	2.9	(明治6～21年)	手銭銀貨	年号確認のため不明	74	

表9 遺物観察表 金属製品

No.	図版	写回	層	出土位置・層位	種類	法量(残存)cm			重量(g)	備考(標高m)		登録	
						長さ	幅	厚さ					
32	10	7	I	全体一括	表土1層	鉄製品	10.3	7.0	0.8	265.8	一端欠損欠の深目	外面に錆(71.92)	11
33	10	7	I	不動堂解体時	表土1層	鉄釘	11.0	2.3	1.5	40.8	内釘		6.1
34	10	7	I	い二・ろ二の南	表土1層	鉄釘	<10.4>	1.4	0.9	28.7	(72.12)		6.9
35	10	7	I	西側トレンチ 2号溝	埋土	鉄釘	<8.8>	0.5	0.4	9.4			30.1
36	10	7	Ⅲ	南西トレンチ 1号溝	埋土	鉄製品	7.8	2.6	0.8	29.4	不明鉄製品	内釘か(71.25)	77



写真図版5 調査終了全景(北から)



1.北側トレンチ北壁と北東側礎石掘方(南から)



2.北側トレンチ北東側 北壁断面(南から)



3.南西トレンチ北壁断面(南から)



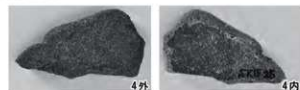
4.十字トレンチ東側と礎石掘方の根石(南から)

写真図版6 遺構完掘状況

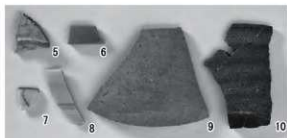
## かわらけ



## 渥美産甕



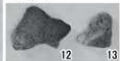
## 陶磁器



## 土師器



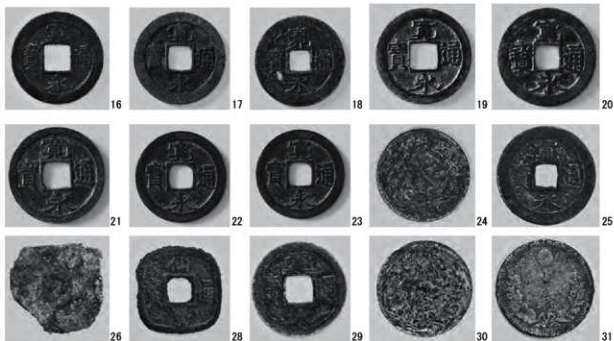
## 土師器



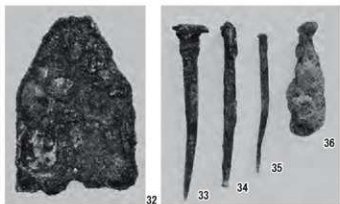
## 縄文土器



## 銭貨



## 金属製品





姫待不動堂 解体前現状（南から）



姫待不動堂（東から）



姫待不動堂（北東から）



堂付近の白山沢上流（南から）



堂付近の白山沢下流（北から）

写真図版8 解体前の姫待不動堂と現状の白山沢

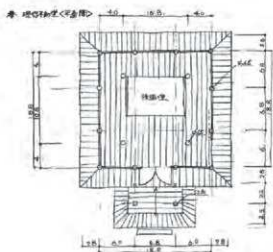


図 現行不動堂<平面-前>



図 現行不動堂<平面-右>



第11図 現行不動堂 (原図 達谷窟敬祐氏)



第12図 姫待不動堂礎石配置図



写真図版9 堂礎石と実測 (南西から)



# 志羅山遺跡第120次発掘調査

## 1 調査要項

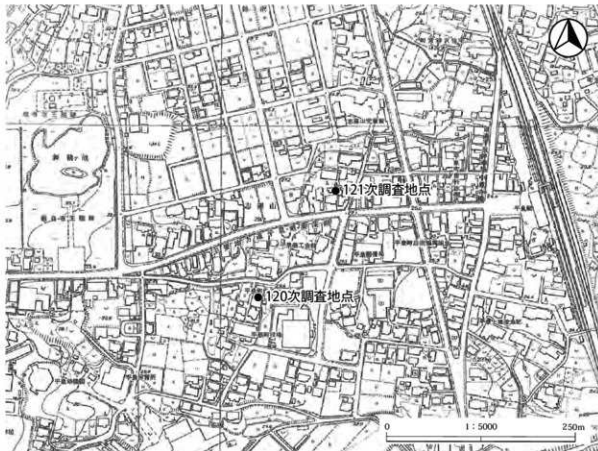
調査地点	岩手県西磐井郡平泉町平泉字志羅山50番地1
調査面積	216㎡
調査期間	(120-1) 令和4年4月5日～6月3日 (後調査：120-2) 6月21日～7月6日
原因	住宅及び駐車場整備
担当	鈴木江利子

## 2 位置と経過

調査箇所はJR東北本線平泉駅や公共施設から近い住宅地にある。志羅山遺跡の中央に位置し、これまでの周辺の調査では区画溝や掘立柱建物跡、井戸や土坑など多くの遺構を検出し、遺物も多く出土している。周辺の地形は平坦な箇所が多いが、本調査区の北側を東西方向に通っている町道は、やや低くなっている。この町道は特別史跡・特別名勝となっている毛越寺から東に向かう12世紀の道路と重なり、縮少されながらも現在まで使われている。

調査は住宅建築箇所を中心に行っているが、駐車場を計画した北側も、擁壁解体や整地などの掘削を伴うため後日調査を行った。報告は住宅予定地を「120-1」とし、駐車場部分の後からの調査を「120-2」もしくは「後調査」とする。本文中や表は特に断りがない場合は「120-1」である。両方にまたがる溝などは合計の数値で報告している。

また調査区内で下水管の取付け工事の立会を行っており、合わせて報告する。(第2図・写真図版5)



第1図 位置図

### 3 調査成果

検出遺構は柱穴94個、土坑4基、トイレ状遺構1基、溝跡9条等である。

出土遺物はかわらけ、中国産陶磁器、国産陶器、鉄製品、古銭、木製品等である。

#### (1) 柱穴・掘立柱建物跡

**柱穴：**調査途中で欠番となったものもあるが、全体で94個検出した。また百番代は後調査で検出した柱穴である。周辺の検出状況や埋土の状態から12世紀の柱穴が多いと考えられる。西・南側の一部の柱穴は、開口部は狭いが深く、締まりのない埋土のため近世と考えられる。P6・72・129は2間分であるが特徴が一致し、同じ建物を構成する柱穴と考えられる。P113からは永楽通宝が2点出土し、近世の地鎖遺構の可能性がある。P19・37など1・2号土坑周辺の柱穴も近世と考えられる。

掘立柱建物跡は2棟構成している。位置が重複することから建替を行っているが、どちらも12世紀中と考えられる。柱穴列は東西方向の1号柱穴列は1号掘立柱建物跡と重複する。2号柱穴列は軸方向も異なり、近世の建物の一部と思われる。

**1号掘立柱建物跡：**南北3間、東西1間の母屋に、四面に庇を持つ建物である。母屋の柱間隔は東西が4.3～4.4m、南北は2.4～2.55mである。東西方向は本来2間であったと考えられるが柱穴の想定位置が調査区外や攪乱があったため確認できなかった。庇の出は西が1.5～1.6m、南は1.6m、北は1.6mの箇所には無く2.0m離れた2個を使用した。南東側は調査区外にある。

**2号掘立柱建物跡：**南北1間、東西3間以上が考えられ西側に延びる可能性がある。柱間隔は南北が1.9～2.0m、東西は2.4～2.55mである。P27・59の1号掘立柱建物跡との切り合いから2号掘立柱建物跡の方が古い。また3個の柱穴が重複しており、新旧関係と柱間隔から構成する柱穴を判断した。

遺構名	規模(庇を含む・m)				庇	方向	新旧	構成柱穴	出土遺物(遺物番号)
	間数	全長	間数	全長					
1号建物	5	10.2	3	7.3	四面	N-2°-E	4号溝1期・2号建物より新、77・38・28・106・24・23・1・2・5号溝・4号溝2期より旧	101・111・75・65・105・77・38・28・106・24・23・60・54・21・67・40	かわらけ 土壁 (65・69) 柱根 (109)
2号建物	1	1.9	3	7.4	-	N-90°-E	1号溝・1号建物より旧	31・2・27・69・4・3・59	かわらけ 粘土塊
1号柱穴列	-	-	4	9.8	-	N-90°-E	10号溝より新	128・66・102・103・110	かわらけ 国産陶器 (34) 土壁 (89)
2号柱穴列	2	5.9	-	-	-	N-18°-E	6号溝より新	6・72・129	かわらけ (9)

**1号柱穴列：**殆どを120-2調査で検出した。東西方向に並び、東側に延びる可能性がある。柱間隔は2.4～2.5mである。P66が1号掘立柱建物跡P65と僅かに接しており、当遺構が古いと判断した。

**2号柱穴列：**調査区西端に位置する。P129・72・6で構成され、柱間隔は2.9～3.0mである。南調査区外に延びる様子で、西に展開する近世の建物の一部と考えられる。水分を含む埋土で深く掘り込んでいることなど柱穴の特徴が似る事から、同じ建物を構成するものと判断した。

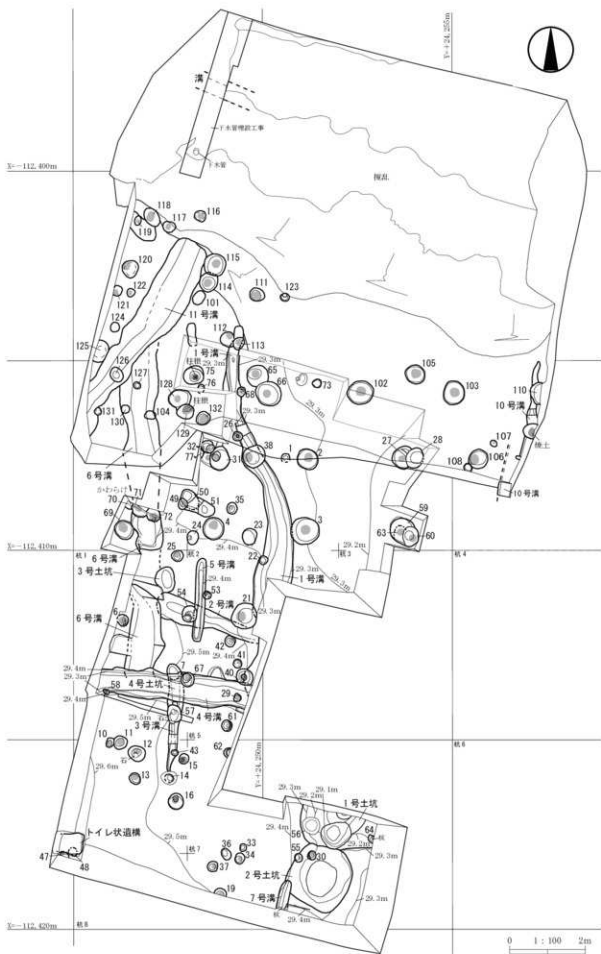
#### (2) 土坑

**1号土坑：**調査区南側で検出した。上層は黒色、下層は明黄褐色等の粘土ブロックが主体となっている。底には窪みを数か所有している。2号土坑との新旧関係は定かではないが、当遺構の上層が若干2号土坑を覆っていた様子がある。共に近世以降の遺構である。

**2号土坑：**1号土坑と隣り合っている。浅い皿状の遺構で、埋土は1号土坑の上層と似通っている。P30には切られており、P55・7号溝は当遺構より古い。近世の遺構である。

**3号土坑：**調査区の中央付近に検出している。かわらけを多く含み、12世紀の遺構と考えられる。極浅い皿状であり、上部が削られて下層のみ残った状態で、浅い窪みの可能性がある。

**4号土坑：**4号溝上に検出し埋土にはかわらけや炭を多く含んでいる。3号溝の北の延長上にあり、P57の上層に延びている。形状は窪み状で、深さは10cm程度である。年代は12世紀と考えている。



第2図 全体図

## (3) トイレ状遺構 (18号土坑)

調査区南西隅に検出した。遺構の北東隅を先に検出し、後に拡張している。南端は柱穴 (P 47・48) に切られている。北東の上層でかわらけの破片が多く出土した部分があり、柱穴等が重なっていた可能性があるが断面では確認出来ない。埋土上層は暗オリーブ褐色の締まった土で、炭を多く含んでいる。中層に壁の崩壊層があり、下層は滞水性の粘土層で、最下層の種を多く含む層の上は地山起源の緑灰色の粘土を主体に埋めている。遺物は木片や、ちゅう木と思われる細い板、ナス類等の種、寄生虫卵が7層から多く出土した。12世紀のトイレ状遺構と考えられる (88頁参照)。

遺構名	平面形	規模 (m)		標高 (m)		深さ (m)	新旧	出土遺物 (遺物番号)
		上面 (長×短)	底面 (長×短)	検出	底面			
1号土坑	円か	[1.00]×[2.05]	0.66×[0.34]	29.40	28.92	0.50		かわらけ 国産陶器 (12) 土壁 (68) 木片 種子 (115) 石器断片
2号土坑	円	1.70×1.70	0.90×0.80	29.41	29.23	0.18	7号溝	かわらけ 国産陶器 (13) 土壁 (69～76, 84～86) 角釘 (95) 鉄洋 (103)
3号土坑	楕円	0.70×0.50	0.50×0.25	29.51	29.47	0.04		かわらけ
4号土坑	長楕円	[1.04]×[0.44]	[0.86]×[0.24]	29.53	29.41	0.12	4号溝より新	かわらけ (8)
トイレ状遺構	隅丸方	0.60×[0.65]	0.63×0.64	29.62	28.70	0.92		かわらけ 縄文土器 (51) 土壁 (68) 加工木種子 (117・118)

※[]は未定測での計測値

## (4) 溝跡

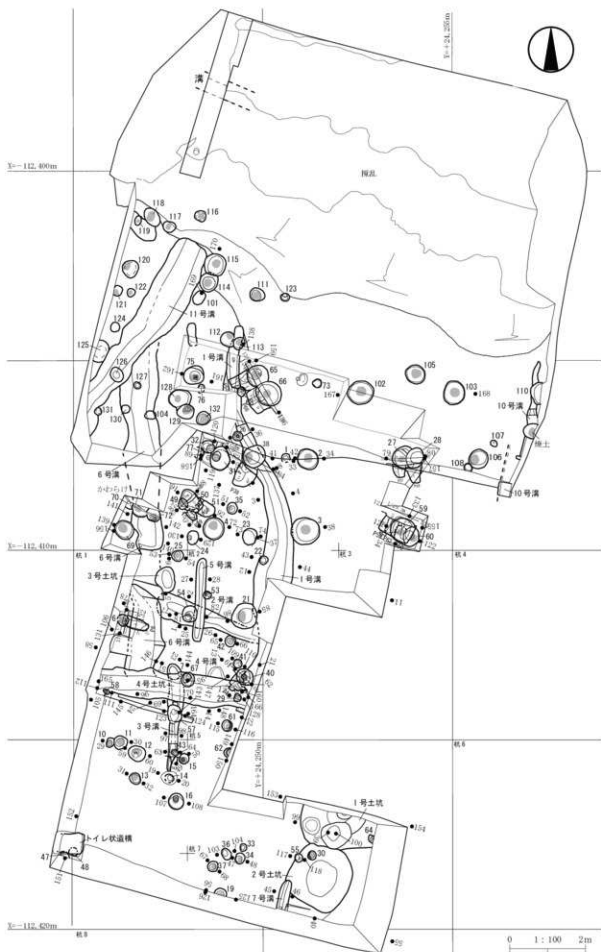
1号溝から11号溝まで9条の溝を検出した。1号溝は南に向かい幅が広くっており、かわらけを多く出土した。4号溝は直線的な形状から区画を意図した可能性がある。6号溝は浅いが北側の120-2調査区まで延びている。3・5・7・10号溝については浅いこと、砂の堆積が見られない点で共通する。底の一部に板の打込み跡が残り、堀の残欠の可能性がある。

**1号溝:** 調査区中央から北側で検出した。方向は南側では南北方向で、中央は北西方向に傾き、北側では南北方向を示す。南側は調査区外に延び、西側の縁は4号溝の上を通っている。南延長は検出していないため、消失したか流路を変えている可能性もある。延長上に1号土坑と2号土坑があり、掘削されている事も考えられる。かわらけが多く出土している事から12世紀の遺構と考えられる。

**2号溝:** 調査区中央に検出し、東西方向に伸びている。柱穴等の遺構の上を覆うことから、周辺よりは新しい遺構である。東側の調査区外に向かい底が若干低くなる。端部は消失しているため、1号溝との関係が不明瞭である。年代は不明である。

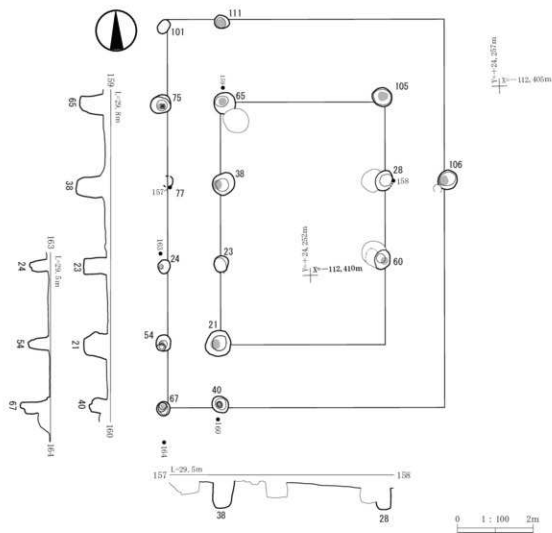
遺構名	規模 (m)		方向	標高 (m)		深さ (m)	新旧	出土遺物 (遺物番号)
	検出長	検出幅		検出	底面			
1号溝	10.10	0.25～1.08	N-10°-W	29.33～29.42	29.22～29.27	0.07～0.20	4号溝・1・2号建物より新	かわらけ (1～5) 国産陶器 (11) 中国産陶磁器 (37・38) 土壁 (77～79) 鉄製品 (91～93) 鉄洋 (100・101) 粘板岩 不明土製品
2号溝	3.00	0.40～0.70	N-65°-W	29.40～29.52	29.40～29.47	0.03～0.06	5・6号溝・1号建物より新	かわらけ
3号溝	1.80	0.10～0.25	N-5°-E	29.51	29.43～29.45	0.05～0.08		かわらけ 土壁 (88) 不明土製品
4号溝	4.00	0.65～0.80	N-84°-W	29.52	29.17～29.27	0.08	P29より新、1・6号溝・4号土坑より旧 1号建物より旧 2期は新・1期は旧	かわらけ 角釘 (94)
5号溝	2.20	0.25	N-5°-E	29.44～29.50	29.39～29.42	0.03～0.09	1号建物より新 2号溝より旧	
6号溝	9.50	0.60～1.00	N-1°～3°-W	29.42～29.50	29.33～29.42	0.03～0.10	4号溝より新 2号溝・11号溝より旧	かわらけ 鉄洋 (102)
7号溝	0.80	0.35	N-15°-E	29.43～29.48	29.36～29.40	0.25～0.32	2号土坑より旧	
10号溝	3.80	0.15～[0.33]	N-7°-E	28.90～29.20	[28.87]	0.07～0.10	1号柱穴列より旧	
11号溝	5.60	0.90～1.10	N-36°-E	28.56～29.41	29.24～29.33	0.08～0.15	6号溝より新	かわらけ 中国産磁器 (47)

※無い番号は欠番[]未定測での計測値

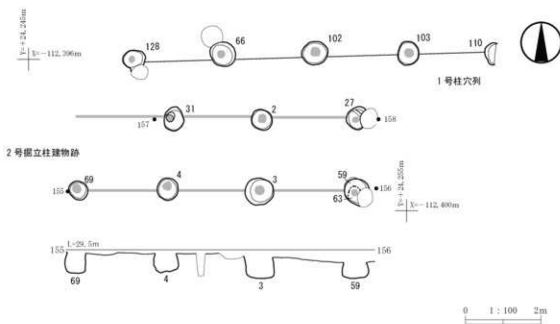


第3図 測点位置図

志羅山  
120



第4图 1号掘立柱建物跡



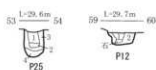
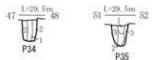
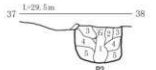
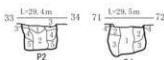
第5图 2号掘立柱建物跡・1号柱穴列

**3号溝**：調査区南側で検出した。1.6～1.7mの距離で、南北方向に伸びている。北側で石2か所と絡んでいるが、溝に取まらない大きさで、南側の石の上を当遺構が通る様子である。北側の石の箇所にはトレンチを設け、柱穴57と3号溝の関係を確認したが、断面では判断できなかった。平面確認では柱穴の上面を溝が通る様子から、P57より新しい可能性がある。4号溝に接触する箇所では、4号土坑の層と思われるかわらけを含む層が上面に広がり、当溝の延長はなくなっている。

**4号溝**：南寄りて検出した東西方向の溝である。東側は1号溝が上部をかすり、西側は調査区外から続く自然堆積層や6号溝が重なり全体の姿を隠していた。また中央にも柱穴や窪みとの重複があった。当初4号溝は一時期の溝跡と思われる調査を進めたが、堆積状況や、柱穴との切り合いから二時期あると判断した。上層は暗灰黄色やオリーブ褐色を呈し、上位に淡黄色粘土ブロックが堆積する場合がある。下層は淡黄色や浅黄褐色の粘土ブロックを主体としている。溝中に検出したP67は4号溝の上層には切れ、下層は切っている。このことから4号溝は下層（Ⅰ期）と上層（Ⅱ期）で時期差があり、間にP67（1号掘立柱建物）の時期をはさむ。遺物を出土しない事もあり下層の年代は不明であるが、上層は12世紀中と思われる。

**5号溝**：調査区中ほどに検出した南北方向の溝で、小規模であるが直線的である。断面25-26にある板状の痕跡は他所には検出していないため、塀跡と判断する材料は少ない。

## 柱穴(1)



## 33-34

2. 5/4-2階灰黄粘土シムリ密 地山ブロック (φ5cm) 少、鉄分、炭化物
2. 5/4-2階灰黄粘土シムリ密 地山ブロック (φ5cm) 下に傾り60%、鉄分多、炭化物
2. 5/4-2階灰黄シルト 粘性弱 しまり密 地山ブロック (φ3cm) 80%、鉄分多、炭化物
2. 5/4-2階灰黄シルト 粘性弱 しまり密 地山ブロック (φ5cm) 90%、鉄分多、炭化物
- 注1 地山粘土 しまり密 2. 5/4-2階灰黄粘土、鉄分多

## 37-38

2. 5/3-3階オリーブ粘粘土 しまり密 地山ブロック (φ3cm) 20%、鉄分多、炭化物
2. 5/3-3階オリーブ粘粘土 しまり密 地山ブロック (φ3cm) 10%、鉄分多、炭化物
2. 5/3-3階オリーブ粘粘土 しまり密 地山ブロック (φ5cm) 10%、鉄分多、炭化物

## 19-20

2. 5/4-2階灰黄粘土 しまり密 地山ブロック (φ5cm) 30%、鉄分多、炭化物

## 31-32

- 10/184-2階黄粘土 しまり密 2. 5/7-2階黄・10/185/6 黄粘土ブロック、炭化物
- 10/184-2階黄粘土 しまり密 2. 5/7-2階黄・10/185/6 黄粘土ブロック、炭化物

## 47-48

2. 5/3-3階オリーブ粘粘土 しまり密 地山ブロック (φ5cm) 下に傾り40%、鉄分多、炭化物
2. 5/4-2階灰黄粘土シムリ密 地山ブロック (φ5cm) 70%、炭化物

## 53-54

2. 5/4-2階灰黄粘土シムリ密 地山粘粒、鉄分多、炭化物
2. 5/4-2階灰黄シルト 粘性弱 しまり密 地山ブロック (φ3cm) 80%、鉄分多、炭化物
- 10/184-2階粘粘土 粘性弱 しまり密 地山粘土、鉄分、炭化物
- 注1 地山粘土 しまり密 2. 5/4-2階灰黄粘土、鉄分多、炭化物

## 71-72

2. 5/3-2階粘粘土 しまり密 地山ブロック (φ5cm) 80%、鉄分、炭化物
2. 5/3-3階粘粘土 しまり密 地山ブロック (φ3cm) 20%、鉄分多、炭化物
2. 5/3-3階粘粘土 粘性弱 しまり密 砂質分、地山ブロック (φ5cm) 90%、鉄分多、炭化物
- 注1 地山粘土 若干腐食

## 4

2. 5/3-3階オリーブ粘粘土 しまり密 地山ブロック (φ5cm) 80%、鉄分多、炭化物
- 注1 地山粘土 しまり密 2. 5/4-2階灰黄粘土、鉄分多

## 29-30

2. 5/4-2階灰黄シルト 粘性弱 しまり密 地山ブロック (φ3cm) 一様に少、鉄分、炭化物
2. 5/4-2階灰黄シルト 粘性弱 しまり密 地山ブロック (φ3cm) 西に傾り70%、鉄分多、炭化物
2. 5/5-2階灰黄粘土 しまり密 地山ブロック (φ3cm) 30%、鉄分多、炭化物
2. 5/5-2階灰黄粘土 しまり密 地山ブロック (φ3cm) 50%、鉄分多、炭化物

## 35-36

2. 5/3-2階粘粘土 しまり密 地山ブロック (φ3cm) 下に少、鉄分多、炭化物
2. 5/3-2階粘粘土 しまり密 地山ブロック (φ3cm) 下に傾り40%、鉄分多、炭化物
2. 5/4-2階灰黄粘土 しまり密 地山ブロック (φ2cm) 偏りに傾り少、鉄分、炭化物

## 51-52

2. 5/4-2階灰黄粘土 しまり密 炭化物
2. 5/4-2階灰黄粘土 しまり密 上位に炭化物
2. 5/4-2階灰黄粘土 しまり密 地山ブロック (φ3cm) 40%、鉄分多、炭化物

## 59-60

2. 5/4-2階灰黄粘土 しまり密 地山ブロック (0.5-1cm) 下に10-20% 炭化物微量 鉄分含
2. 5/4-2階灰黄粘土 しまり密 地山ブロック (0.5-5cm) 均一に30-40% 炭化物含 鉄分含 しまり密

0 1:60 2m

第6図 断面図(1)

## 柱穴(2)



第7図 断面図(2)



柱穴 (3)



- 123-124  
 1. 5/4/2層灰黄粘土 しまり密 地山ブロック (φ 3cm) 40%、鉄分、炭化物多  
 2. 5/4/2層灰黄粘土 しまり密 地山ブロック (φ 3cm) 40%、鉄分、炭化物多

- 125-126  
 1. 2/3/2層褐粘性シルト しまり密 地山ブロック (φ 5cm) に偏り 10%、鉄分多、炭化物少  
 2. 2/3/2層褐粘性シルト しまり密 地山ブロック (φ 3cm) 40%、鉄分多、炭化物多  
 3. 2. 5/4/2層灰黄粘土 しまり密 地山ブロック 30%、鉄分多、炭化物多 (水田鉄分集積層3)

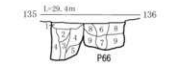


- 121-122 - 133-134  
 1. 2. 5/3/3層オリーブ褐粘性シルト しまり密 地山ブロック (φ 5cm) 20%、鉄分、炭化物 (P63)  
 2. 2. 5/3/3層オリーブ褐粘性シルト しまり密 地山ブロック (φ 5cm) 40%、鉄分、炭化物 (P63)  
 3. 2. 5/4/2層灰黄粘土 しまり密 地山ブロック (φ 5cm) 80%、鉄分、炭化物多 (P60)  
 4. 2. 5/4/2層灰黄粘土 しまり密 地山ブロック (φ 3cm) に偏り 20%、鉄分、炭化物少 (P60)  
 5. 2. 5/4/2層灰黄粘土 しまり密 地山ブロック、鉄分、炭化物 (P60)  
 6. 2. 5/4/2層灰黄粘土 しまり密 砂質分、地山ブロック (φ 5cm) 50%、鉄分、炭化物 (P60)  
 7. ほぼ地山粘土 しまり密 2. 5/4/2層灰黄粘性シルト少、鉄分多、炭化物 (P59)



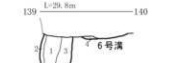
- 129-130  
 1. 2. 5/4/2層灰黄粘土 しまり密 地山ブロック (φ 3cm) 少、鉄分多、炭化物少  
 2. 2. 5/4/1層灰粘土 しまり密 地山ブロック (φ 3cm) 少、鉄分、炭化物多  
 3. 2. 5/4/2層灰黄粘土 しまり密 地山粘泥、鉄分、炭化物多  
 4. 2. 5/4/2層灰黄粘土 しまり密 地山ブロック (φ 3cm) 30%、鉄分多、炭化物少  
 5. 2. 5/4/2層灰黄粘土 しまり密 地山ブロック (φ 3cm) 80%、鉄分多、炭化物多

- 131-132  
 1. 2. 5/3/3層オリーブ褐粘性シルト しまり密 地山粘泥、鉄分、炭化物多  
 2. 2. 5/4/1層灰粘土 しまり密 地山ブロック (φ 3cm) 少、鉄分多、炭化物多  
 3. 2. 5/3/3層オリーブ褐粘性シルト しまり密 地山ブロック (φ 3cm) 40%、鉄分、炭化物少



- 135-136  
 1. 2. 5/4/2層灰黄粘性シルト しまり密 地山ブロック (φ 3cm) 偏りに偏り 30%、鉄分多、炭化物多  
 2. 2. 5/4/2層灰黄粘土 しまり密 地山粘少、鉄分、炭化物少  
 3. 2. 5/4/1層灰粘土 しまり密 砂質分多、地山ブロック (φ 3cm) 40%、鉄分多、炭化物多  
 4. 2. 5/4/2層灰黄粘性シルト しまり密 砂質分多、地山ブロック (φ 5cm) 西に偏り 80%、鉄分多、炭化物多  
 5. ほぼ地山粘土 しまり密 砂質分、2. 5/4/1層灰粘土少、鉄分多、炭化物多  
 6. 2. 5/4/2層灰黄粘性シルト しまり密 地山ブロック (φ 5cm) 下に偏り 40%、鉄分多、炭化物多  
 7. 2. 5/4/2層褐粘土 しまり密 地山ブロック (φ 3cm) 40%、鉄分、炭化物多  
 8. 2. 5/4/2層灰黄粘性シルト しまり密 地山ブロック (φ 5cm) 50%、鉄分、炭化物多  
 9. 2. 5/3/2層褐粘土 しまり密 砂質分、地山ブロック (φ 5cm) 80%、鉄分、炭化物多

- 131-132  
 1. 2. 5/3/3層オリーブ褐粘性シルト しまり密 地山粘泥、鉄分、炭化物多  
 2. 2. 5/4/1層灰粘土 しまり密 地山ブロック (φ 3cm) 少、鉄分多、炭化物多  
 3. 2. 5/3/3層オリーブ褐粘性シルト しまり密 地山ブロック (φ 3cm) 40%、鉄分、炭化物少



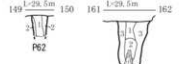
- 139-140  
 1. 2. 5/3/2層褐粘性シルト しまり密 地山ブロック (φ 5cm) Fに偏り 30%、鉄分多、炭化物多  
 2. 2. 5/3/2層褐粘性シルト しまり密 地山ブロック (φ 3cm) 20%、鉄分、炭化物多  
 3. 2. 5/3/2層褐粘性シルト しまり密 地山ブロック (φ 10cm) 40%、鉄分多、炭化物多  
 4. 2. 5/4/2層灰黄粘性シルト しまり密 地山ブロック (φ 3cm) 30%、鉄分多、炭化物多

- 131-132  
 1. 2. 5/3/3層オリーブ褐粘性シルト しまり密 地山粘泥、鉄分、炭化物多  
 2. 2. 5/4/1層灰粘土 しまり密 地山ブロック (φ 3cm) 40%、鉄分、炭化物多  
 3. 2. 5/3/3層オリーブ褐粘性シルト しまり密 地山粘泥、鉄分、炭化物多  
 4. 2. 5/4/2層灰黄粘性シルト しまり密 地山ブロック (φ 3cm) 30%、鉄分多、炭化物多



- 143-144  
 1. 2. 5/4/2層灰黄粘性シルト しまり密 地山ブロック (φ 3cm) 30%、鉄分多、炭化物多  
 2. 2. 5/3/3層オリーブ褐粘性シルト しまり密 地山ブロック (φ 3cm) 30%、鉄分、炭化物多  
 3. 2. 5/4/2層灰黄粘性シルト しまり密 砂質分、地山ブロック (φ 3cm) 30%、鉄分、炭化物少  
 4. 2. 5/4/2層灰黄粘性シルト しまり密 地山粘少、鉄分、炭化物多  
 5. 2. 5/4/2層灰黄粘性シルト しまり密 地山ブロック (φ 3cm) 20%、鉄分、炭化物多  
 6. 2. 5/3/2層褐粘性シルト しまり密 地山ブロック (φ 3cm) 30%、鉄分、炭化物多  
 7. 2. 5/3/3層オリーブ褐粘性シルト しまり密 砂質分、地山ブロック 40%、鉄分、炭化物多  
 8. 2. 5/4/3層オリーブ褐粘性シルト しまり密 2. 5/4/2層灰黄粘性シルト、地山ブロック (φ 3cm) 10%、炭化物多  
 9. 2. 5/4/2層灰黄粘土 しまり密 砂質分、地山ブロック (φ 3cm) 20%、鉄分多、炭化物多  
 10. 2. 5/4/2層灰黄粘土 粘性弱 しまり密 地山ブロック (φ 5cm) に偏り 30%、炭化物多  
 11. 10/8/5/2層オリーブ灰粘土ブロック (φ 5cm) グライ化した地山 しまり密 2. 5/4/2層灰黄粘土 少、鉄分多、炭化物多

- 143-144  
 1. 2. 5/4/2層灰黄粘性シルト しまり密 地山ブロック (φ 3cm) 30%、鉄分多、炭化物多  
 2. 2. 5/3/3層オリーブ褐粘性シルト しまり密 地山ブロック (φ 3cm) 30%、鉄分、炭化物多  
 3. 2. 5/4/2層灰黄粘性シルト しまり密 砂質分、地山ブロック (φ 3cm) 30%、鉄分、炭化物少  
 4. 2. 5/4/2層灰黄粘性シルト しまり密 地山粘少、鉄分、炭化物多  
 5. 2. 5/4/2層灰黄粘性シルト しまり密 地山ブロック (φ 3cm) 20%、鉄分、炭化物多  
 6. 2. 5/3/2層褐粘性シルト しまり密 地山ブロック (φ 3cm) 30%、鉄分、炭化物多  
 7. 2. 5/3/3層オリーブ褐粘性シルト しまり密 砂質分、地山ブロック 40%、鉄分、炭化物多  
 8. 2. 5/4/3層オリーブ褐粘性シルト しまり密 2. 5/4/2層灰黄粘性シルト、地山ブロック (φ 3cm) 10%、炭化物多  
 9. 2. 5/4/2層灰黄粘土 しまり密 砂質分、地山ブロック (φ 3cm) 20%、鉄分多、炭化物多  
 10. 2. 5/4/2層灰黄粘土 粘性弱 しまり密 地山ブロック (φ 5cm) に偏り 30%、炭化物多  
 11. 10/8/5/2層オリーブ灰粘土ブロック (φ 5cm) グライ化した地山 しまり密 2. 5/4/2層灰黄粘土 少、鉄分多、炭化物多



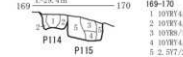
- 149-150  
 1. 2. 5/4/1層灰粘土 しまり密 地山ブロック (φ 3cm) 北に偏り少、鉄分、炭化物多  
 2. 2. 5/4/2層灰黄粘土 しまり密 地山ブロック 80%、鉄分、炭化物少

- 161-162  
 1. 2. 5/4/2層灰黄粘土 しまり密 地山ブロック (φ 3cm) 少、鉄分、炭化物一部に多  
 2. 2. 5/4/2層灰黄粘土 しまり密 有機質分多  
 3. 2. 5/4/2層灰黄粘土 しまり密 地山ブロック (φ 5cm) 30%、鉄分、炭化物少

柱穴 (120-2)



- 167-168  
 1. 10/8/5/6層黄褐色粘土ブロック しまり密 2. 5/4/1層灰粘土、5/7/1層白粘土  
 2. 10/8/5/6層黄褐色粘土ブロック しまり密 5/7/1層白粘土少  
 3. 2. 5/4/1層灰粘土主体 しまり密 10/8/5/6層黄褐色粘土ブロック多  
 4. 10/8/5/6層黄褐色・5/5/1層灰粘土ブロック しまり密 2. 5/4/1層灰粘土多  
 5. 10/8/5/6層黄褐色・5/5/1層灰粘土ブロック しまり密 2. 5/4/1層灰粘土少



- 169-170  
 1. 10/8/4/2層黄褐色・10/8/8/1層白粘土 10/8/8/6層明黄褐色粘土ブロック  
 2. 10/8/4/2層黄褐色 10/8/8/6層明黄褐色粘土ブロック  
 3. 10/8/8/1層白粘土 しまり密 2. 5/7/7層黄褐色粘土ブロック  
 4. 10/8/4/2層黄褐色・10/8/8/1層白粘土  
 5. 2. 5/7/2層黄褐色 しまり密 10/8/8/1層白粘土、2. 5/5/2層灰黄シルト



第8図 断面図 (3)

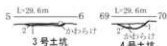
## 土坑



## 39-40・99-100・153-154

- 1 10YR4/2黄褐色シルト 粘性弱 しまり密 砂質分、2.5YR5/6明褐色粘土ブロック、鉄分少、炭化物少  
 2 10YR2/1黒粘土 しまり密 2.5YR6/6明褐色粘土ブロック、鉄分少、炭化物少  
 3 2.5YR6/6明褐色粘土 しまり密 2.5Y4/1褐色粘土  
 4 10YR3/2黒シルト 粘性弱 しまり密 2.5Y7/4明黄砂状に少、鉄分、炭化物  
 5 10YR2/1黒褐色粘土 しまり密 7.5YR6/6緑、塊状多、炭化物多  
 6 10YR4/3に多い黄褐色シルト 粘性弱 しまり粗 地山ブロック(φ5cm)80%、炭化物少、草の根 表土

- 7 2.5Y4/4オリーブ褐色粘性シルト しまりやや密 2.5Y4/2褐色黄粘土10%、地山ブロック(φ20cm)10%、鉄分多、炭化物 盛土  
 8 2.5Y4/2褐色黄粘土 しまり密 鉄分多 炭化物(水田耕作土)  
 9 2.5Y4/3オリーブ褐色粘性シルト しまり密 鉄分多(水田の鉄分集積層)  
 10 2.5Y3/2暗オリーブ褐色粘性シルト しまり密 鉄分多(水田の鉄分集積層)  
 11 2.5Y3/2黒褐色粘性シルト しまり密 地山ブロック(φ2cm)微、炭化物(包含層)

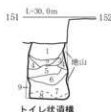


## 5-6

- 1 2.5Y4/2暗黄粘土 しまり密 2.5Y4/1黄粘土(φ3cm)少、地山ブロック(φ10cm)、鉄分多、炭化物多(自谷層分)  
 2 2.5Y4/2暗黄粘土 しまり密 地山ブロック(φ5cm)50%、炭化物(地山層移層分)

## 60-70

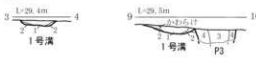
- 1 2.5Y4/2暗黄褐色粘性シルト しまり密 地山ブロック(φ3cm)20%、鉄分少、炭化物  
 2 2.5Y4/2暗黄シルト 粘性弱 しまり密 地山ブロック(φ3cm)80%、鉄分多、炭化物微



## 151-152

- 1 2.5Y3/3暗オリーブ褐色粘性シルト しまり密 砂質分、地山ブロック(φ3cm)少、鉄分、炭化物多  
 2 2.5Y4/1黄粘土 しまり密 地山砂少、鉄分、炭化物多  
 3 2.5Y4/2暗黄粘土 しまり密 地山ブロック(φ3cm)少、鉄分、炭化物  
 4 2.5Y5/2暗黄粘土 しまり密 砂質分、地山ブロック(φ5cm)50%、鉄分少、炭化物  
 5 2.5Y3/2黒粘土 しまり密 地山ブロック(φ3cm)少、鉄分少、炭化物少、有機質分多  
 6 2.5Y3/2黒褐色粘土 しまり密 砂質分、地山ブロック(φ5cm)80%、炭化物、有機質分多く木片・種子等含む  
 7 2.5Y3/2黒褐色粘土 しまり密 砂質分、地山ブロック(φ3cm)少、炭化物、有機質分多く木片・種子等含む  
 8 2.5Y3/2黒褐色粘土 しまり密 砂質分、地山ブロック(φ5cm)80%、炭化物、有機質分多く木片・種子等含む  
 9 地山 2.5Y4/1黄シルト粘土 崩落の可能性

## 溝(1)

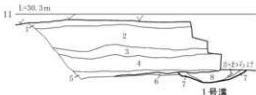


## 7-8

- 1 2.5Y3/2黒褐色粘土 しまり密 2.5Y4/2暗黄シルト40%、鉄分多 炭化物多  
 2 2.5Y4/2暗黄粘土 しまり密 地山ブロック(φ5cm)50%、炭化物微(地山層移層分)

## 3-4・9-10

- 1 2.5Y4/2暗黄褐色粘性シルト しまり密 10Y4/3に多い黄褐色シルトブロック、地山ブロック(φ10cm)、炭化物  
 2 10YR5/2オリーブ灰粘土(グライ化した地山) しまり密 2.5Y5/2暗黄褐色粘性シルト少、鉄分、炭化物微  
 3 2.5Y3/2黒褐色粘土 しまり密 地山ブロック(φ3cm)20%、鉄分多、炭化物  
 4 2.5Y3/2黒褐色粘土 しまり密 地山ブロック(φ10cm)80%、鉄分多、炭化物少



## 11-12

- 1 10YR4/3に多い黄褐色シルト 粘性弱 しまり粗 地山ブロック(φ5cm)60%、炭化物少、草の根 表土  
 2 2.5Y4/4オリーブ褐色粘性シルト しまりやや密 2.5Y4/2暗黄粘土10%、地山ブロック(φ20cm)10%、鉄分多、炭化物(盛土)  
 3 2.5Y4/2暗黄粘土 しまり密 鉄分多 炭化物(水田耕作土)  
 4 2.5Y4/2暗黄粘土 しまりやや密 2.5Y3/2黒褐色粘土ブロック10%、地山ブロック(φ10cm)20%、鉄分多、炭化物(盛土)  
 5 2.5Y4/2暗黄粘土 しまり密 鉄分多 炭化物微(水田耕作土)  
 6 2.5Y4/2暗黄粘土 しまり密 地山ブロック(φ5cm)50%、炭化物微(地山層移層分)  
 7 10YR5/2オリーブ灰粘土(グライ化した地山) しまり密 2.5Y5/2暗黄褐色粘性シルト少、鉄分、炭化物(1号溝)  
 8 2.5Y4/2暗黄褐色粘性シルト しまり密 10Y4/3に多い黄褐色シルトブロック、地山ブロック(φ10cm)、炭化物(1号溝)



## 1-2

- 1 10YR4/2黄褐色粘土 しまり密 10YR7/6明褐色粘土ブロック、下に10YR4/1褐色粘土が層状に入る 鉄分、炭化物



## 97-98

- 1 2.5Y4/2暗黄褐色粘性シルト しまり密 地山ブロック(φ3cm)10%、炭化物微



## 25-26

- 1 2.5Y3/2暗褐色粘土 しまり密 地山砂少、炭化物微(表耕層分)  
 2 2.5Y4/2暗黄シルト 粘性弱 しまり密 地山ブロック(φ5cm)70%炭化物微

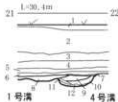
## 27-28

- 1 2.5Y3/2暗褐色粘土 しまり密 地山砂少、炭化物微(表耕層分)  
 2 2.5Y4/2暗黄シルト 粘性弱 しまり密 地山ブロック(φ5cm)70%炭化物微



第9図 断面図(4)

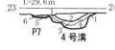
溝(2)



1号溝 4号溝



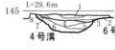
4号溝



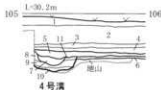
4号溝



4号溝



4号溝 6号溝



4号溝



6号溝 包含層



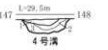
7号溝



7号溝

- 55-56  
1 10YR4/3にぶい黄褐色シルト 粘性弱 地山ブロック(φ5cm)60%、炭化物少、草の根表土  
2 2.5Y4/4オリーブ褐色粘性シルト+地山ブロックを主とした埋込土

- 21-22  
1 10YR4/3にぶい黄褐色シルト 粘性弱 しまり粗 地山ブロック(φ5cm)60%、炭化物少、草の根表土  
2 2.5Y4/4オリーブ褐色粘性シルト しまりやや密 2.5Y4/2暗灰黄粘土10%、地山ブロック(φ20cm)10%、鉄分多、炭化物(富士)  
3 2.5Y4/2暗灰黄粘土 しまり密 鉄分多 炭化物(水田耕作土)  
4 2.5Y4/3オリーブ褐色粘性シルト しまり密 鉄分多(水田の鉄分集積層)  
5 2.5Y3/2暗褐色粘性シルト しまり密 鉄分多(水田の鉄分集積層)  
6 2.5Y3/2暗褐色粘性シルト しまり密 地山ブロック(φ2cm)散、炭化物(包含層)  
7 10YR4/3にぶい黄褐色シルト 粘性弱 しまり密 地山較多、鉄分多、炭化物  
8 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト しまり密 10YR4/2にぶい黄褐色シルトブロック、地山ブロック(φ10cm)、炭化物(1号溝)  
9 地山土ブロック主体 2.5Y4/2暗灰黄粘土均一に混入 しまり密 地山ブロック(φ3cm)70%、鉄分やや多 炭化物少(4号溝)  
10 2.5Y4/3オリーブ褐色粘性シルト しまり密 地山ブロック(φ3cm)10%、炭化物(4号溝)  
11 2.5Y3/2暗褐色粘性シルト しまり密 地山較少、炭化物(4号溝)  
12 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト 粘性弱 しまり密 砂質分多、地山ブロック(φ2cm)30%、炭化物(4号溝)



4号溝

13-14・147-148

- 13-14・147-148  
1 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト 粘性弱 しまり密 2.5Y4/2暗灰黄粘土10%、地山ブロック(φ3cm)30%、鉄分多、炭化物少  
2 2.5Y4/3オリーブ褐色粘性シルト しまり密 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト、地山ブロック(φ3cm)10%、炭化物少  
3 10YR7/9黄褐色シルト主体 同色砂 明黄褐色混入 2.5Y4/2暗灰黄粘土少し混入  
4 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト 粘性弱 しまり密 地山ブロック(φ3cm)10%、炭化物少、鉄分やや多

21-24

- 21-24  
1 2.5Y4/3オリーブ褐色粘性シルト しまり密 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト、地山ブロック(φ3cm)10%、炭化物少  
2 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト 粘性弱 しまり密 地山ブロック(φ3cm)30%、鉄分多、炭化物  
3 10YR5/2オリーブ灰粘土ブロック  
4 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト しまり密 地山ブロック(φ3cm)40% 炭化物少  
5 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト 粘性弱 しまり密 地山ブロック(φ3cm)80%、炭化物  
6 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト 粘性弱 しまり密 地山ブロック(φ3cm)少、炭化物多

145-146

- 145-146  
1 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト しまり密 地山ブロック(φ3cm)30%、鉄分、炭化物少(6号溝)  
2 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト しまり密 地山ブロック(φ3cm)少、鉄分、炭化物少(6号溝)  
3 2.5Y3/2暗褐色粘性シルト しまり密 地山ブロック(φ3cm)40%、鉄分多、炭化物(6号溝)  
4 2.5Y3/2暗褐色粘性シルト しまり密 地山ブロック(φ3cm)10%、鉄分、炭化物少(4号溝)  
5 ほぼ地山粘土 しまり密 砂質分、2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト西に偏り少 鉄分、炭化物(4号溝)  
6 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト しまり密 地山ブロック90%、鉄分多、炭化物少(4号溝)  
7 2.5Y4/1黄灰シルト 2.5YR/2灰白ブロック少量混入(6号溝)  
8 2.5Y5/1黄灰シルト 2.5YR/2暗灰黄粘土ブロック混 鉄分多(4号溝)

105-106

- 105-106  
1 10YR4/3にぶい黄褐色シルト 粘性弱 しまり粗 地山ブロック(φ5cm)60%、炭化物少、草の根表土  
2 2.5Y4/4オリーブ褐色粘性シルト しまりやや密 2.5Y4/2暗灰黄粘土10%、地山ブロック(φ20cm)10%、鉄分多、炭化物(富士)  
3 2.5Y4/2暗灰黄粘土 しまり密 鉄分多 炭化物(水田耕作土)  
4 2.5Y4/3オリーブ褐色粘性シルト しまり密 鉄分多(水田の鉄分集積層)  
5 2.5Y3/2暗褐色シルト しまり密 地山ブロック、炭化物  
6 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト しまり密 地山ブロック(φ5cm)少、鉄分 自然堆積層  
7 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト しまり密 地山ブロック(φ3cm)30%、鉄分、炭化物  
8 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト しまり密 地山ブロック(φ5cm)10%、鉄分多 炭化物少  
9 地山ブロック主体 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト少量 鉄分多 炭化物(水田) 砂質分  
10 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト しまり密 地山ブロック(φ3cm)30%、鉄分、炭化物(砂質分)  
11 17層より地山ブロックは下位に少量のみ

57-58

- 57-58  
1 2.5Y3/2暗灰黄シルト 粘性弱 しまり密 地山ブロック(φ3cm)20%、鉄分多、炭化物  
2 2.5Y4/2暗灰黄シルト 粘性弱 しまり密 地山ブロック(φ3cm)30%、鉄分多、炭化物  
3 2.5Y4/3オリーブ褐色粘性シルト しまり密 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト、地山ブロック(φ3cm)10%、炭化物少

77-78

- 77-78  
1 2.5Y3/2暗褐色粘性シルト しまり密 地山ブロック(φ2cm)散、炭化物(包含層)  
2 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト 粘性弱 しまり密 地山ブロック(φ3cm)30%、鉄分多、炭化物

45-46

- 45-46  
1 2.5Y4/2暗灰黄粘性シルト しまり密 地山ブロック(φ3cm)40%、鉄分多、炭化物  
2 2.5Y4/2暗灰黄粘土 しまり密 鉄分多 炭化物(水田耕作土)  
3 2.5Y4/3オリーブ褐色粘性シルト しまり密 鉄分多(水田の鉄分集積層)  
4 2.5Y3/2暗褐色粘性シルト しまり密 鉄分多(水田の鉄分集積層)  
5 2.5Y4/3オリーブ褐色粘性シルト しまり密 鉄分多、鉄分多、炭化物(水田耕作土)  
6 2.5Y4/2暗灰黄粘土 しまり密 地山較多、鉄分多、炭化物  
7 2.5Y4/2暗灰黄粘土 しまり密 地山較多、鉄分多、炭化物  
8 2.5Y4/2暗灰黄粘土 しまり密 地山較多、鉄分多、炭化物  
9 2.5Y4/2暗灰黄粘土 しまり密 砂質分、地山較少、炭化物(7号溝)  
10 2.5Y3/2暗褐色粘性シルト しまり密 地山較少、炭化物(7号溝)  
11 2.5Y3/2暗褐色粘性シルト しまり密 地山較少、炭化物(7号溝)  
12 2.5Y3/2暗褐色粘性シルト しまり密 地山較少、炭化物(7号溝)  
13 2.5Y3/2暗褐色粘性シルト しまり密 地山較少、炭化物(7号溝)  
14 2.5Y3/2暗褐色粘性シルト しまり密 地山較少、炭化物(7号溝)  
15 2.5Y3/2暗褐色粘性シルト しまり密 地山較少、炭化物(7号溝)  
16 2.5Y3/2暗褐色粘性シルト しまり密 地山較少、炭化物(7号溝)  
17 2.5Y3/2暗褐色粘性シルト しまり密 地山較少、炭化物(7号溝)  
18 2.5Y4/2暗灰黄粘土 しまり密 地山較多、鉄分多、炭化物  
19 2.5Y4/2暗灰黄粘土 しまり密 地山ブロック、鉄分多、炭化物  
20 2.5Y4/2暗灰黄粘土 しまり密 砂質分、地山較少、炭化物(7号溝)  
21 2.5Y3/2暗褐色粘性シルト しまり密 砂質分、地山較少、炭化物(7号溝)  
22 2.5Y3/2暗褐色粘性シルト しまり密 地山較少、炭化物(柱穴)



第10図 断面図(5)



第11図 周辺調査区位置図

**6号溝：**調査区北側から中央にかけて西端を走る。途切れる箇所があるが、遺構の上層が削られ、低い所が残った状態と考えられる。埋土は底に暗灰黄から灰黄色シルトが堆積し、上は黄色から灰白の粘土ブロックで埋められている様子である。4号溝との新旧関係は、上面に暗灰黄土が薄く堆積していたため遺構同士の範囲や切り合いが判別しにくい状況であった。断面145-146から当溝の南側は4号溝南肩に近い箇所まで伸びている事が分かった。

**7号溝：**調査区南にある。断面55-56では周辺所々にある現代の杭跡の一部が絡んでいる。

**10号溝：**後調査区の東側で、隣地との境に検出している。焼土とP110には切られている。板状の痕跡を認めたが、部分的であり、崩跡とするには根拠に乏しい。

**11号溝：**後調査区に検出している。6号溝より新しく、年代は埋土から近世と思われる。

#### (5) その他の遺構

後調査区東で、10号溝を切って焼土を含む柱穴状の遺構を検出している。当初柱穴として調査していたが、柱穴に焼土が入ったものではなく焼成遺構の一端の可能性はある。

#### 4 まとめ

調査区西側から流れ込んだ様子でかわかけ片を含む堆積層が広がり、遺構を覆い隠した状態であった。そのため6号溝は当初溝とは判断できなかった。しかし浅い溝の形状を現し、また底に灰色の層が薄く入ることから他の遺構や層と判別することができた。4号溝は、他の遺構との重なりが多かった。

重複遺構は古い順に(旧)4号溝Ⅰ期—P29・1号掘立柱建物(P40・67)—4号溝Ⅱ期—6号溝・4号土坑(新)となる。

建物では2号掘立柱建物と1号柱穴列の新旧は不明であるが、これらより後に1号掘立柱建物が建てられている。新旧及び遺構の配置から、1号掘立柱建物跡と6号溝、2号掘立柱建物跡と4号溝が関係する可能性がある。

西側に隣接する過去の調査区(第11図)では四面庇建物や車宿と考えられる遺構などが検出されており、相応の階級の邸宅跡であることがうかがえる。63次調査ではかわらけや12世紀の陶器など多くの遺物が出土している。遺構の配置は、12世紀の建物や堀跡は南北軸を基本に建てられている。これに対し近世になると軸方向は南北から斜めに振れ、通路や道路に沿った配置となっている。

120次調査区の北側で下水管設置の際立会を行った。120-2では擁壁の解体跡の影響で確認できなかったが、12世紀の道路側溝と思われる掘り込みを検出した。上層は攪乱されており、下層のみと思われる。関連する遺物は出土しなかった。

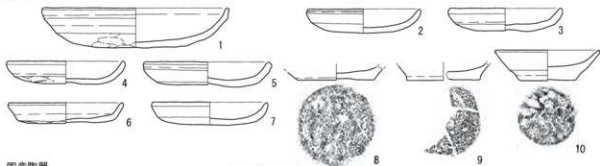
第1表 柱穴観察表

番号	平面形	大きさ (m)	深さ (m)	高さ (m)	出土遺物 (1) 遺物番号	新旧	備考
1	円	38×36	12	30	おむらじ		
2	円	38×52	22×20	42	おむらじ		2号建物
3	楕円	77×72	31×30	62	おむらじ		1号溝より前
4	楕円	48×36	22×21	31	28.49	おむらじ	2号建物
6	円	32×30	18×18	40	29.41	おむらじ(旧)	2号柱穴列
7	楕円	43×33	19×15	7	28.94	おむらじ	3・4号溝・4号土坑より前
8	楕円	38×22	13×13	26	29.34	おむらじ	
11	円	38×36	18×16	15	24.44	おむらじ	
12	楕円	47×40	20×18	25	28.42	おむらじ	
13	楕円	34×28	16×16	24	29.22	おむらじ	溝跡
14	円	25×24	—	29	29.27	おむらじ	
15	円	28×25	13×12	27	29.27	おむらじ	
16	円	44×44	18×17	30	29.98	おむらじ	
19	円	33×18	15×9	27	29.24	おむらじ	
21	楕円	71×65	33×25	64	28.78	おむらじ	1・2号溝より前
23	円	32×21	—	12	29.28	おむらじ	
24	楕円	44×39	—	62	28.78	おむらじ	1号建物
24	楕円	36×30	10×8	47	28.95	おむらじ	1号建物
25	円	30×30	18×14	44	29.02	おむらじ	
26	円	38×24	18×10	38	29.06	おむらじ	1号溝より前
27	楕円	38×36	18×17	38	28.78	おむらじ	粘土塊
28	楕円	38×43	—	32	28.63	おむらじ	2号溝より前
29	円	32×30	14×12	5	28.18	おむらじ	4号溝より前
30	円	34×22	11×11	6	29.27	おむらじ	2号土坑より前
31	円	64×32	23×23	39	28.93	おむらじ	P22より前
32	楕円	40×33	—	23	29.12	おむらじ	P21・P22より前
33	円	21×19	—	30	29.24	おむらじ	
34	楕円	30×25	12×11	36	29.69	おむらじ	
35	円	30×29	12×11	35	28.92	おむらじ	
36	楕円	22×25	—	50	28.95	おむらじ	
37	円	29×29	14×13	63	28.65	おむらじ	
38	楕円	42×55	23×29	66	28.94	おむらじ	1号溝より前
40	楕円	54×41	14×13	47	28.40	おむらじ	4号溝遺跡より前、1・4号溝遺跡
41	円	23×23	10×9	11	29.32	おむらじ	
42	円	30×29	13×12	26	29.20	おむらじ	
43	楕円	18×14	—	43	29.04	おむらじ	3号溝より前
44	不明	25×12	—	—	—	おむらじ	トイレ取店構より前
46	不明	22×16	—	—	—	おむらじ	トイレ取店構より前
49	楕円	30×25	9×9	35	29.06	おむらじ	P50より前
50	楕円	40×44	—	22	29.19	おむらじ	P49・P51より前
51	楕円	541×36	—	22	28.15	おむらじ	P50より前
52	円	23×23	12×12	16	29.28	おむらじ	5号溝より前
54	楕円	43×29	16×16	30	29.32	おむらじ	2・5号溝より前
55	楕円	38×23	11×11	35	29.05	おむらじ	2号土坑より前
57	楕円	47×35	—	40	29.11	おむらじ	3号溝より前
58	楕円	17×11	4×6	22	29.28	おむらじ	粘土塊
59	楕円	45×14	—	47	28.71	おむらじ	P60・P62より前
60	楕円	32×40	24×16	32	28.47	おむらじ	P59・P63より前
61	円	30×29	13×12	30	29.12	おむらじ	
62	円	37×11	9×5	134	29.00	おむらじ	
63	楕円	52×32	16×16	45	28.72	おむらじ	P59より前、P60より前

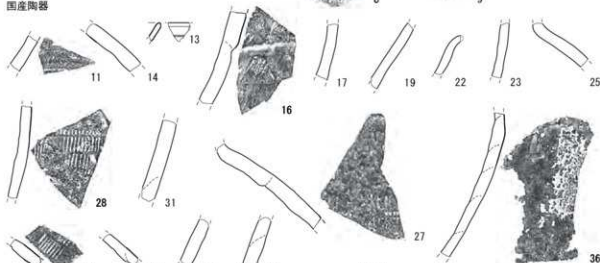
番号	平面形	大きさ (m)	深さ (m)	高さ (m)	出土遺物 (1) 遺物番号	新旧	備考
64	円	24×14	14×12	31	29.05	おむらじ	未定
65	円	60×36	21×21	61	28.49	おむらじ	1号土坑より前
66	楕円	72×64	21×21	51	28.84	おむらじ	P66より前
67	楕円	43×40	14×12	74	28.70	おむらじ	4号溝遺跡より前、4号溝遺跡より前
68	円	25×22	16×12	26	29.04	粘土塊	1号溝より前
69	円	51×47	24×20	55	28.90	おむらじ	2号建物
70	不明	20×11	—	23	29.21	おむらじ	6号溝より前、4号溝遺跡より前
71	楕円	45×29	18×14	36	28.86	おむらじ	6号溝・P70より前、P72より前
72	円	42×32	22×20	37	28.83	おむらじ	6号溝・P70・P71より前
73	円	38×23	—	7	29.19	おむらじ	
75	楕円	55×50	17×16	31	28.52	柱礎(109)	1号建物
76	楕円	17×11	—	4	29.26	土塚(67)	
77	不明	30×30	—	—	—	おむらじ	P22より前
80	楕円	44×27	—	—	—	おむらじ	1号建物、堀跡のみ、検出のみ
102	楕円	79×61	25×25	27	28.65	おむらじ	1号柱穴列
102	楕円	45×41	24×20	22	28.69	おむらじ	1号柱穴列
104	楕円	38×21	—	—	—	おむらじ	6号溝より前
105	楕円	54×46	25×23	23	28.36	おむらじ	1号建物
106	楕円	54×46	30×26	10	28.79	おむらじ	1号建物
107	楕円	29×16	—	—	—	おむらじ	堀跡のみ
108	円	24×20	—	18	28.79	おむらじ	
110	不明	50×26	—	27	28.65	おむらじ	10号溝より前
111	楕円	41×35	22×19	36	28.98	おむらじ	1号建物
112	円	41×36	20×16	36	28.98	おむらじ	1号溝・P11より前
113	楕円	33×29	18×18	36	28.98	おむらじ	1号溝より前、1号柱穴列
114	楕円	47×40	21×20	27	29.03	おむらじ	P115より前
115	楕円	68×54	22×20	42	28.93	おむらじ	P14より前
116	円	30×30	15×15	36	28.98	柱礎(122)	2号建物
117	楕円	35×29	18×13	36	28.98	おむらじ	種子(120)
118	楕円	54×30	26×20	46	28.64	おむらじ	2号建物
119	楕円	25×16	9×6	36	28.98	おむらじ	2号建物
120	楕円	46×42	19×19	31	29.10	おむらじ	2号建物
122	円	35×25	12×11	36	28.98	おむらじ	2号建物
124	円	22×20	12×9	36	28.98	おむらじ	2号建物
125	円	45×20	—	37	29.06	おむらじ	2号建物
126	楕円	40×32	—	44	28.82	おむらじ	11号溝より前
127	円	21×19	—	9	29.12	おむらじ	6号溝より前
128	楕円	60×50	19×15	32	28.87	おむらじ	1号柱穴列
129	楕円	51×30	30×23	37	28.47	柱礎(143)	2号柱穴列
130	円	22×22	—	36	28.98	おむらじ	6号溝より前
131	円	19×19	—	10	29.05	おむらじ	2号柱穴列
132	楕円	38×34	24×22	26	28.67	おむらじ	2号柱穴列

※無い番号は欠番「」と完成後の計測値

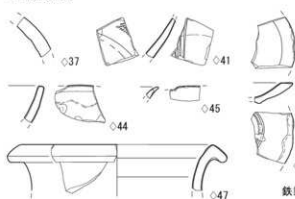
かわらけ



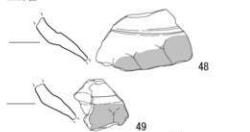
国産陶器



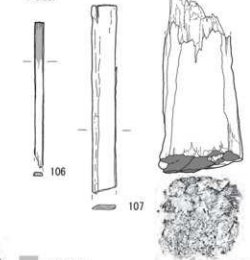
中国産陶磁器



土師器



木製品



近世陶磁器



銭貨



第12図 出土遺物

第2表 かわらけ観察表

( ) 測定値 &lt; &gt; 残存値

No	国図	写真国図	出土位置・層位	種類	法 屋 (cm)		残存率 (%)	年代	備 考	登録No	
					口径	底径					
1	12	6	1号溝	子づくね大	144	148	29~35	95	12 c	市原 摩滅	41
2	12	6	1号溝 横出面	子づくね小	90	-	17~20	完形	12 c	摩滅	39
3	12	6	1号溝	子づくね小	90	-	1.6~1.9	80	12 c	摩滅	44
4	12	6	1号溝	子づくね小	94	-	1.4~1.8	90	12 c	内面に漆付着か 市原 摩滅	45
5	12	6	1号溝	子づくね小	96~102	-	1.7~1.9	90	12 c	スノコ敷 摩滅	48
6	12	6	1号溝 横出面	子づくね小	90~93	-	1.5~1.7	完形	12 c	スノコ敷 破損	232
7	12	6	表土西地区	子づくね小	停造	-	1.9	30	12 c	摩滅 反転支脚	104
8	12	6	1号土坑(1号溝上)	口枠小	-	60	-	60	12 c	底部のみ 摩滅 反転支脚	137
9	12	6	1号土坑	口枠小	-	5.8	-	80	12 c	底部のみ 摩滅 反転支脚	69-137-1
10	12	6	3号土坑	口枠小	6.0	6.6	2.4	70	12 c	スノコ敷 摩滅 反転支脚	36

第3表 国産陶器観察表

No	国図	写真国図	出土位置・層位	種類	器種	部位	年代	備 考	登録No
11	12	6	1号溝南東端斜 横出面	高美	鉢	体部	12 c		6
12	-	-	1号土坑 上面	常滑	甕	胴部	12 c		52-2
13	12	6	2号土坑 上層	瀬戸	磁瓶	口縁部	15・16c	大甕同 外面に沈痛	115
14	12	6	調査区南端 区合層	高美	甕	胴部	12 c		13-2
15	-	-	調査区南端 表土~盛土	高美	鉢	胴部	12 c		189
16	12	6	北側西地区 表土~盛土	高美	甕	胴部	12 c	押印	105-4
17	12	6	北側西地区 表土~水田層	高美	甕	胴部	12 c	押印	254-2
18	-	-	調査区北西端区 表土~盛土・水田層	常滑	甕	胴部	12 c		160-3
19	12	6	調査区南東部区 表土~水田層	常滑	甕	胴部	12 c		175-2
20	-	-	調査区南東部区 表土~水田層	高美	甕	胴部	12 c		175-7
21	-	-	調査区南東部区 表土~水田層	高美	甕	胴部	12 c		175-9
22	12	6	調査区南東部区 表土~水田層	常滑	鉢	口縁部	12 c		175-8
23	12	6	盛土中	常滑	甕	胴部	12 c	押印	315-2
24	-	-	調査区南端 水田の上	常滑	甕	胴部	12 c		11-2
25	12	6	調査区東部 水田層	常滑	甕	胴部	12 c		311
26	-	-	北側西地区 水田層	常滑	甕	胴部	12 c		106-2
27	12	6	重機対応	常滑	甕	胴~胴部	12 c	押印	1-4
28	12	6	重機対応	常滑	甕	胴部	12 c	押印	1-3
29	12	6	重機 湯桶	常滑	甕	胴部	12 c	押印	2-2
30	12	6	重機 湯桶	常滑	甕	胴部	12 c		2-3
31	12	6	南東端 地土上層積層	高美	甕	胴部	12 c	新面に横り直	21
32	-	-	南西地区	高美	甕	胴部	12 c		147-2
33	-	-	P114	常滑	甕	胴部	12 c		後7
34	12	6	P128	高美	甕	胴部	12 c		後12-2
35	12	6	調査区東 堆積層	高美	甕	胴部	12 c	表に刀物痕跡あり 砥石に転用か	後36-3
36	12	6	調査区南西地区	常滑	甕	胴~胴部	12 c	押印	後26-2

第4表 中国産陶磁器観察表

No	国図	写真国図	出土位置・層位	種類	器種	部位	年代	備 考	登録No
37	12	6	1号溝 箱倉	磁胎陶器	甕	胴部	12 c		42-2
38	-	-	1号溝西縁(表2-5間)	青磁	碗	体部	13 c	産地不明か	50-2
39	-	-	北側西地区 表土~盛土	白磁	碗	体部	12 c		105-2
40	-	-	表2西縁 表土~水田層	白磁	甕	胴部	12 c	直書	236-2
41	12	6	北側西地区 水田層	青磁	碗	体部	12 c	同定書1類 内外面に横目文	113-2
42	-	-	調査区中央奥西面	白磁	甕	胴部	12 c	直書	7
43	-	-	重機対応	白磁	甕	胴部	12 c	直書	1-2
44	12	6	重機対応	白磁	甕	口縁部	15c	森田D群	1-11
45	12	6	調査区北	青白磁	磁瓶	口縁部	12 c	輪花	227-2
46	12	6	調査区東 堆積層	白磁	鉢	口縁部	15・16c	森田D群	後36-5
47	12	6	1号溝	白磁	甕	口縁部	12 c	直書	後37-2

第5表 土師器観察表

No	国図	写真国図	出土位置・層位	器種	部位	年代	備 考	登録No
48	12	6	北西地区	甕	胴部	奈良	外面に赤彩か	103-1
49	12	6	北西地区	甕	胴部	奈良	外面に赤彩か 1と同一体	103-2

第6表 須恵器観察表

No	国図	写真国図	出土位置・層位	器種	部位	年代	備 考	登録No
50	-	-	北側西地区 水田層	甕	胴部	古代	外面タケキ	106-3

第7表 縄文土器観察表

No	国図	写真国図	出土位置・層位	器種	部位	年代	備 考	登録No
51	-	-	トイテ遺構西平 1層	鉢	体部	晩期	外面に縦横の波線 内面に横付着	292-2

第8表 近世陶磁器観察表

No	国図	写真国図	出土位置・層位	種類	器種	部位	年代	備 考	登録No
52	-	-	調査区東北端 表土~水田層	磁器	磁瓶	体部	近世	肥前産 染付	228-3
53	-	-	調査区北西端区 表土~水田層	陶器	碗	体部	近世	瀬戸産	296-2
54	-	-	調査区北西端区 表土~盛土	陶器	甕	胴部	19c	在産	76-2
55	12	6	調査区南西地区 水田層	磁器	小甕	蓋	近世	肥前産か 青磁	77-2
56	-	-	調査区東 堆積層	磁器	鉢	口縁部	近世	肥前産 染付	後36-2
57	12	6	調査区西部 重機・湯桶	磁器	鉢	底部	17c	肥前産 染付	3-2
58	-	-	重機対応	磁器	碗	体部	近世	肥前産 染付	1-5
59	-	-	重機対応	磁器	碗	体部	近世	肥前産 染付	1-9
60	-	-	重機対応	陶器	碗	体部	近世	大塚相見産か	1-10
61	-	-	調査区 壁切り	磁器	碗	体部	近世	肥前産 染付	5-2

第9表 土壁観察表

No	図版	写真図版	出土位置・層位	法 (cm)	量 (g)	土中の 有無	備考	登録No
62	-	-	P7 上面	1.5	2.3	3.4	不明	2点 29-2
63	-	-	P18 東手	1.1	1.3	有	1点	222-2
64	-	-	P14 南手	0.6	2.9	8.9	有	6点 191-2
65	-	-	P65	0.8	0.7	有	1点	241-2
66	-	-	P70 上面	1.5	1.6	有	1点	248-2
67	-	-	P76	0.8	1.5	2.2	有	3点 306
68	-	-	1号土城東平土層	1.2	1.4	有	1点	203-2
69	-	-	2号土城 上面	0.9	1.1	1.7	有	3点 34-3
70	-	-	2号土城 上面	0.6	2.3	9.1	有	10点 35-2
71	-	-	1号土城西手 上面	1.3	1.6	有	1点	53-3
72	-	-	2号土城 上面	0.8	1.8	2.9	有	3点 54-2
73	-	-	2号土城 上層	1.9	3.0	有	1点	85-2
74	-	-	2号土城 上層	1.4	1.3	有	1点	86-2
75	-	-	2号土城 上層	0.9	1.8	5.4	有	5点 109-2
76	-	-	2号土城西手 最上層	0.6	1.3	2.6	有	5点 95-2
77	-	-	1号溝 箱蓋	1.3	2.7	14.9	有	5点 42-4

No	図版	写真図版	出土位置・層位	法 (cm)	量 (g)	土中の 有無	備考	登録No
78	-	-	1号溝西縁2-5間	1.1	0.9	有	1点	63-2
79	-	-	溝東区西溝長段部1号溝 上層	1.0	0.9	有	1点	238-2
80	-	-	北側東区 表土 - 本 土層	1.4	1.5	有	1点	88-3
81	-	-	北側東区 表土 - 本 土層	1.9	3.6	有	1点	254-3
82	-	-	溝東区東北段 表 土 - 本土層	1.3	1.2	有	1点	238-4
83	-	-	南側階下 水田層	1.4	1.7	不明	1点	25-3
84	-	-	2号土城 下層	1.5	4.2	72.1	有	17点 120-2
85	-	-	2号土城 上層	1.8	8.0	92.7	有	2点 92
86	-	-	2号土城 下層	4.5	20.9	有	1点	116
87	-	-	地山直上堆積層	1.5	2.4	14.7	有	10点 後3-2
88	-	-	3号溝 底	0.9	0.5	有	1点	後11-2
89	-	-	P128	0.5	2.3	2.4	有	2点 後24-2
90	-	-	P125とP124の間	1.2	1.2	不明	1点	後31-2

第10表 鉄製品観察表

No	図版	写真図版	出土位置・層位	種類	法 量 (cm)			重量 (g)	備考	登録No
					長さ	幅	厚さ			
91	-	6	北東区強1号溝 上面	角釘状	5.5	1.9	1.4	16.9		219-2
92	12	6	1号溝	角棒状	<7.7>	0.8	0.8	9.7		149
93	-	-	北東区強下1号溝へり状箇所	角釘	2.5	0.8	0.7	2.0		36-2
94	-	-	4号溝東端	角釘	3.8	1.2	0.9	3.7		66-3
95	-	-	2号土城 上面	角釘	2.6	0.4	0.2	0.9		34-2
96	-	-	P13	角釘	3.8	0.5	0.5	1.0		221
97	-	-	遺構検出面	不明	1.1	0.7	0.6	0.7		20-2

第11表 銭貨観察表

No	図版	写真図版	出土位置・層位	種類	大きさ (cm)	重量 (g)	備考	登録No
98	12	6	P13	銅銭	2.1	0.9	水滲通定1408年判銭	後27-1
99	12	6	P13	銅銭	2.1	0.8	水滲通定1408年判銭	後27-2

第12表 滓観察表

No	図版	写真図版	出土位置・層位	大きさ (cm)	重量 (g)	磁着	種類	備考	登録No
100	-	-	1号溝 箱蓋	1.1×0.9	0.8	有	鉄滓	1点	42-3
101	-	-	坑2南東階下1号溝へり状箇所	1.0×0.8	0.6	有	鉄滓	1点	36-3
102	-	-	6号溝	3.4×3.1	17.8	有	鉄滓	1点	218
103	-	6	2号土城西手 上面	5.8×2.9	90.2	有	鉄滓	1点	53-2
104	-	-	南側階下 水田層	3.1×2.5	11.2	有	鉄滓	1点	25-2
105	-	-	溝東区南縁 地山直上層	1.7～1.9	13.3	有	鉄滓	2点	14-2

第13表 木製品観察表

No	図版	写真図版	出土位置・層位	種類	法 量 (cm)			備考	登録No
					長さ	幅	厚さ		
106	12	7	トイレ状遺構西手7層	加工木	(11.6)	0.7	0.3	黒いシミ有り	307-1
107	12	7	トイレ状遺構7層	ちゅう木か	(15.0)	1.9	0.4		303
108	-	7	トイレ状遺構8層 壁	ちゅう木か	(9.8)	1.2	0.3	先端にコゲ	310
109	12	7	P75	柱根	29.8	13.3×12.9 (径)		底面にケール	316
110	-	7	P13	漆器	3.8	2.0	0.3	2片	後22-7
111	-	7	P13	漆器類	10.0	7.0	-	黒と朱の漆	後22-8
112	-	7	P13	漆器類	4.0	4.0	-	黒と朱の漆	後22-12
113	-	7	P16	柱根	18.8	11.5×6.9 (径)		底面にケールか	後28
114	-	7	P129	柱根	62.5	20.5×17.5 (径)		底面にケールか	後29

第14表 種子観察表

No	図版	写真図版	出土位置・層位	種類	大きさ	備考	登録No
115	-	-	1号土城東平土層	雑穀	1.9～2.1		303-3
116	-	7	トイレ状遺構P16 下層 (有機物多い)	スモモ、ウリ、ナス、不明種子	0.5～1.4	スモモ3点、ウリ5点、ナス14点、不明種子1点	267-1
117	-	-	トイレ状遺構P16 西手7層 (土層の範囲)	ウリ、ナス	0.4～0.8	ウリ10点、ナス9点	265-2
118	-	-	トイレ状遺構P16 西手7層	スモモ、ウリ、ナス	0.4～1.6	スモモ2点、ウリ27点	307-3
119	-	-	トイレ状遺構P16 西手8層	ウリ、ナス、ヤマブドウ	0.4～0.8	ウリ3点、ナス49点、ヤマブドウ1点	308-2
120	-	-	P13	雑穀	1.1		後22-3
121	-	-	P17	雑穀	2.1		後9

第15表 石製品観察表

No	図版	写真図版	出土位置・層位	種類	法 量 (cm)	重量 (g)	色調	備考	登録No
122	-	7	P12	加工石か	4.2×2.0×2.6	34.0	5Y8/1灰白	彫彫	後21-3

第16表 その他観察表

No	図版	写真図版	出土位置・層位	種類	大きさ (cm)	重量 (g)	備考	登録No
123	-	7	北西区強	不明土器	高台付 (5.8) 器高 (2.1)	23.2	高台付土器の底部分年代不明 反転実測	150-2





掘立柱建物跡（西から）



調査区全景（南から）



2号溝検出状況（南西から）



P70・71・72検出状況



トイレ状遺構検出状況

写真図版1 検出遺構（1）



P63・60断面



P103断面



P69断面



P72断面



1・2号土坑検出状況（東から）



1・2号土坑断面（西から）



3号土坑かわらけ出土状況（東から）



調査区南壁と7号溝

写真図版2 検出遺構（2）



4号土坑（東から）



4号土坑（南から）



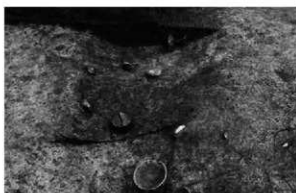
トイレ状遺構（東から）



トイレ状遺構断面（西から）



1号溝（西から）



1号溝かわらけ出土状況（北から）



5号溝（西から）



3号溝（西から）

写真図版3 検出遺構（3）



4号溝断面（東から）



4号溝断面（西から）



4号溝断面21-22（西から）



4号溝断面143-144



4・6号溝断面145-146



6号溝断面57-58



4号溝（東から）



4号溝完掘状況（西から）

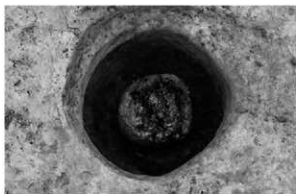
写真図版4 4・6号溝



後調査全景（南東から）



1号柱穴列（南西から）



P116柱根



10号溝検出状況（北から）



P112・P113（北から）



P113漆器出土状況

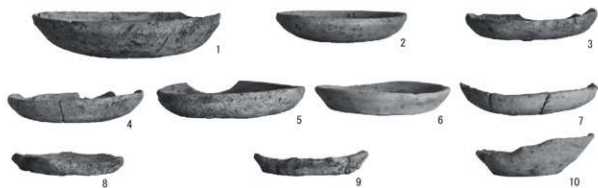


下水管工事（北から）

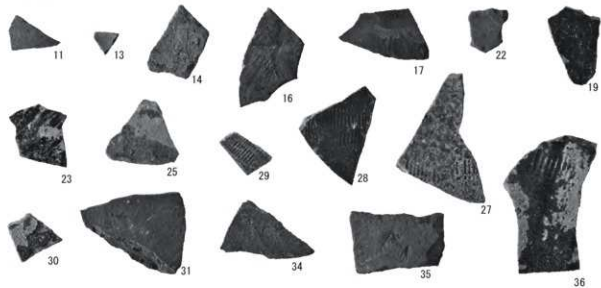


下水管工事断面（西から）

かわらけ



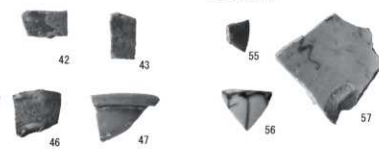
国産陶器



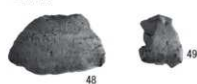
中国産陶磁器



近世陶磁器



土師器



須恵器



縄文土器



滓



銭貨



鉄製品



写真図版6 出土遺物

木製品



種子



石製品



その他



写真図版7 出土遺物



写真図版8 調査区全景(南から)



写真図版9 種子出土状況

トイレ状遺構の土壌分析について

土壌分析(古代の森研究舎)により、以下の考察を得ている。一部を掲載する。

7層からは多くの寄生虫卵が検出されており、糞便堆積物と考えられる。出土した果実は、ブドウ属、キイチゴ属、クワ属、ヤマボウシ、メロン仲間、ナス近似種である。また、種そのものを食用あるいは薬用などで利用する可能性があるのはヒユ属、エゴマ、シソ属である。

なお、分析結果はJSPS科研費19K02356の成果の一部を使用しており、概要は高原弘征2022「平泉におけるトイレ状遺構の分布と性格について」(季刊「古代文化」第74巻第3号)の表1(No148)にも記されている。

# 志羅山遺跡第121次発掘調査

## 1 調査要項

調査地点	岩手県西磐井郡平泉町平泉志羅山155-5、155-22
調査面積	92㎡
調査期間	令和4年6月16日～8月23日
原因	住宅新築
担当	鈴木江利子

## 2 位置と概要（調査地点位置図：66頁の志羅山遺跡120次第1図参照）

調査箇所は志羅山遺跡の中央からやや北側に位置する。JR東北本線平泉駅からは220m西側で、周囲は住宅地となっている。周辺のこれまでの発掘調査では道路側溝や土坑・井戸・建物跡など12世紀の遺構を中心に検出している（第1図）。今回の調査でも多くの柱穴や土坑、溝などを検出した。しかし、現代まで利用された住宅の跡地であることや遺構面まで浅いため、基礎や水道管などの掘り込みの影響を多く受け、失われた遺構も多い様子である。遺構検出面の標高は、調査区の西から中央にかけて26.8～26.9mで、東側は26.7～26.8mでやや低くなっている。東端は、近代と思われる埋め立てが行われ、平坦地を広げている。



第1図 周辺調査位置図





### 3 調査成果

検出遺構は柱穴、土坑、井戸跡、溝跡である。

#### (1) 柱穴

柱穴は全体で183個検出した。出土遺物から近世と思われる柱穴が多く、その埋土は黒色土と明黄褐色を主とした地山粘土ブロックが混じっていた。1号掘立柱建物跡も埋土や出土遺物から近世の建物跡である。規模は敷地全域に広がり、柱穴も深く掘り込んだしっかりした建物である。西端は、調査区外にある可能性もあるが、P166-P26の通りで考えた。北側の2号溝や3号溝と並行した位置関係にある。調査区全体の柱穴の多さからは建替が多く行われた可能性があるが、建物としての構成は難しく、全体で3棟となった。2号掘立柱建物跡は1・3号掘立柱建物跡とは方向が異なるが埋土から近世の可能性はある。3号掘立柱建物は、東と西の柱筋が離れた位置にあるが、並行しているため建物として構成した。南北どちらも調査区外にあると考えられる。1号柱穴列は、構成する柱穴は周辺の柱穴と異なる埋土で、締まった状態をしている。調査区を斜めに横断するように、12個の柱穴が70cm前後の間隔で並んでいる。1条並んだ状態から畧であると考えられる。検出距離は8m程であるが調査区外にも続いている様子である。

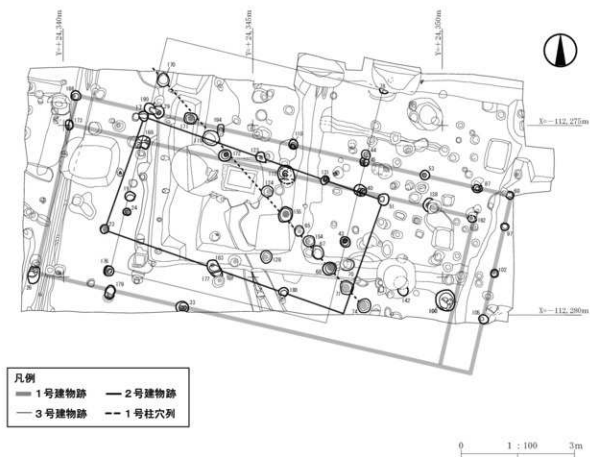
遺構名	規模(庇・下屋を含む)				方向	新旧関係	構成柱穴	出土遺物(遺物番号)	
	南北		東西						
	間数	全長	間数	全長					
1号建物	4	4.9	7	11.9	[2面]	N-13°-E	5・7号土坑より新1号溝より旧	166・29・194・110・44・53・87・60・173・168・112・40・138・162・97・24・128・70・142・100・102・105・26・179・33	かわらけ 近世陶磁器(36・37) 土壘(91・96・107) 木片 不明鉄製品 鉄銭(119)
2号建物	2	3.3	4	6.7	-	N-20°-E		17・123・131・51・23・177・183・188	かわらけ 近世陶磁器(35) 土壘(95・104)
3号建物	3	6.4	1	5.9	-	N-13°-14°-E	4号土坑・1号建物より新	78・190・45・19・43・176	かわらけ土壘(92)
1号柱穴列	11	8.1	-	-	-	N-40°-W		170・171・119・172・124・155・65・154・67・68・71・74	かわらけ

#### (2) 土坑

1号土坑と2号土坑は、近世から近代の遺構である。3・5号土坑は埋土や出土遺物から12世紀と考えられる。3号土坑の埋土上層は灰色を主とし、下層は明黄褐色の粘土ブロックを主として埋め戻されている。5号土坑上層は、上層が灰から黒褐色の大きめのブロックで、下層は浅黄色の粘土やシルト質土で埋め戻されている。4号土坑(井戸跡)は検出面で近世の磁器を出土したため、近世の遺構であるとも考えたが、調査を進めても他には近世と判断する遺物は出土しなかった。近世の磁器は遺構を通る2号溝底土の可能性があり、他の出土遺物から12世紀の遺構と判断した。形状や水分を多く含む状態から井戸跡と思われる、出土木製品の状態も良好である。6号土坑は多くが調査区外にある。黒褐色にオリーブ黄色から青味がかった灰色の土が混じる。7号土坑は遺構の埋土などから古代以前の落とし穴の跡と考えられる。8号土坑は、深さ15cm程度の浅い土坑で、埋土は灰黄褐色に明黄褐色粘土のブロックが混じった単層である。近世の遺物は出土していないが年代は不明である。

遺構名	平面形	規模(m)		標高(m)	高さ(m)	深さ(m)	新旧関係	出土遺物(遺物番号)
		上面(長×短)	底面(長×短)					
1号土坑	楕円	1.00×0.85	0.50×0.45	26.73	26.62	0.11		かわらけ 国産陶器(4) 近世磁器(32) 土壘(81) 釘(116) 近現代陶磁器
2号土坑	長方	0.87×0.64	0.73×0.50	26.74	26.63	0.11		かわらけ 近世磁器(33) 土壘(82)
3号土坑	円か	1.28×[0.75]	0.54×[0.14]	26.66	25.66	1.00	2号溝より旧	かわらけ土壘(83)
4号土坑	円か	1.30×[0.66]	1.08×[0.42]	26.40	[25.12]	[1.26]	2号溝・3号建物より旧	かわらけ(1) 国産陶器(5) 中国産磁器(10) 土壘(84~87) 釘(117・118・124) 木製品(128~130・132) 種子(133)
5号土坑	円	1.12×1.08	0.67×0.64	26.85	25.48	1.37	1号建物より新	かわらけ 国産陶器(6) 土壘(88) 加工木 種子(134)
6号土坑	円か	[0.70]×[0.45]	[0.34]×[0.26]	26.62	26.07	[0.55]		
7号土坑	長楕円	0.50×0.60	0.47×0.51	26.87	26.15	0.72	1号建物より新	
8号土坑	楕円か	0.87×0.57	0.75×0.47	26.80	26.67	0.20		かわらけ 不明土製品

※[ ]は未定範囲での計測値



第3図 建物配置図

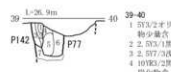
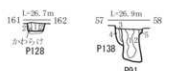
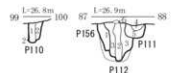
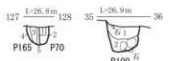
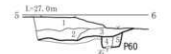
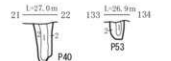
## (3) 溝跡

1・2・3号溝は出土遺物や埋土の状態から近世以降の遺構である。1号溝は2条の細く浅い溝が平行に南北方向に通っている。重なった柱穴よりも新しく、南北調査区外に続いている。2号溝は調査区北側を東西方向に通っている。現在の道路に沿った位置で、敷地の境を示している。この事から、道路舗装前まで道路側溝として上層は埋まり切らない状態で使われていた可能性がある。近世の区画を示す遺構である。3号溝は調査区北側に東西に延びている。西側は擾乱により切れ、東は底が僅かに低くなるが浅くなって消失している。1号建物から0.7～0.9m離れて並行した位置にある。4号溝は調査区西端で僅かに検出し、西は調査区外に延びている。東側は1号溝に切れ、また造成によっても削られている可能性がある。P21・22より古い。

遺構名	規模(m)		方向	標高(m)		深さ(m)	出土遺物(遺物番号)
	検出長	検出幅		検出	底面		
1号溝	6.50	0.32～0.65	N-10°-E	26.81	26.72～26.76	0.05～0.10	かわらけ 国産陶器(2) 近世陶磁器(16～18)
2号溝	6.10	[0.73]	N-61°-W	26.75	26.34～26.46	0.29～0.41	かわらけ 国産陶器(3) 近世陶磁器(19～30) 土壁(80) 釘(115) 近現代陶磁器 ビニール等現代物
3号溝	3.30	0.40	N-78°-W	26.82	26.74～26.78	0.04～0.08	かわらけ 近世陶器(31) 近現代陶磁器
4号溝	0.83	0.25	N-58°-W	26.86	26.78	0.20	

※ [ ] は検出値

## SB 1



## 201-202

- 2.5Y3/1黒粘シト 10Y86.6明黄粘土ブロック、10Y7/1灰白粘土ブロック40%混入 炭化物少量含
- 2.5Y3/1黒粘シト 10Y86.6明黄粘土ブロック、10Y7/1灰白粘土ブロック1層より少量混入

## 143-144

- 5Y2/1黒粘土 50Y7/1明オリーブ灰粘土ブロック少量混入
- 5Y7/2灰白粘土ブロック 2.5Y3/2黒粘シト混入
- 5Y7/3明黄粘土ブロック 10Y83/1黒粘シト混入
- 10Y83/2黒粘シト 10Y86.6明黄粘土少量混入

## 21-22

- 10Y83/2黒粘土 10Y86.6明黄粘土ブロック少量混入 土位に砂、鉄分、炭化物少量含
- 10Y86.6明黄粘土ブロック 10Y83/2黒粘土少量含

## 5-6

- 2.5Y3/2黒粘シト
- 2.5Y4/2増灰黄シト 5Y3/2オリーブ黒シト混入 砂含
- 5Y3/2オリーブ黒シト一部に5Y7/4黄粘土ブロック混入 砂、炭化物少量含

## 55-56

- 10Y83/1黒粘シト 2.5Y5/4黄粘砂ブロック混入
- 10Y86.6明黄粘シト 2.5Y7/4黄粘土少量混入
- 2.5Y4/2増灰黄シト20%混入
- 2.5Y7/4明黄粘土 2.5Y3/1黒粘土50%混入
- 10Y85/6黄粘シトブロック 2.5Y3/1黒粘土40%混入

## 127-128

- 10Y83/1黒粘土 2.5Y6/6明黄粘土、2.5Y7/2灰粘土混入
- 10Y83/1黒粘土 2.5Y6/6明黄粘土、2.5Y7/2灰粘土少量混入
- 10Y83/1黒粘土 2.5Y6/6明黄粘土、2.5Y7/2灰粘土少量混入
- 2.5Y7/2灰粘土 10Y83/1黒粘土、2.5Y6/6明黄粘土混入

## 31-32

- P102
- 2.5Y3/1黒粘土 10Y6/2オリーブ灰粘土ブロック混入
  - 2.5Y3/1黒粘土 10Y6/2オリーブ灰粘土ブロック混入 炭化物少量含
  - 10Y6/2オリーブ灰粘土ブロック 2.5Y3/1黒粘土20%混入
- P104
- 2.5Y3/1黒粘シト 10Y5/2オリーブ灰砂ブロック混入 炭化物少量含

## 99-100

- 2.5Y3/1黒粘土 2.5Y7/6明黄粘土ブロック混入
- 2.5Y3/1黒粘土 2.5Y7/6明黄粘土小ブロック少量混入

## 87-88

- 10Y85/6黄粘土ブロック 10Y83/1黒粘土混入
- 10Y83/1黒粘土 10Y86.6明黄粘土小ブロック混入

## 161-162

- 10Y85/4C-5黄粘シト 鉄分、炭化物少量含
- 2.5Y4/3オリーブ増砂 5Y7/2灰白粘土ブロック60%混入

## 57-58

- 2.5Y4/2増灰黄シト 10Y86.6明黄粘シトブロック少量混入

## 225-226

- 2.5Y3/1黒粘シト 2.5Y7/3黄粘土ブロック40%混入(注直線不明確)

## 173-174

- 2.5Y3/1黒粘土 7.5Y7/2灰白粘土ブロック30~40%混入
- 7.5Y7/2灰白粘土ブロック 2.5Y3/1黒粘土20~30%混入

## 133-134

- 2.5Y3/2黒粘土 10Y87/4C-5黄粘シトブロック少量混入
- 10Y87/4C-5黄粘シトブロック 10Y83/1黒粘土少量混入

## 4

- 10Y83/2黒粘土 10Y86.6明黄粘土ブロック10%混入 炭化物少量含
- 10Y83/2黒粘土 10Y83/1黒粘シト混入

## 5

- 2.5Y3/1黒粘シト
- 2.5Y6/6明黄粘シト 2.5Y4/1黄粘土少量混入
- 2.5Y3/1黒粘シト 2.5Y6/4C-5黄粘土ブロック少量混入
- 2.5Y6/6明黄粘シト 2.5Y7/4黄粘土ブロック、2.5Y4/1黄粘土少量混入

## 5

- 10Y83/1黒粘土 2.5Y7/2灰粘土少量混入

## 35-36

- 2.5Y3/3増オリーブ黒粘土 5Y7/3黄粘土ブロック混入 炭化物含
- 7.5Y3/1オリーブ黒粘土 7.5Y7/2灰白粘土ブロック混入

## 2

- 10Y5/2オリーブ灰粘土ブロック 2.5Y3/1黒粘土10%混入

## P105

- 2.5Y3/1黒粘シト 10Y84/6増砂ブロック混入 炭化物少量含
- 2.5Y3/1黒粘シト 10Y5/2オリーブ灰砂ブロック混入 炭化物少量含

## 3

- 10Y85/4C-5黄粘砂 5Y7/4黄粘土ブロック、2.5Y3/1黒粘土混入
- 10Y85/4C-5黄粘シト 2.5Y3/3黄粘砂ブロック混入

## 5

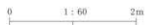
- 10Y84/6増砂 2.5Y7/4黄粘土ブロック、10Y84/2増灰黄粘土混入

## 2

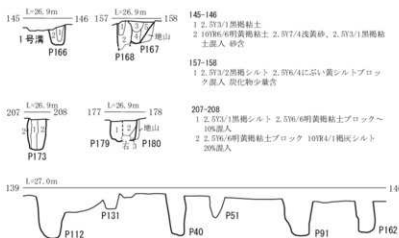
- 2.5Y7/6明黄粘土10Y86.6明黄粘シトブロック
- 2.5Y4/2増灰黄シト20%混入
- 2.5Y4/2増灰黄シト 2.5Y6/6明黄粘シトブロック少量混入
- 10Y86.6明黄粘 2.5Y8/3灰黄粘土ブロック、網状に2.5Y4/2増灰黄シト少量混入
- 2.5Y5/1黄粘シト 2.5Y6/6明黄粘シト混入

## 5

- 10Y83/2黒粘土 2.5Y7/6明黄粘土ブロック40%混入 炭化物含
- 2.5Y3/1黒粘土 5Y6/2オリーブ黄粘土ブロック50%混入 7.5Y4/1灰土(5%土位)



第4図 断面図(1)



SB 2



SB 3



1号柱穴列



- 2. 533/1黒褐色粘土
- 2. 10196/6明黄褐色粘土 2. 517/4浅黄砂, 2. 513/1黒褐色粘土 混入 砂含
- 2. 536/4にぶい黄シルトへ砂ブロック 10195/8黄褐色ブロック, 2. 513/1黒褐色シルトブロック混入
- 3. 533/1黒褐色シルト 2. 517/4浅黄シルトブロック混入
- 4. 537/4浅黄砂ブロック 2. 513/1黒褐色シルト混入
- 5. 2. 536/4にぶい黄シルトへ砂ブロック 10195/8黄褐色ブロック, 2. 513/1黒褐色シルトブロック少量混入

- 179-180
- 1. 10194/1褐色シルト 2. 517/6明黄褐色粘土ブロック混入 砂含
- 2. 10194/1褐色シルト 2. 517/6明黄褐色粘土ブロック1層より少し多く混入 砂含

- 43-44
- 1. 2. 513/2黒褐色粘土
- 2. 2. 513/2黒褐色粘土 2. 515/6黄褐色粘土ブロック30%混入

- 159-160
- 1. 10193/2黒褐色シルト 10197/6明黄褐色粘土ブロック混入
- 2. 2. 513/2黒褐色シルト 2. 517/4浅黄シルトブロック少し混入

- 23-24
- 1. 10193/2黒褐色粘土 10196/6明黄褐色粘土ブロック少量混入 上位に砂, 砂分, 炭化物少量含
- 2. 10196/6明黄褐色粘土ブロック 10193/2黒褐色粘土少量混入 炭化物含

- 25-26
- 1. 10194/2浅黄褐色粘土 10194/6褐色粘土ブロック少量混入 砂分含
- 2. 10194/1褐色粘土 2. 517/4浅黄シルトブロック混入炭化物少量含

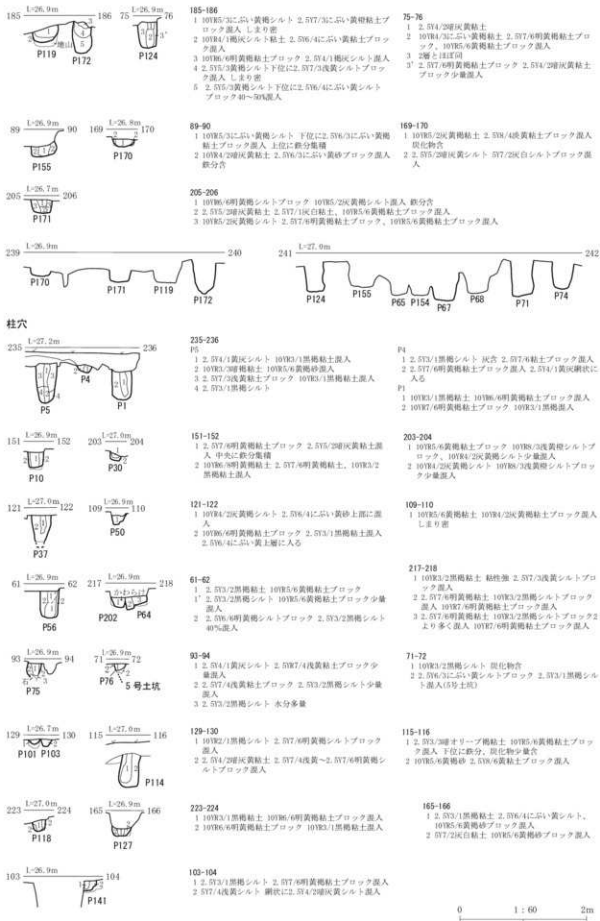
- 113-114
- 1. 2. 514/1黄シルト 2. 515/4黄褐色シルトブロック混入
- 2. 2. 514/3コーリーブ褐色粘土 10195/8黄褐色粘土ブロック混入
- 3. 10195/8黄褐色砂 2. 516/4にぶい黄粘土ブロック, 2. 513/2黒褐色シルト混入

- 83-84
- 1. 10195/4にぶい黄褐色シルト
- 2. 10194/2浅黄褐色粘土 2. 516/6明黄褐色粘土ブロック混入
- 3. 10194/3にぶい黄褐色粘土 10195/6黄褐色粘土小ブロック混入
- 4. 514/1褐色粘土 7. 516/61緑灰粘土ブロック混入
- 5. 10194/3にぶい黄褐色砂 2. 513/6黄褐色粘土ブロック混入

- P74
- 1. 2. 515/3黄褐色粘土 2. 516/6明黄褐色粘土ブロック混入 炭化物少量含
- 1' 2. 515/3黄褐色粘土 2. 516/6明黄褐色粘土ブロック混入
- 2. 2. 514/2暗灰黄粘土 10194/4褐色砂, 2. 518/2浅黄粘土ブロック混入
- 2' 2. 514/2暗灰黄粘土 10194/4褐色砂, 2. 518/2浅黄粘土ブロック多量混入
- 4. 2. 517/2浅黄粘土ブロック 10195/3にぶい黄褐色シルト混入

第5図 断面図(2)





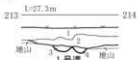
第6図 断面図(3)



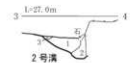
- 97-98  
 1. 5Y3/2黒褐色シルト 10YR5.6明黄褐色粘土ブロック混入  
 2. 10YR3/2黒褐色シルト 2.5YR7/3浅黄粘土ブロック40%混入

- 237-238  
 1. 2.5Y3/2黒褐色粘土 2.5Y6/6明黄褐色粘土ブロック40%混入 炭化物少量含  
 2. 2.5Y3/2黒褐色粘土 2.5Y6/6明黄褐色粘土ブロック10%混入 炭化物少量含  
 3. 2.5Y3/2黒褐色粘土 2.5Y6/6明黄褐色粘土ブロック10%混入 炭化物少量含

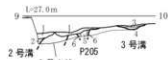
溝



- 213-214  
 1. 2.5Y1/2暗灰黄シルト 2.5Y7/6明黄褐色粘土ブロック混入 炭化物含 表土  
 2. 10YR3/2黒褐色シルト 砂、鉄分含  
 3. 10YR4/2灰黄褐色土 砂、鉄分含  
 4. 10YR4/2灰黄褐色土 上位に10YR7/6黄褐色粘土混入 砂、鉄分含



- 3-4  
 1. 2.5Y4/1黄灰粘土 全体に10YR3/2黒褐色、2.5Y6/4黄粘土ブロック少量混入 小礫、炭化物含  
 2. 5Y2/1オリーブ黒粘土 粘性強 水分多量、木片含  
 3. 層厚 小礫多

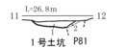


- 9-10  
 1. 2.5Y3/2黒褐色シルト 10YR5/6黄褐色シルト粘土ブロック混入 炭化物含(表土、埋め土)  
 2. 2.5Y3/2黒褐色粘土  
 3. 2.5Y3/2黒褐色シルト 2.5Y6/6明黄褐色粘土ブロック混入  
 4. 3層とほぼ同だが、より深い  
 5. 2.5Y3/2黒褐色粘土 2.5Y4/2暗灰黄粘土ブロック少量混入  
 6. 2.5Y6/4に深い黄粘土 2.5Y3/1黒褐色粘土少量混入



- 211-212  
 1. 2.5Y4/1オリーブ褐色シルト 水分多量含 表土  
 2. 10YR3/2黒褐色シルト 砂、炭化物含 表土  
 3. 10YR6/9明黄褐色粘土ブロック 10YR5/2灰黄褐色シルト混入 炭化物含  
 4. 10YR7/8黄褐色シルトブロック 2.5Y7/3浅黄褐色シルト混入  
 5. 10YR4/2暗灰黄シルト 10YR7/8黄褐色粘土ブロック混入

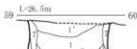
土坑



- 11-12  
 1. 10YR3/2暗褐色シルト 下位は粘性強 鉄分、炭化物少量含  
 2. 10YR3/2暗褐色シルト 10YR5.6黄褐色粘土混入



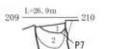
- 15-16  
 1. 10YR3/2暗褐色シルト 10YR5/8黄褐色砂ブロック混入  
 2. 10YR4/2灰黄褐色土 10YR5/8黄褐色砂ブロック混入(埋め土)  
 3. 2.5Y4/1黄灰シルト 2.5Y9/4黄砂 2.5Y6/2灰黄褐色粘土ブロック多量混入 炭化物少量含(埋め土)



- 33-34  
 1. 10YR4/1黄灰粘土 5Y6/2灰オリーブ粘土ブロック40%混入 炭化物含  
 2. 2.5Y4/1黄灰粘土 10YR7.6明黄褐色粘土ブロック混入 炭化物含  
 3. 10YR6/9明黄褐色粘土ブロック 10YR4/1黄灰粘土少量混入 砂含  
 3' 10YR6/9明黄褐色粘土ブロック 10YR4/1黄灰粘土少量混入  
 4. 10YR6/9明黄褐色粘土ブロック 層状に2.5Y3/1黒褐色粘土混入 炭化物含  
 5. 2.5Y6/2に5.5Y黄粘土ブロック 層状に10YR6/9明黄褐色粘土混入  
 6. 2.5Y4/1黄灰粘土 2.5Y7.2灰黄粘土ブロック



- 59-60  
 1. 10YR3/2暗褐色粘土 2.5Y7.6明黄褐色粘土ブロック10%混入 砂、鉄分、炭化物多量含  
 1' 2.5Y4/1黄灰粘土 2.5Y7.4浅黄褐色粘土ブロック混入 炭化物含  
 2. 5Y4/1灰粘土 5Y3/5オリーブ灰粘土ブロック少量混入 水分多量含  
 3. 2.5Y1/2暗赤粘土 2.5Y4/1黄灰粘土 10Y5/2オリーブ灰、礫類に10YR4/6褐色粘土ブロック混入 炭化物含  
 4. 5Y6/1オリーブ灰砂と粘土ブロック 2.5Y2/1黒粘土混入  
 5. 10YR4/1黄灰粘土 層状に2.5Y2/1黒粘土混入  
 6. 2.5Y6/1オリーブ灰シルト 2.5Y2/1黒粘土混入  
 7. 10YR6/1黄灰粘土 層状に2.5Y3/1黄灰粘土、上位に砂混入  
 8. 10YR6/1黄灰粘土 層状に2.5Y4/1黄灰粘土混入  
 9. 2.5Y7/3浅黄砂 層状に2.5Y3/1黒褐色粘土混入



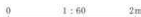
- 119-120  
 1. 2.5Y6/6明黄褐色粘土ブロック 5Y7/3浅黄褐色粘土ブロック、2.5Y3/1黒褐色シルト混入  
 1' 2.5Y4/1黄灰シルト 2.5Y6/6明黄褐色粘土ブロック少量混入  
 2. 10YR4/1黄灰粘土 2.5Y7/3浅黄褐色粘土ブロック混入炭化物含  
 3. 5Y4/2黄灰粘土 2.5Y7/3浅黄褐色粘土ブロック混入炭化物含  
 4. 2.5Y6/4に深い黄シルト 2.5Y4/1黄灰シルト混入  
 5. 2.5Y7/2灰黄粘土 10YR5/2灰黄褐色シルト少量、6層との境に2.5Y4/1黄灰粘土混入  
 6. 5Y7/3浅黄シルト 複数の層状に5Y4/1黄オリーブ粘土混入  
 7. 2.5Y6/1オリーブ灰粘土 高木本質混入  
 8. 2.5Y6/6明黄褐色粘土 10YR5.6黄褐色粘土  
 9. 5Y7/2灰粘土 地山崩壊層



- 209-210  
 1. 10YR4/3に深い黄褐色シルト 2.5Y7/6明黄褐色粘土ブロック混入 鉄分含  
 2. 10YR6/9明黄褐色粘土 2.5Y4/2暗灰黄粘土少量混入 砂含  
 3. 10YR5/4に深い黄褐色粘土 2.5Y7/2灰黄砂、2.5Y9/3灰黄褐色粘土ブロック混入

- 79-80  
 1. 10YR5/2灰黄褐色シルト 10YR6/9明黄褐色粘土ブロック混入 炭化物含

第7図 断面図(4)



## 4 まとめ

調査区は全体に近世遺構が濃い場所であった。区画は現在の区画とはほぼ同じで、柱穴の量からは近世に建替を繰り返した様子である。

1号柱穴列は近世の建物跡とは方向や埋土が異なるため時代に隔たりがある。検出した建物跡よりは古いと思われるが、この塀跡の様な施設があれば、周辺に同年代の建物は建てにくい状況にあると考えられる。

周辺の調査位置図(第1図)に示した志羅山遺跡第98次調査区の南西側には、当調査区検出の1号柱穴列の続きと思われる溝の跡と柱穴列がある。北東側に膨らむ様な配置ではあるが一連の物と思われる。距離は直線で42mである。柱穴の並ぶ方向も近世の建物とは異なり、出土遺物もかわりけのみである。12世紀の遺構の可能性があるが、98次調査区の北側には東西に並ぶ12世紀の塀跡があり、方向が異なる。この2条の塀跡の関係について、今後検討が必要である。

出土遺物は近世の遺物が多い。12世紀のかわりけはコンテナ(53×35×12cm)1箱に満たない程度であるが、3・4号土坑から比較的まとまって出土した。

第1表 柱穴観察表

番号	平面形	大きさ(cm) 縦方	柱径(cm)	深さ (cm)	周囲 埋土高 (cm)	出土遺物 (遺物番号)	新旧関係	備考
1	円か	30×21	11×-	56	26.28			
2	楕円	24×20	-	23	26.67	かわりけ		
4	円か	24×12	11×-	12	26.80			
5	円か	33×15	11×-	61	26.33			
6	楕円	16×14	9×8	22	26.66	かわりけ		
7	楕円	40×30	-	20	26.65	かわりけ	7号土坑より新	
8	円	22×21	未測	48	26.39	かわりけ	7号土坑より新	
9	隅丸方	21×19	11×11	38	26.46	かわりけ	7号土坑より新	
10	楕円	34×28	14×14	27	26.46	かわりけ	P195より新	
11	円	35×33	11×11	42	26.33	かわりけ		
13	円	22×19	10×8	33	26.53	土壁(89)	7号土坑より新	
14	円	15×13	-	4	26.75	かわりけ		
15	楕円	34×29	16×-	34	26.48	かわりけ		
16	隅丸方	22×22	-	40	26.40	かわりけ 木片	P17より新	
17	楕円か	26×25	13×13	29	26.53	かわりけ	P16より新	2号建物
18	円	23×21	-	24	26.64	かわりけ 土壁(90)		
19	円	29×27	-	49	26.36			3号建物
20	円か	18×14	10×10	12	26.74			
21	楕円	25×22	12×12	31	26.52	かわりけ	4号溝より新 P22より新	
22	円	22×24	13×13	24	26.63	かわりけ	4号溝・P21より新	
23	円	26×24	13×-	47	26.38	かわりけ 近世陶器(S3)		2号建物
24	円	21×19	12×12	31	26.58	かわりけ		1号建物
25	楕円	34×30	20×18	57	26.25	かわりけ 鉄製品		
26	楕円	48×32	-	52	26.29	かわりけ		1号建物 底に石
27	円	22×20	11×10	19	26.65			
28	円	28×26	-	28	26.46	かわりけ		
29	楕円	42×39	14×-	62	26.16	かわりけ 鉄の棒 (120)	P190より新	1号建物
30	円	22×22	10×11	16	26.70			
31	円	33×25	15×-	59	26.27	かわりけ		
33	円	34×24	14×14	51	26.35	かわりけ		1号建物 底に石
35	円	32×27	12×10	33	26.50			底に石
36	円	11×10	-	-	-			検出のみ
37	楕円	32×28	10×10	51	26.37	かわりけ 柱根		
39	楕円	26×20	12×11	14	26.78			
40	円	32×30	16×13	64	26.25	かわりけ 土壁(91)		1号建物
41	円	20×17	-	22	26.69	かわりけ		

番号	平面形	大きさ(cm) 縦方	柱径(cm)	深さ (cm)	周囲 埋土高 (cm)	出土遺物 (遺物番号)	新旧関係	備考
43	円	27×26	12×12	20	26.70	かわりけ		3号建物
44	楕円か	26×26	13×12	32	26.52	かわりけ	P45より新	1号建物
45	円	24×22	12×11	37	26.49	かわりけ 土壁(92)		P44より新 3号建物
46	楕円	56×41	14×-	22	26.63			P149より新
47	楕円	50×39	11×11	40	26.42	かわりけ 土壁(93) 柱根		P115より新 P163より新
49	楕円	27×22	11×-	27	26.53	近世陶器(S3) 近世磁器(S4)		
50	楕円	28×22	-	20	26.64	かわりけ 土壁(94)		
51	円	31×28	14×-	35	26.51	かわりけ 土壁(95)		2号建物
53	円	26×24	10×-	30	26.51	土壁(96)		1号建物
54	楕円	37×30	11×-	28	26.53	かわりけ 土壁(97)		底に石
56	円	32×32	15×14	46	26.37	かわりけ		
57	楕円	32×23	16×15	23	26.60	かわりけ		
58	楕円	31×20	9×9	39	26.47	かわりけ		
59	楕円	43×30	-	15	26.71	かわりけ 土壁(98)		
60	円か	23×21	-	14	26.51	かわりけ		1号建物 底に石
61	円	40×39	-	20	26.74	かわりけ 土壁(99)		P62より新
62	円	27×25	-	29	26.65	焼土		P61より新
63	円	30×29	14×-	33	26.51	かわりけ		
64	楕円	42×39	12×-	28	26.48	かわりけ		P206より新
65	円	29×25	11×-	32	26.36			1号柱穴列
66	楕円	33×29	9×-	43	26.34	かわりけ 柱根		P67より新
67	楕円	36×30	-	43	26.42			P66より新 1号柱穴列
68	円	37×35	21×-	26	26.28			P69と不明 1号柱穴列
69	不明	22×11	-	10	26.57	かわりけ		P165より新
70	楕円	33×30	12×-	29	26.36	かわりけ		P165より新 1号建物
71	円	39×37	19×19	51	26.37	かわりけ		1号柱穴列
72	円	20×18	11×9	34	26.57			P73より新
73	楕円	34×18	8×-	20	26.67	かわりけ		P72より新
74	円	37×34	23×-	44	26.43			1号柱穴列
75	楕円	26×22	12×11	25	26.53			5号土坑・P144より新 底に石
76	楕円	21×21	-	11	26.72	かわりけ		5号土坑より新
77	楕円	40×35	22×16	49	26.30	かわりけ		5号土坑・P142より新
78	円	27×26	15×12	42	26.24			4号土坑より新 3号建物
80	円	29×28	13×9	31	26.47	かわりけ 土壁(100)		
81	楕円	32×24	14×11	26	26.49	かわりけ 近世陶器(S7)		1号土坑より新
82	円	21×21	15×-	20	26.54			1号土坑より新

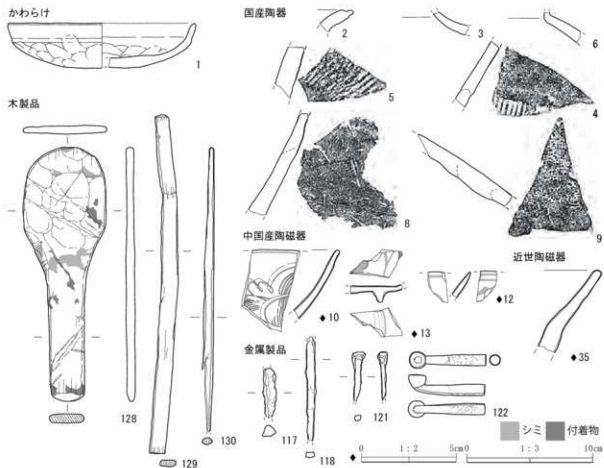


第1表 柱穴観察表

番号	平面形	大きさ(cm) 縦方 横方	深さ (cm)	高木 高さ (cm)	出土遺物 (遺物番号)	新旧関係	備考
83	楕円	21×19	12×-	16	36.56		
86	楕円	37×[25]	-	19	36.54	かわらけ 土層(102)	P87より新
87	楕円	29×23	-	30	36.54		P96より新 1号建物
88	円	25×20	-	36	36.42	かわらけ 瓦葺陶器(束)	P161より新 底に石
89	円	15×14	-	-	-		横溝のみ
90	楕円	26×21	9×9	19	36.45		
91	円	37×37	14×14	37	36.24	かわらけ	P138より新
92	長方	23×20	14×12	25	36.58	かわらけ	
93	長方	21×19	-	10	36.73	かわらけ	
94	円	18×17	-	8	36.72		
95	円	16×16	12×10	9	36.71	土層(103)	
96	楕丸方	20×20	-	15	36.24	かわらけ	
97	円	21×22	10×10	17	36.47		1号建物
98	楕円	23×20	12×11	11	36.72		
99	円	31×25	16×13	18	36.72		
100	円	55×50	-	51	36.34	かわらけ 瓦葺陶器(36・37) 鉄製品 木片	1号建物
101	円	21×19	-	9	36.55	かわらけ	
102	円	22×21	9×8	13	36.51		1号建物
103	円	20×20	-	12	36.52		
104	楕円	29×21	13×-	25	36.40	かわらけ	
105	円	27×25	12×11	30	36.35	かわらけ	1号建物
106	楕円	33×-	-	17	36.47	かわらけ	6号土坑より新
109	楕円	29×24	11×11	23	36.33		
110	楕円	26×23	12×12	38	36.38	かわらけ	1号建物
111	楕円	31×26	-	24	36.56	かわらけ	P112より新
112	楕円	50×46	12×-	61	36.21		P156より新 P111より新 1号建物
113	円	23×[21]	-	22	36.44		
114	円	26×[10]	14×-	33	36.18	かわらけ	
115	楕円	43×33	15×-	26	36.54	かわらけ	3号溝・P172より新
116	楕円	23×23	11×[9]	28	36.47	かわらけ	P117より新
117	楕円	18×15	9×9	20	36.45	かわらけ	P116より新
118	楕円	26×23	15×-	23	36.67	かわらけ	
119	楕円	44×40	-	29	36.47		1号柱穴
122	楕円	38×[31]	11×-	45	36.41	かわらけ	P123より新
123	楕円	33×28	11×10	36	36.32	かわらけ	P122より新 2号建物
124	円	31×29	13×-	48	36.39	かわらけ	1号柱穴
125	円	28×25	-	56	36.81		
127	円	32×32	11×-	17	36.50	かわらけ	
128	円	33×30	13×-	14	36.52		1号建物
131	楕円	35×32	9×-	27	36.63	かわらけ 土層(104)	2号建物
132	円	24×22	7×-	21	36.67		P133より新
133	楕円	22×[15]	-	10	36.77		P132より新
134	楕円	29×25	10×-	24	36.53		
135	楕円	29×25	15×-	23	36.51		
137	楕円	22×18	16×11	-	-		2号溝より新 横溝のみ
138	円	35×[23]	12×[7]	33	36.48	かわらけ	P191より新 1号建物
141	楕円	28×20	11×-	16	36.68		5号土坑より新 P75より新
142	楕円	29×[25]	13×[7]	39	36.45	かわらけ	5号土坑より新 P77より新 1号建物
144	円	12×12	-	6	36.40		4号土坑より新
145	楕円	31×29	15×-	38	36.46	かわらけ	P153より新
146	円	26×23	13×-	25	36.44	かわらけ	
148	円	22×20	11×-	37	36.46	かわらけ	
149	円	33×33	-	16	36.67	かわらけ	P86より新
150	楕円	45×40	15×-	47	36.43	かわらけ	P151より新
151	円	16×[10]	-	16	36.74	かわらけ	P150より新

番号	平面形	大きさ(cm) 縦方 横方	深さ (cm)	高木 高さ (cm)	出土遺物 (遺物番号)	新旧関係	備考
152	楕円	29×25	12×12	-	-	かわらけ	5号土坑より新 横溝のみ
153	楕円	35×[27]	-	16	26.69	かわらけ	P145より新
154	円	30×30	13×13	41	26.41		1号柱穴
155	円	41×36	16×16	38	26.46		1号柱穴
156	円	40×[26]	-	43	26.37		P112より新
158	楕円	30×24	9×9	18	26.66	かわらけ	
160	円	25×23	-	11	26.59		
161	楕円	[60]×51	-	50	26.29		P88・162より新
162	楕円	44×21	10×-	48	26.31	鉄線(119)	P161より新 1号建物
163	長方	35×25	-	39	26.41		P47より新 3号溝より新
164	楕丸方	25×25	-	33	26.66		
165	楕円	25×[20]	12×11	30	26.37		P69・70より新
166	円	26×26	12×10	32	26.48		1号溝より新 1号建物
167	楕円	[33]×31	15×-	[37]	[26.30]	かわらけ 瓦葺陶器(38) 土層(115) 不明調製品(125)	P168より新 底に石
168	円	40×[25]	11×-	65	26.40	かわらけ 土層(107)	P167より新 1号建物
170	楕円	37×30	-	16	26.52		1号柱穴
171	楕円	34×30	15×-	22	26.43		1号柱穴
172	円	33×32	-	51	26.30		1号柱穴
173	楕円	26×22	12×10	30	26.31		7号土坑より新 1号建物
174	楕円	28×22	-	7	26.70		
175	不明	[14]×[12]	-	-	-		
176	円	28×28	12×-	30	26.49		3号建物 底に石
177	楕円	[37]×34	-	24	26.62		
178	楕円	33×30	11×-	25	26.60	かわらけ 土層(108)	P177より新
179	楕円	38×30	-	37	26.43	かわらけ	P180と不明 1号建物 底に石
180	円	30×[23]	-	34	26.43	かわらけ	P179と不明
181	円	18×18	10×-	10	26.74		
182	円	20×18	-	-	-	不明磁片(126)	横溝のみ
183	楕円	[53]×32	11×11	25	26.62	かわらけ	P177より新 2号建物
184	正方	32×30	-	31	26.49	かわらけ	
185	楕丸方	24×18	-	23	26.52	かわらけ	1号土坑より新
186	楕円	28×26	14×12	46	26.20	かわらけ	
187	円	20×30	8×8	31	26.56	かわらけ	
188	円	25×25	-	26	26.64	かわらけ	P189と不明 2号建物
189	楕円	[26]×17	6×6	22	26.65	かわらけ 不明磁片(127)	P188と不明
190	円	30×29	12×10	-	-		P29より新 3号建物
191	円	34×33	11×10	29	26.51	瓦葺陶器(40) 柱敷	1号溝より新
192	円	26×26	12×10	12	26.62		1号溝より新
194	楕丸方	[17]×15	-	21	26.57	かわらけ	P202より新 1号建物
195	円	27×[23]	[8]×7	15	26.61		1号溝・P102より新
196	楕円	24×17	12×8	35	26.47	柱敷	
197	楕円	29×23	13×13	12	26.78	かわらけ	
198	楕円	21×18	7×7	29	26.57	かわらけ 土層(109)	
199	円	22×[10]	-	15	26.72	かわらけ	
200	楕円	[26]×16	-	14	26.69		
201	楕円	[24]×[18]	-	12	26.71		
202	円	20×16	-	26	26.52		P194より新
203	円	23×21	-	-	-		横溝のみ
204	楕丸方	[23]×21	-	22	26.50		
205	円	21×20	11×10	[11]	[26.67]		
206	楕円	28×20	-	24	26.52	かわらけ 土層(100)	P64より新
207	楕円	[30]×26	-	40	26.43		

※ 無い番号は矢倉〔 〕未発掘での計測値



第8図 出土遺物

第2表 かわらけ観察表

No	国版	写真国版	出土位置・層位	種類	法量 (cm)			残存率 (%)	年代	備考	登録No
					口径	底径	器高				
1	8	5	4号土坑南半	手づくね大	14.8	-	3.6	40	12c	指痕 反転実測	78.86-1.111-1

第3表 国産陶磁器観察表

No	国版	写真国版	出土位置・層位	種類	器種	部位	年代	備考	登録No
2	8	5	1号溝 底面	常滑	甕	口縁部	12c		3
3	8	5	2号溝	常滑	甕	頸部	12c	押印	27-3
4	8	5	1号土坑 上面	常滑	甕	胴部	12c	押印	12
5	8	5	4号土坑南半	海美	甕	胴部	12c	押印	74-2
6	8	5	5号土坑1層	常滑	甕	頸~胴部	12c		187-2
7	-	-	P81 検出面	東濃	山瓶	体部	12c	小片	60-2
8	8	5	P88 底面	東北産か	鉢か	体部	13・14c	内面擦り痕	164
9	8	5	坑5北覆瓦	東北産か	甕	胴部	13・14c	瓷胎系	18-2

第4表 中国産陶磁器観察表

No	国版	写真国版	出土位置・層位	種類	器種	部位	年代	備考	登録No
10	8	5	4号土坑4層周辺	青磁	碗	口~体部	12c	龍泉窯12・3	83-1
11	-	-	調査区東手クレーニング	染付	碗	体部	15・16c	明染付 肥前産の可能性も 内面に文様 小片	8-8
12	8	5	西側屋敷	染付	皿	口~体部	17c初	明末清初	50-11
13	8	5	西側屋敷	染付	皿	底部	15・16c	明染付 内外面に文様	50-12

第5表 土師器観察表

No	国版	写真国版	出土位置・層位	器種	部位	年代	備考	登録No
14	-	-	4号土坑南半	甕	胴部か	平安		85-7
15	-	-	P167南半	甕	口縁部	平安		254-2

第6表 近世陶磁器観察表

No	国版	写真国版	出土位置・層位	種類	器種	部位	年代	備考	登録No
16	-	-	1号溝 上面	陶器	碗	口~底部	近世	瀬戸美濃産	2
17	-	-	1号溝 上面	陶器	甕	胴部	19c~	在産	204
18	-	5	1号溝	陶器	碗	体部	17・18c	肥前産 呉器手觸	226
19	-	-	2号溝 ドレンシ	陶器	鉢	体~底部	19c~	在産	16-3
20	-	-	2号溝 ドレンシ	陶器	備鉢	体部	19c~	在産	16-4
21	-	-	2号溝 ドレンシ	陶器	鉢か	体部	19c~	在産 孔あり	16-9

志羅山遺

第6表 近世陶磁器観察表

No.	図版	写真図版	出土位置・層位	種類	器種	部位	年代	備考	登録No.
22	-	-	2号溝 トレンチ	磁器	碗	口縁部	19c	瀬戸産 染付	16-6
23	-	-	2号溝 トレンチ	磁器	碗	体-底部	19c	瀬戸産 染付	16-2
24	-	5	2号溝	磁器	蓋	蓋	19c	大瀬相馬産 蓋灰釉	27-16
25	-	5	2号溝	陶器	葉小	胴部	19c~	産地不明	27-17
26	-	-	2号溝	陶器	鉢	口縁部	19c~	在産地	27-18
27	-	-	2号溝	磁器	皿	底部	近世	肥前産 染付	27-4
28	-	-	2号溝	磁器	皿	体部	近世	肥前産 染付 打ち成り	32-10
29	-	-	2号溝	磁器	碗	体-底部	19c	瀬戸産 染付	27-15
30	-	-	2号溝	磁器	小碗	体部	19c~	瀬戸産 染付 小型小碗か	32-2
31	-	-	3号溝	磁器	瓶	胴部	19c	切込産か	28-2
32	-	-	1号土坑 上面	磁器	碗	体部	近世	肥前産 染付	14-2
33	-	-	2号土坑 南半	磁器	皿小	底部か	近世	肥前産 染付	26-2
34	-	-	4号土坑南半 横出面	磁器	碗	体部	近世	肥前産 染付	84-2
35	8	5	P22	陶器	大皿	口-体部	16c末~17c	産地不明	216
36	-	5	P100南半	陶器	碗	胴部	19c~	産地不明	55-3
37	-	-	P100南半	磁器	碗	体部	近世	肥前産 染付	55-2
38	-	-	捜乱	陶器	壺	口縁部	19c~	産地不明	147
39	-	-	P167南半	陶器	碗	体部	近世	産地不明	254-3
40	-	-	P191	磁器	碗	口-体部	近世	肥前産 染付	249
41	-	-	埋め立範囲	陶器	鉢	口縁部	19c~	在産地	29-6
42	-	-	埋め立範囲	陶器	火入小	体部	19c~	産地不明	29-7
43	-	-	埋め立範囲	磁器	碗	口縁部	19c前	瀬戸産 染付 瀝灰釉	29-2
44	-	-	P70周辺基礎部清掃	陶器	碗	体部	近世	瀬戸美濃産か	191-1
45	-	-	埋め立範囲ベルト	陶器	蓋小	蓋小部	19c	大瀬相馬産	35-7
46	-	-	埋め立範囲ベルト	磁器	碗	口縁部	18c	大瀬相馬産 灰釉	35-8
47	-	5	埋め立範囲ベルト	磁器	華瓶	肩部	近世	肥前産 胴部の装飾部	35-6
48	-	-	埋め立範囲ベルト	磁器	碗	体部	19c	瀬戸産か 染付	35-2
49	-	-	埋め立範囲ベルト	磁器	碗	口縁部	19c~	産地不明 染付	35-5
50	-	-	埋め立範囲	陶器	碗	体部	19c	大瀬相馬産 蓋灰釉	30-2
51	-	-	埋め立範囲	陶器	碗	体部	19c	大瀬相馬産 蓋灰釉	30-4
52	-	5	埋め立範囲	磁器	皿	口縁部	近世	肥前産 染付 唐草文	48-2
53	-	-	捜乱	陶器	小鉢小	体部	19c~	在産地	132-2
54	-	-	捜乱	磁器	小鉢	口縁部	18c前	肥前産 染付	132-1
55	-	-	重機	陶器	碗	体部	19c	大瀬相馬産か 蓋灰釉	1-7
56	-	-	重機	陶器	碗	体部	19c~	産地不明 蓋灰釉	1-3
57	-	-	重機	磁器	瓶	胴部	近世	肥前産 染付	1-14
58	-	-	重機	磁器	碗	口-体部	近世	肥前産 染付	1-6
59	-	-	重機	磁器	碗	口-体部	近世	肥前産 染付	1-9
60	-	-	重機	磁器	碗	体-底部	近世	肥前産 染付	1-8
61	-	-	重機	磁器	瓶部	底部	近世	肥前産 染付	1-10
62	-	-	重機	磁器	碗	体部	近世	肥前産 染付	1-11
63	-	-	重機	磁器	碗	底部	近世	肥前産 染付	1-13
64	-	5	重機	磁器	皿	口縁部	近世	肥前産 染付	1-12
65	-	5	重機	磁器	皿	底部	18c後~19c	肥前産 染付 内面見込みに5弁花	1-2
66	-	-	重機	磁器	皿	底部	近世	肥前産 染付	1-7
67	-	5	重機	磁器	碗	口-底部	19c	瀬戸産 染付 地盤敷き 外底に「白山」の文字	1-15
68	-	-	調査区北側 沼塚切り	陶器	碗	体部	近世	肥前産 呉漆手編	291-3
69	-	-	調査区北側 沼塚切り	陶器	碗	体部	近世	美濃産	291-2
70	-	-	調査区北側 沼塚切り	磁器	碗	体部	近世	肥前産 染付	291-4
71	-	-	調査区北側 沼塚切り	陶器	碗	体部	19c~	産地不明	291-15
72	-	-	調査区南側 沼塚切り	陶器	楕鉢	体部	19c~	在産地	292-2
73	-	-	調査区西側 沼塚	陶器	碗	体部	近世	肥前産か	206-2
74	-	5	調査区東半 沼塚	磁器	碗	口縁部	18~19c初	肥前産 染付	8-7
75	-	5	西側拡張	陶器	瓶	胴部	18c	大瀬相馬産 灰釉	50-13
76	-	5	西側拡張	陶器	碗	底部	19c	大瀬相馬産 蓋灰釉	50-3
77	-	5	西側拡張	陶器	碗	口縁部	19c~	在産地	50-14
78	-	-	西側拡張	磁器	碗	体部	19c~	産地不明 染付	50-2
79	-	-	出土位置不明	陶器	壺形台	口縁部	19c~	在産地	307

第7表 土壁観察表

No.	図版	写真図版	出土位置・層位	法量 (cm)	重量 (g)	スサの有無	数量	登録No.	
80	-	-	2号溝	0.8~1.4	1.3	有	4点	32-6	
81	-	-	1号土坑 上面	0.9~1.2	1.6	有	4点	14-4	
82	-	-	2号土坑南半	1.4	0.4	不明	1点	26-4	
83	-	-	3号土坑南半 土層	1.3	2.0	8.4	有	4点	37-2
84	-	-	4号土坑南半 土層	0.9~1.7	1.5	有	2点	73-2	
85	-	-	4号土坑南半	0.7~1.6	2.0	有	3点	84-4	
86	-	-	4号土坑南半	0.8~2.8	1.29	不明	4点	85-8	
87	-	-	4号土坑南半	1.4	1.0	有	1点	86-5	
88	-	-	5号土坑南半	1.2	0.7	不明	1点	146-2	
89	-	-	P13	0.7~4.1	76.8	有	40点	260	
90	-	-	P18西半	0.9~1.5	1.5	不明	2点	213-2	
91	-	-	P40西半	0.5~1.0	0.6	不明	3点	52-2	
92	-	-	P45西半	1.4	1.2	有	1点	68-2	
93	-	-	P47北半	2.0	1.8	有	1点	167-2	
94	-	-	P50南半	1.3	1.0	有	1点	139-2	
95	-	-	P51南半	1.1	0.5	不明	1点	69-2	
96	-	-	P53北半	2.4	4.1	有	1点	184-2	
97	-	-	P54東半	0.6~1.1	1.1	不明	4点	133-2	
98	-	-	P59横出面	2.3	3.6	有	1点	41	
99	-	-	P61	1.1~1.5	2.3	不明	3点	22-2	
100	-	-	P206	1.5	1.1	不明	1点	274-2	
101	-	-	P80南半	0.9~1.5	0.8	不明	2点	71	
102	-	-	P86横出面	1.0	0.5	不明	1点	42	
103	-	-	P95横出面	0.5~1.1	0.6	有	2点	44	
104	-	-	P131横出面	1.6	0.8	有	1点	56	
105	-	-	P167・168 上面	1.6	2.2	有	1点	201-2	
106	-	-	P167南半	0.9~2.1	5.6	有	5点	254-4	
107	-	-	P168南半	1.8	2.5	有	1点	255-3	
108	-	-	P178西半	1.1~2.5	4.7	有	2点	256-2	
109	-	-	P198南半	1.9	1.8	不明	1点	288-2	
110	-	-	埋め立範囲	2.2	3.1	有	1点	29-4	
111	-	-	調査区中央規范溝	3.3	7.5	不明	1点	10-1	
112	-	-	調査区北西側 沼塚	1.4~2.1	6.1	有	2点	6-3	
113	-	-	調査区西半 沼塚	1.3~2.9	9.6	有	5点	9-2	
114	-	-	調査区東半 沼塚	1.1	0.3	有	1点	49-2	

第8表 金属製品観察表

( ) 残存値

No	図版	写真図版	出土位置・層位	種類	法量 (cm)			重量 (g)	備考	登録No
					長さ	幅	厚さ			
115	-	-	2号溝	鉄 角釘か	3.7	0.7	0.7	186		27-9
116	-	-	1号土坑北半	鉄 角釘か	3.5	0.7	0.7	157		15-2
117	8	5	4号土坑上面	鉄 角釘 (39)		1.1	0.9	514		63-2
118	8	5	4号土坑南半拡張部 検出面	鉄 角釘	8.2	0.8	0.5	783		84-6
119	-	-	P162東半 柱痕跡か	鉄 鉄銭か	2.6	2.2	0.7	1026	円形	174
120	-	-	埋め立範囲	鉄 角釘か	4.8	0.5	0.3	232	角棒状	29-9
121	8	5	埋め立範囲	鉄 角釘 (39)		1.0	0.7	440		30-3
122	8	5	埋め立範囲	銅 煙管	6.1	大径径1.3 小径0.9		733	雁首部のみ 唐草文	48-3
123	-	-	埋め立範囲	鉄 鉄銭か	2.4	2.5	0.7	423	円形 中央に穴 筋多い	48-4
124	-	-	4号土坑 南半 1層	鉄 角釘	5.2	0.7	0.5	410		73-6
125	-	5	P167南半	銅 不明	1.7	1.6	0.4	160	リング状	254-5

第9表 洋銀観察表

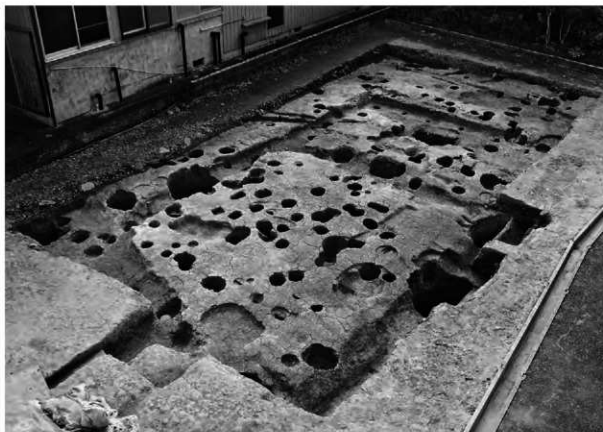
No	図版	写真図版	出土位置・層位	大きさ (cm)	重量 (g)	鋳造	備考	登録No
126	-	-	P182底	0.7~1.9	6.1	無		265
127	-	-	P189東半	1.4~1.5	23.0	無		247-2

第10表 木製品観察表

No	図版	写真図版	出土位置・層位	種類	法量 (cm)			備考	登録No
					長さ	幅	厚さ		
128	8	5	4号土坑 南半	籠	20.1	6.6	0.7		79
129	8	5	4号土坑 南半	板状加工木	26.8	1.4	0.5		77
130	8	5	4号土坑 南半	箸	(22.5)	0.8	0.5		86-2
131	-	-	4号土坑	箸	(19.0)	0.7	0.6	先端にコゲ	111-2
132	-	-	4号土坑	杵か	(2.7)	(2.5)	0.5	残り物 2片接合	111-3

第11表 植物遺体観察表

No	図版	写真図版	出土位置・層位	種類	大きさ (cm)	備考	登録No
133	-	-	4号土坑南半	植物	2.3~2.7	3点	85-4
134	-	-	5号土坑	豆類か	0.4	1点	196-3
135	-	-	P29東半	植物	1.4~2.2	2点	252-2



写真図版1 調査区全景 (北東から)



調査区全景（北西から）



P71 断面



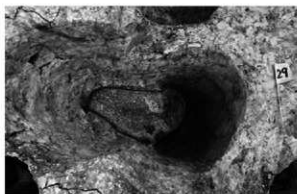
P179・P180



P156・P112・P111 断面



P154・P66 断面



P167・P168



P33断面



P150断面



P168・P167断面



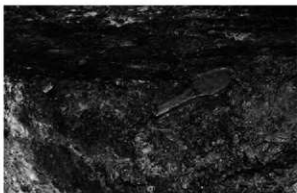
P100断面



3号土坑断面



4号土坑断面



4号土坑 露出土状況



5号土坑断面



6号土坑



7号土坑検出状況(東から)



7号土坑・P7 断面209-210



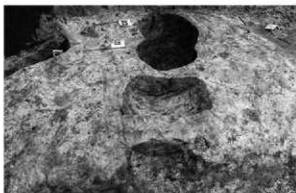
1号溝 断面213-214



2号溝(東から)



3号溝(西から)



4号溝 断面197-198

かわらけ

中国産陶磁器



1



10



13



12

国産陶器



2



6



4



9



8



3



5

近世陶磁器



18



24



25

金属製品



117



121



118



125



122



36



47



35

木製品



128



130



129



52



64



65



65



67



67



74



76



75



77



76

写真図版5 出土遺物



## 花立Ⅱ遺跡第30次発掘調査

### 1 調査要項

地点	岩手県西磐井郡平泉町平泉宇鈴沢96-2
調査面積	80㎡
調査期間	令和5年8月24日～11月12日
原因	住宅新築
調査担当	藤田崇志・鈴木博之

### 2 遺跡の位置と概要

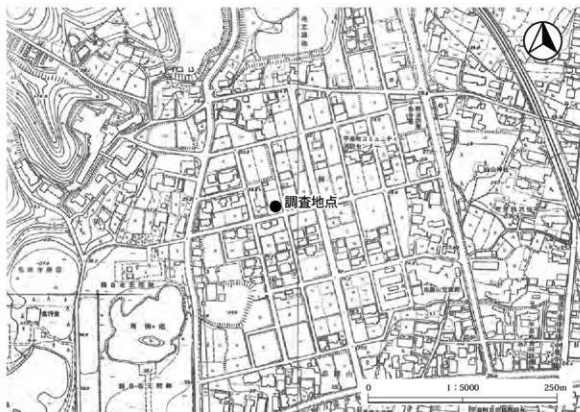
調査地点はJR東北本線平泉駅の北西400m、志羅山遺跡の北隣に位置する。この付近は金鶏山から東方向に向かって緩やかに下る地形で、かつては水田が広がっていたが、昭和50年代に区画整理されて以降、宅地化が進んでいる。区画整理時の際に切土・盛土された影響から、遺構の残存状況は場所によって異なるが、今回の調査地点は既ね盛土された場所であったことから、遺構の残存状況は良好であった。また、区画整理時の盛土中にかわらけや陶器等が混入していた。そのほとんどは12世紀のものであるが、一部は13～14世紀と考えられるかわらけも含まれている。

調査区北側で行われた23次調査では、13世紀から14世紀初頭を主体とする掘立柱建物、井戸跡、溝で構成された屋敷地の一部を検出し、同時に12世紀から14世紀にかけて断続的に地業が行われていたことが確認され、同様の遺構・整地層が検出されることが予想された。

### 3 基本土層

I層：表土 10YR4/4にぶい黄褐シルト

II層：造成土 2.5Y4/2暗灰黄シルトなど 昭和50年代の区画整理時の造成土



第1図 位置図

Ⅲ層：旧水田層	10YR3/4暗褐色シルトなど	少なくとも二時期の水田耕作層あり
Ⅳ層：整地層1	2.5Y5/3黄褐色粘性シルトなど	12～14世紀の遺物出土
Ⅴ層：整地層2	2.5Y5/2暗灰黄粘性シルトなど	12～14世紀の遺物出土
Ⅵ層：地山	2.5Y5/3にぶい黄～黄褐色粘性シルト	

#### 4 調査概要

重機により概ねⅢ層まで掘削し、人力により遺構検出及び精査を行った。

**検出遺構**：中世の整地層と溝跡1条、柱穴50個、時期不明の土坑1基を検出した。

<分布傾向>北調査区全域において中世の整地層を確認した。中世の整地層は二時期(Ⅳ・Ⅴ層)確認したが、大半の遺構はⅣ層上面で検出した。ただし、1号土坑は例外的にⅣ層に覆われた状態で検出し、Ⅴ層面を掘り込んでいたが、Ⅳ・Ⅴ層の把握に手間取ったこともあり、この土坑以外に明確にⅤ層面を検出面とする遺構を確認することができなかった。この整地層の帰属時期だが、Ⅳ層の整地層1及びⅤ層面の整地層2ともに出土量は少ないものの13～14世紀のかわらけが出土したことから中世に帰属すると考えられる。このⅣ・Ⅴ層に類似した整地が北隣の23次調査において断続的に確認しており、帰属時期は中世であることから齟齬は無いと考えられる。

##### (1) 溝跡

2条検出した。個々の属性は一覧表を参照願いたい。ここでは傾向について触れる。

	全長 (m)	幅 (m)	断面形	深さ (cm)	方位	検出面標高 (m)	底面標高 (m)	その他
30SD1	[2.90]	0.6～1.17	逆台形	8～14	N-18°-E	30.15～30.21	30.07～30.10	本文参照
30SD2	[0.90]	0.7～0.75	逆台形	4～19	N-13°-W	29.99～30.14	29.95	

**1号溝 (30SD1)** <位置・検出状況>北調査区中央東端においてⅣ層上面で検出した。P50と重複関係にあり同遺構より新しい。また、軸線が北北東-南南西方向に向いているものの、調査区外に続いているため、全体の延長規模は不明である。<埋土>オリブ粘性褐色シルトを主体とした自然堆積を呈する。<底面>北から南に向かうにつれて低くなっていき、比高差6cmを測る。底面は概ね平坦である。<出土遺物>かわらけ細片、国産陶器2点(No.38の常滑、No.39の東北産各1点)、瓦1点(No.76)、土壁2点(No.86・87)、角釘1点(No.117)が出土した。<所属時期>中世の整地層を掘り込んでいること、新しい時期に帰属する遺物がないことから中世に帰属するものと思われる。

**2号溝 (30SD2)** <位置・検出状況>北調査区東端においてⅣ層上面で検出した。位置的にP43・44・52と重複関係にあると思われ、P43・44に切られていることから同遺構より古い、P52との新旧関係ははっきりしない。また、軸線も不明確かつ、大半が調査区外にあることから全体の規模は不明である。<埋土>暗オリブ粘性褐色シルトを主体とした自然堆積を呈する。<底面>底面は概ね平坦である。<出土遺物>かわらけ細片が出土した。<所属時期>中世の整地層を掘り込んでいること、新しい時期に帰属する遺物がないことから中世に帰属するものと思われる。

##### (2) 中世の整地層

23次調査成果から、中世の整地層が広がっていることが予想されていたが、遺構検出の結果、黄褐色粘性シルトを主体とした整地層を確認した。北調査区では、北、西、東端及び中央にサブレンチを設定し堆積状況を確認した。その結果、整地層は上下二面(Ⅳ・Ⅴ層)あることが確認された。この整地層は概ね斜面上位である西側から東側に土砂が堆積し、表面を黄褐色粘性シルトで覆ったようにも見受けられるが、北東側の1号土坑がⅤ層を掘り込み、Ⅳ層面に覆われていたことから、二時期と判断した。この整地層は12世紀の遺物を主体として、一部中世の遺物が含まれていたことから、帰属時期は中世で、整地時に12世紀の遺構・遺物が巻き込まれたものと判断した。

**整地層1** <位置・検出状況>調査区全域において検出した。検出面標高は北調査区では29.94～30.42mで比高差48cmを測る。南調査区では29.6～29.73mで比高差13cmを測る。<埋土>黄褐色～暗灰黄粘性シルトを主体とした人為堆積を呈し、層厚は北側で18～35cm、南側で7～9cmを測る。<出土遺物>大型の手づくねが3点(Na2～4)、小型の手づくねが15点(Na6～19)、大型のロクロが1点(Na24)、小型のロクロが4点(Na25～28)、他にNa35の台状、Na37の内折れが出土した。国産陶器は、渥美が2点(Na44・45)出土した。他に青白磁合子(Na65)、平瓦1点(Na78)、土壁は一定量出土し、楔、点(Na120)が出土した。<所属時期>出土遺物から中世に帰属すると判断した。

**整地層2** <位置・検出状況>南調査区を除く北調査区全域において検出した。検出面標高は29.75～30.2mで比高差45cmを測る。<埋土>黄褐色～オリーブ褐粘性シルトを主体とした人為堆積を呈し、最大厚23cmを測る。<出土遺物>小型の手づくねが1点(Na10)、大型のロクロが1点(Na22)、小型のロクロが4点(Na29～32)などが出土した。<所属時期>出土遺物から中世に帰属すると判断した。

### (3) 土坑

中世の土坑1基を検出した。個々の属性は一覧表を参照願いたい。ここでは傾向について触れる。

	平面形	規模	断面形	深さ (cm)	検出面標高 (m)	底面標高 (m)	遺物
30SK1	円形	[1.5] × 2.69	円形	93	30.18	29.24	本文参照

**1号土坑(30SK1)** <位置・検出状況>北調査区西側に位置する。検出面はV層である。調査区北端のサブトレンチにおいてIV層に覆われた状況を確認した。その後南北方向にサブトレンチを入れて土坑の範囲を把握し、当該部分のIV層を除去し精査を行った。本土坑は北側は調査区外に延びており、南側の一部を検出したため底面まで到達しているか判然としなかった。<埋土>上位は暗灰黄粘性シルトを主体とした整地層1に覆われ、中位は黄褐色粘性シルト、下位は暗灰黄粘性シルトを主体とした自然堆積を呈する。<出土遺物>かわらけ・土壁が出土したが、細片主体のため、掲載できる遺物はなかった。<所属時期>検出状況から中世に帰属するものと判断した。

### (4) 柱穴

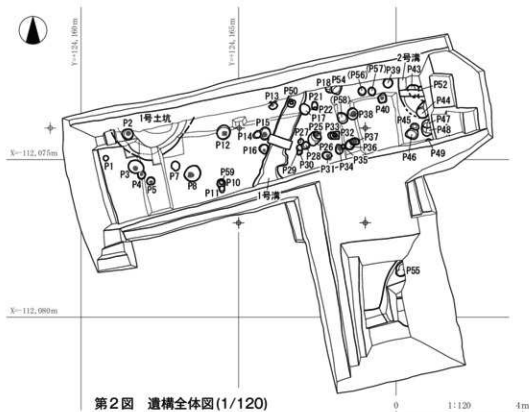
49個検出した。帰属時期は概ね中世に帰属する。個々の属性は一覧表を参照願いたい。ここでは傾向について触れる。

<検出状況>基本土層IV層で検出した。<平面形>円形、楕円形主体で一部角形が含まれる。<規模>10～54cm、深さは5～59cmと様々である。<出土遺物>ほぼ全ての柱穴からかわらけ細片が出土し、形のあるものはP7から出土したNa1のかわらけがある。この他にP2からNa118の角釘、P8からNa41の渥美、Na88・89の土壁、P12からNa90の土壁、Na119の角釘、P13からNa91の土壁、P14からNa126の鉄滓、P17からNa5のかわらけ、Na92・93の土壁、P21からNa71の土師器坏、P25からNa72・73の土師器甕、P26からNa34の高台付かわらけ、P28からNa94の土壁、Na127の鉄滓、P31からNa95の土壁、P34からNa96の土壁、P36からNa60の中国産白磁皿、Na77の瓦、Na97の土壁、P38からNa61の天目茶碗、Na74の土師器、P43からNa43の渥美、Na98の土壁、P44からNa20のかわらけ、Na63の白磁水注、Na133の砥石、P54からNa100の土壁が出土し、掲載した。<所属時期>古代・12世紀・中世の遺物が混在しているが、IV層面を検出面とし、新しい時期の遺物が含まれていないことから中世と判断した。

### (5) 出土遺物

かわらけがコンテナ(53×35×12cm)6箱、国産陶器21点、中国産陶磁器12点、土師器5点、瓦10点、土壁31点、鉄滓3点、種子数点、砥石1点などが出土した。

かわらけは12世紀のものが主体で、13～14世紀に帰属するものが少量出土し、そのほとんどが、整地層からの出土であり、整地層を掘り込んだ遺構からは若干出土したのみである。

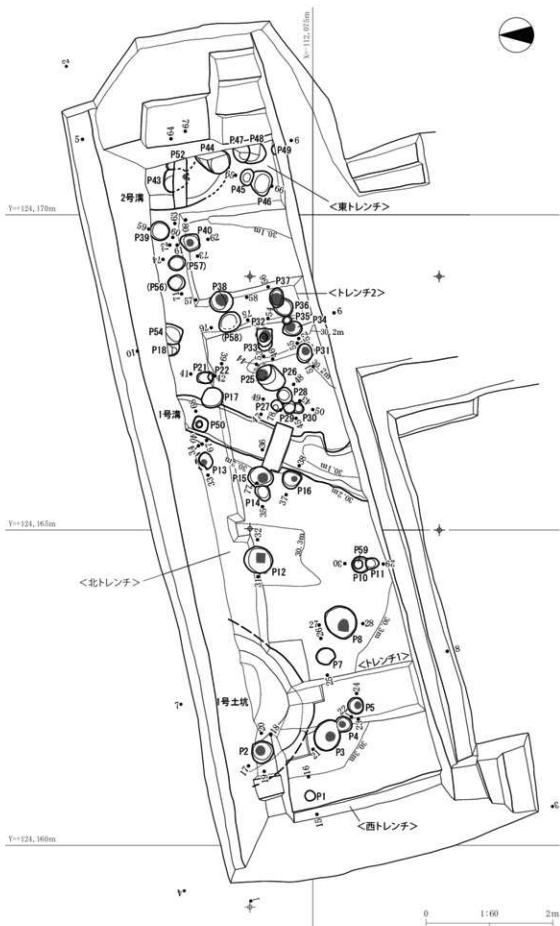


第2図 遺構全体図(1/120)

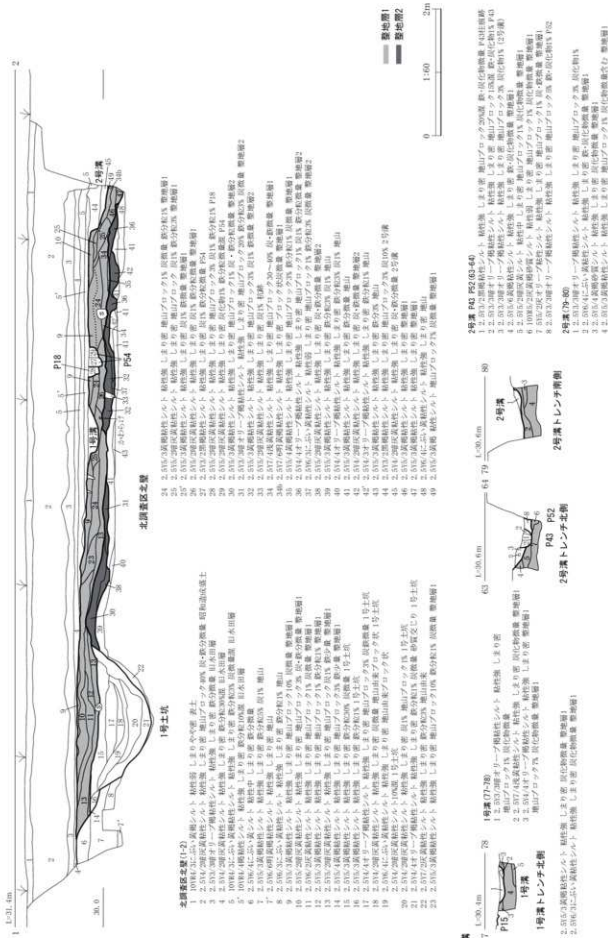
かわらけの内訳は、大型の手づくねが4点(No1～4)、小型の手づくねが15点(No5～19)、大型のロクロが5点(No20～24)、小型のロクロが9点(No25～33)、他にNo34の高台、No36の柱状高台、No37の内折れがあり、形のわかるものは掲載した。国産陶器は、常滑が5点(No38他)、渥美が7点(No41他)、13～14世紀に帰属する東北産が7点(No39他)である。いずれも器種は壺が多く、壺、鉢、小皿が少数である。中国産磁器は白磁が6点で、皿(No60)、碗(No59-66)、四耳壺(No70)、水注(No63・64)が、青白磁は4点で、皿(No62)、合子(No65)、梅瓶(No67)、碗(No68)が出土した。土師器は5点で赤彩甕が2点(No73-74)出土した。瓦は10点(No76～85)で破片かつ平瓦主体で中世に帰属するものである。土壁は全点計測し表掲載した。金属製品(No117～125)は角釘がほとんどで、整地層と柱穴から出土した。鉄滓は3点(No126～128)出土した。植物遺体数点(No129～132)出土しており、モモの種子がほとんどである、他に砥石1点(No133)など出土した。

## 5 まとめ

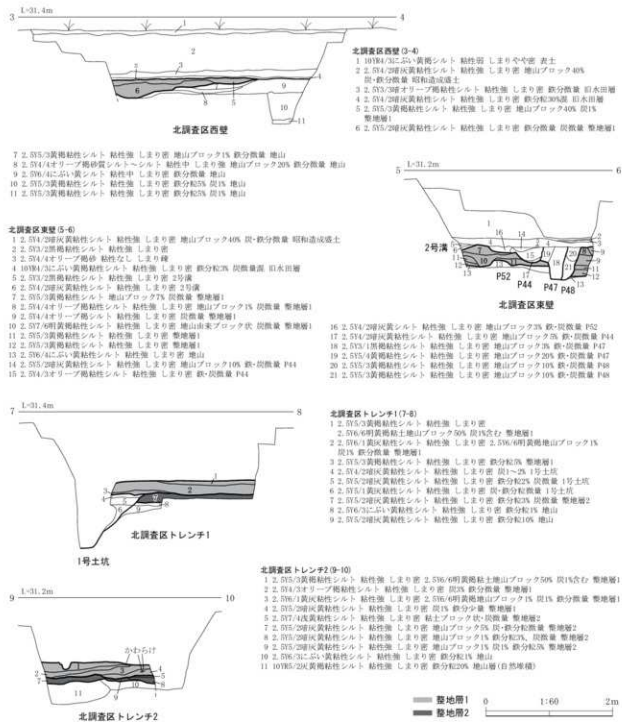
今回の調査では、中世の整地層とその上面から柱穴・溝を検出した。建物の構成は把握できなかったが、北に隣接する23次調査で確認された屋敷地が南に広がっていることが明らかとなった。中世の整地層は調査区全域で確認した。この整地層は二時期(Ⅳ・Ⅴ層)確認したが、大半の遺構はⅣ層上面で検出している。ただし、1号土坑は例外的にⅣ層に覆われた状態で検出し、Ⅴ層面を掘り込んでいたが、調査は大半をⅣ層面に留めたこともあり、この土坑以外に明確にⅤ層面を検出面とする遺構を確認することができなかった。この整地層の帰属時期だが、Ⅳ層の整地層1及びⅤ層の整地層2から出土量は少ないものの13～14世紀のかわらけ、国産陶器が出土したことから中世に帰属すると考えられる。また、12世紀に帰属する遺物が整地層から多く出土したが、これらは中世の整地の際に混入したものと思われ、周辺にかつては12世紀の遺構が展開されていた様子が窺える。



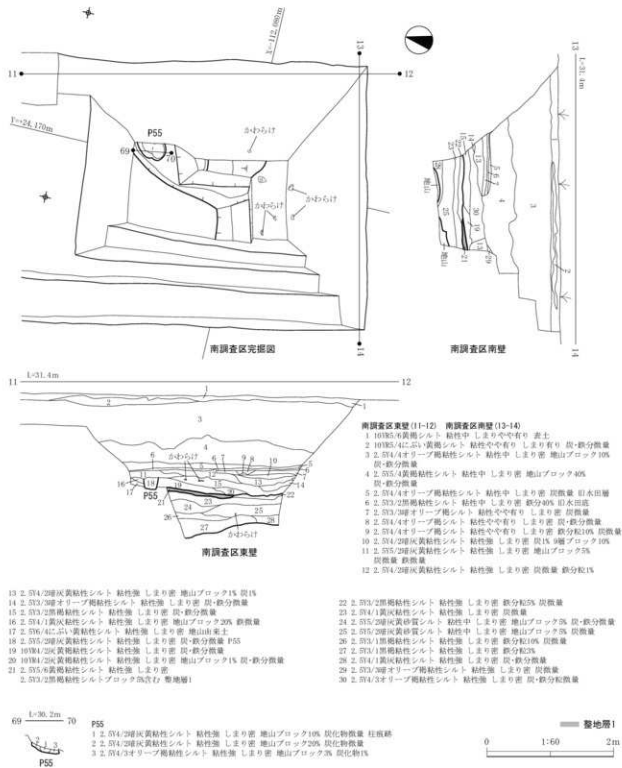
第3図 北調査区遺構配置図(1/60)



第4図 北調査区北壁断面・溝断面



第5図 北調査区トレンチ断面



第6図 南調査区平面・断面



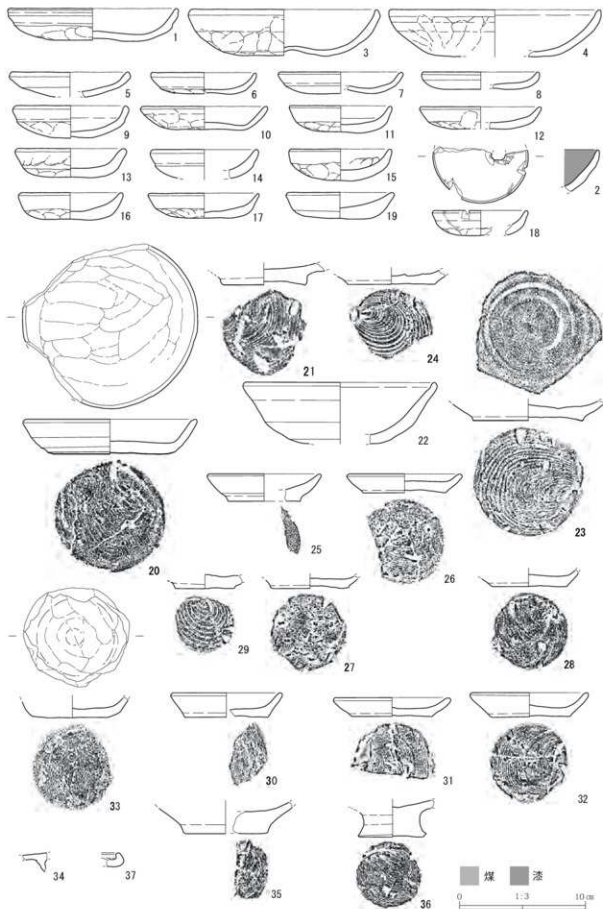


第1表 柱穴観察表

No	測方(cm)	平面形	柱痕跡(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)	出土遺物他(遺物No)
1	10×10	円形	-	8	2023	
2	33×34	円形	14×14	28	3004	角釘(Na118)、かわらけ
3	41×48	隅丸	15×15	14	3018	かわらけ、P4>P3
4	24×26	円形	13×13	16	3016	かわらけ、P4>P3
5	26×26	円形	12×12	20	3012	かわらけ、粘板岩
7	30×28	楕円形	-	5	3025	かわらけ(Na1)
8	46×54	隅丸	14×22	26	3004	かわらけ、国産陶器(瀬美No41)、土壁(Na88・89)
10	27×28	円形	-	30	2996	かわらけ、P11>P10
11	22×[12]	隅丸	14×14	8	3018	かわらけ、P11>P10
12	42×45	円形	17×16	36	2992	かわらけ、土壁(Na90)、角釘(Na119)、粘板岩、炭
13	28×31	円形	9×8	34	2992	かわらけ、土壁(Na91)、炭
14	25×22	楕円形	-	15	3012	かわらけ、鉄滓(Na126)
15	28×40	楕円形	15×16	59	2968	かわらけ、杭
16	31×30	円形	8×8	23	3002	かわらけ、土製品
17	34×36	楕円形	-	24	2994	かわらけ(Na5)、土壁(Na92・93)
18	18×[19]	円形	-	37	2999	かわらけ
21	20×25	楕円形	-	32	2984	かわらけ、土師器環(Na71)
22	12×15	円形	-	12	3005	かわらけ
25	18×20	円形	13×13	34	2986	かわらけ、土師器蓋(Na72・73)、桃の種(Na129)、P25>P26
26	48×36	角	-	46	2974	かわらけ(高台：Na34)
27	16×17	隅丸	-	36	2982	かわらけ、P28>P27
28	22×24	円形	-	36	2982	かわらけ、土壁(Na94)、鉄滓(Na127)、桃類種(Na130)、P28>P27
29	17×22	円形	-	26	2992	かわらけ
30	18×48	円形	-	20	2998	かわらけ
31	24×30	楕円形	14×14	40	2980	かわらけ、土壁(Na95)、粘板岩
32	24×28	楕円形小	15×(15)	44	2974	かわらけ、P32>P33
33	24×33	円形	-	36	2988	かわらけ、P32>P33
34	25×32	楕円形	15×16	58	2962	かわらけ、土壁(Na96)
35	13×14	円形	-	14	3006	かわらけ、かわらけ質土器
36	30×[30]	隅丸	-	40	2980	かわらけ、中国産白磁皿(Na60)、瓦(Na77)、土壁(Na97)
37	22×30	楕円形	23×23	44	2976	かわらけ 炭
38	34×36	円形	19×19	58	2960	中国産陶器(天目No61)、土師器(Na74)、土製品
39	26×28	円形	-	18	2998	かわらけ
40	27×30	隅丸	13×15	47	2972	かわらけ
43	40×30	楕円形	10×10	20	2986	かわらけ、国産陶器(瀬美No43)、土壁(Na98)、P43>SD2・P52
44	35×[35]	角か	-	21	2975	かわらけ(Na20)、中国産白磁水注(Na63)、砥石(Na133)
45	17×25	楕円形	-	22	2975	かわらけ、P45>P46
46	35×36	楕円形小	12×-	35	2959	かわらけ、土壁(Na99)、P45>P46
47	25×[24]	楕円形	-	52	2950	かわらけ
48	[30]×[20]	楕円形	-	52	2946	
49	28×28	円形	-	-	-	
50	24×26	隅丸	-	35	2970	かわらけ、SD1>P50
52	[10]×[10]	楕円形	-	17	2985	P43>SD2・P52
54	[32]×[32]	隅丸	-	35	2981	かわらけ、土壁(Na100)
55	25×44	楕円形	17×-	29	2968	かわらけ
56	23×28	楕円形	-	12	2964	
57	22×27	楕円形	-	21	2971	かわらけ
58	30×35	楕円形	-	18	2982	
59	12×12	円形	-	24	3002	

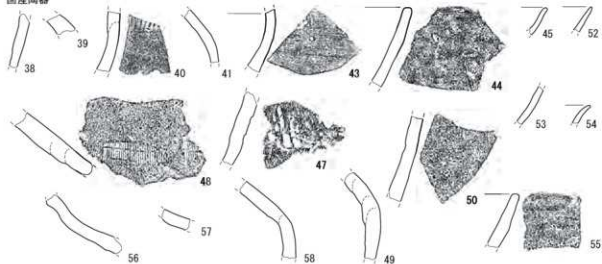
P6・9・19・20・23・24・41・42・51・53は欠番 [ ] 実測値

かわらけ

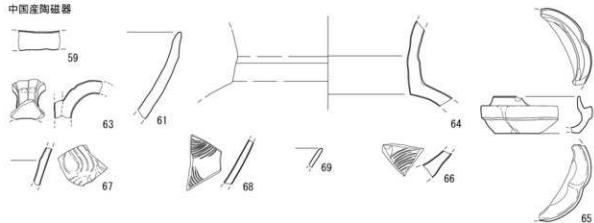


第8図 出土遺物(1)

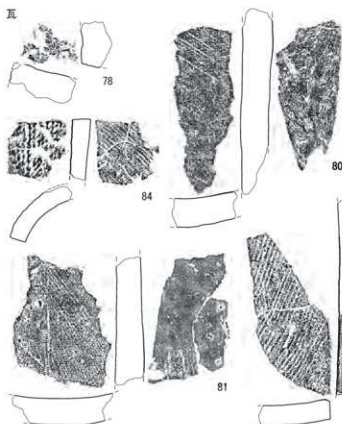
国産陶器



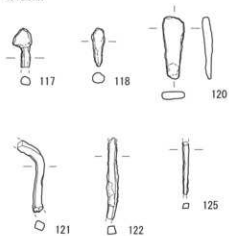
中国産陶磁器



瓦



鉄製品



国産陶器・瓦・鉄製品

0 1:3 10cm

中国産陶磁器

0 1:2 5cm

第9図 出土遺物(2)

第2表 かわらけ観察表

( ) 測定値 &lt; &gt; 推定値

No	写真 図取	出土位置・層位	種類	法量(cm)		残存率 (%)	年代	備考	登録No		
				口径	底径						
1	8	4	北調査区 P7 検出面	手づくね大	13.2~13.5	-	2.3~2.7	95	12c	スノコ痕 指痕	86
2	8	4	北調査区 整地層1	手づくね大	-	-	-	小片	12c	内外面に黒い付着物(漆か)	295
3	8	4	北調査区 北トレンチ 整地層1	手づくね大	(15.2)	-	3.7	30	12c	外面ナデ 反転実測	296
4	8	4	北調査区 整地層1	手づくね大	(16.8)	-	-	25	12c	外面ナデ 反転実測	304-2
5	8	4	北調査区 P17 埋土	手づくね小	(9.6)	-	-	30	12c	反転実測	160-4
6	8	4	北調査区 整地層1	手づくね小	8.4	-	1.4~1.8	50	12c	指痕	383-3
7	8	4	北調査区 トレンチ1 整地層1	手づくね小	(9.9)	-	1.7	50	12c	スノコ痕 反転実測	280-1
8	8	4	北調査区 トレンチ1 整地層1	手づくね小	(9.3)	-	1.4	30	12c	反転実測	280-2
9	8	4	北調査区 東トレンチ 整地層1	手づくね小	(9.2)	-	2.5	40	12c	指痕 外面ナデ 反転実測	356
10	8	4	北調査区 北トレンチ 整地層2	手づくね小	10.1	-	1.7~2.0	70	12c	外面ナデ	273-3.308
11	8	4	南調査区 東側深掘り 整地層	手づくね小	8.2	-	1.7~2.3	定形	13c小	外面指痕 内底サヤラナデ	246
12	8	4	南調査区 東側深掘り 整地層下	手づくね小	(9.6)	-	1.8	40	12c	指痕 反転実測	267-4
13	8	4	南調査区 落込み	手づくね小	(8.8)	-	2.3	30	13c小	外面指痕 反転実測	225-4
14	8	4	南調査区 落込み	手づくね小	(8.6)	-	-	25	13c小	反転実測	225-5
15	8	4	南調査区 中央 活掃	手づくね小	8.2~8.4	-	1.9~2.4	定形	13c小	内外面指痕	219
16	8	4	南調査区 東側 活掃	手づくね小	8.2~8.5	-	1.9~2.2	90	13c小	指痕	220
17	8	4	南調査区 南側 深掘り	手づくね小	8.6~9.0	-	1.7~2.2	80	12c	指痕	249-7
18	8	4	南調査区 南側 深掘り	手づくね小	7.6	-	1.9	50	12c	穿孔小口縁に埋付着 外面指痕	249-8
19	8	4	南調査区	手づくね小	8.6	-	1.9~2.2	70	13c小	摩滅	217-3.225-6
20	8	4	北調査区 東壁 P44	口クロ大	13.8	9.0	2.7~3.0	70	13c	内底ナデ 外底端部ナデ	407
21	8	4	北調査区 北トレンチ 整地層	口クロ大	-	6.1	-	50	12c	底部のみ 底部台状 内底ナデ 内外面被熱	178-5.180
22	8	4	北調査区 整地層2	口クロ大	(15.4)	-	-	10	12c	反転実測	406-3
23	8	4	北調査区 北トレンチ 整地層2	口クロ大	-	8.6	-	60	14c小	底部のみ 内底ナデ 反転実測	337
24	8	4	北調査区 東トレンチ 整地層1	口クロ大	-	(6.9)	-	30	12c	底部のみ 反転実測	379
25	8	4	北調査区 北トレンチ 整地層1	口クロ小	(9.0)	(5.8)	2.2	25	12c	反転実測	366-4
26	8	4	北調査区 北トレンチ 整地層1	口クロ小	(9.2)	6.2	1.5	60	12c	摩滅 反転実測	292-3.295-1 294-1.413-3
27	8	4	北調査区 北トレンチ 整地層1	口クロ小	-	6.0	-	60	14c小	底部のみ 内底ナデ	351
28	8	4	北調査区 トレンチ1 整地層1	口クロ小	-	5.8	-	60	12c	底部のみ	330
29	8	4	北調査区 北トレンチ 整地層2	口クロ小	-	4.6	-	60	12c	底部のみ	309
30	8	4	北調査区 北トレンチ 整地層2	口クロ小	(8.8)	(6.6)	1.9	30	12c	反転実測	344
31	8	4	北調査区 北トレンチ 整地層2	口クロ小	(9.3)	6.4	1.5	50	12c		342.345
32	8	4	北調査区 北トレンチ 整地層2	口クロ小	9.4	6.2	1.9~2.2	80	12c	内底ナデ	346-2.347 348.349
33	8	4	南調査区	口クロ小	-	6.5	-	60	13c小	内外面ナデ 摩滅	221
34	8	4	北調査区 P26 掘り方	高台	-	-	-	小片	12c	高台のみ	193
35	8	4	北調査区 トレンチ1 整地層1	台状	-	(6.8)	-	20	12c	底部台状 摩滅 反転実測	275-4
36	8	4	北調査区 北トレンチ 整地層1	柱状高台	-	5.3	-	50	12c	高台のみ スノコ痕	300
37	8	4	北調査区 トレンチ1 整地層1	内折れ	-	-	-	小片	12c		275-3

第3表 国産陶器観察表

No	図取	写真 図取	出土位置・層位	種類	器種	部位	年代	備考	登録No
38	9	5	北調査区 1号溝埋土	常滑	甕	胴部	12c		108-2
39	9	5	北調査区 1号溝埋土	東北	甕	肩部	13・14c		108-3
40	9	5	北調査区 溝状遺構 埋土	常滑	甕	胴部	12c	押印	6
41	9	5	北調査区 P8埋土	瀬美	甕	肩部	12c		59-1
42	-	-	北調査区 整地層	東北	甕	胴部	13・14c		80-2
43	9	5	北調査区 P43埋土 上層	瀬美	甕	胴部	12c		211
44	9	5	北調査区 東トレンチ 整地層1	瀬美	鉢	口縁-体部	12c		370
45	9	5	北調査区 北トレンチ 整地層1	瀬美	小皿	口縁部	12c		265-5
46	-	-	北調査区 Ⅱ層	常滑	甕	胴部	12c		12-2
47	9	5	北調査区 Ⅱ層	東北	甕	胴部	12c	押印	13-3
48	9	5	北調査区 南壁切り時 Ⅱ層	東北	甕	肩部	13・14c	押印	18-2
49	9	5	北調査区 Ⅱ層	東北小	甕	肩部	13・14c		410
50	9	5	北調査区 Ⅱ層	東北	甕	胴部	13・14c		13-4
51	-	-	北調査区 Ⅱ層	常滑	甕	胴部	12c		22-2

52	9	5	北調査区 南壁切り時 Ⅱ層	古瀬戸	平碗	口縁部	14・15c		19-2
53	9	5	北調査区 北トレンチ Ⅱ層	古瀬戸	平碗	体部	14・15c		20
54	9	5	北調査区 Ⅲ階段分集積層	陶美	小皿	口縁部	12c		21-2
55	9	5	南～北調査区 東壁Ⅱ層	陶美	鉢	口縁部	12c		31-2
56	9	5	南～北調査区 東壁Ⅱ層	東北	甕	肩部	13・14c		31-3
57	9	5	遺構外	常滑	甕	肩部	12c		3-3
58	9	5	遺構外	東北	甕	肩部	13・14c		3-2

第4表 中国産磁器観察表

No	図版	写真図版	出土位置・層位	種類	器種	部位	年代	備考	登録No
59	9	4	北調査区 整地層上面	白磁	碗	底部	12c	Ⅳ類	57-2
60	-	4	北調査区 P36 埋土上層	白磁	皿	体部	12c	V・Ⅵ類	105
61	9	4	北調査区 P38	陶器	天目	口縁部	不明	黒釉	173
62	-	4	北調査区 整地層上面	青白磁	皿	体部小	12c		81
63	9	4	北調査区 P44	白磁	水注	取手部	12c	Ⅲ系	236
64	9	4	北調査区 東トレンチ 整地層1	白磁	水注小	肩部	12c	Ⅲ系	378
65	9	4	北調査区 整地層1	青白磁	合子	身部	12c	摺押し 輪花	288
66	9	4	北調査区 整地層上面	白磁	碗	体部	12c	V4・Ⅵ・Ⅶ類 内面に欄目文	36
67	9	4	北調査区Ⅱ層	青白磁	梅瓶	胴部	13c	外面に文様	13-2
68	9	4	北調査区Ⅲ層	青白磁	碗	体部	12c	内面に欄目文	16
69	9	4	北調査区Ⅲ層	青磁小	碗小	口縁部	不明	近世の可能性	25-2
70	-	4	南～北調査区Ⅲ層	白磁	四耳壺	胴部	12c		32-2

第5表 土師器観察表

No	図版	写真図版	出土位置・層位	種類	部位	年代	備考	登録No
71	-	5	北調査区 P21 埋土	坏小	体部	平安		68-2
72	-	5	北調査区 P25 掘り方	甕小	不明	平安		166-2
73	-	5	北調査区 P25 掘り方	甕	頸部小	平安	赤彩	166-3
74	-	5	北調査区 P38 柱頭跡	甕小	不明	平安	赤彩	174-2
75	-	5	北調査区Ⅲ層	坏	口縁部	平安		10-2

第6表 瓦観察表

No	図版	写真図版	出土位置・層位	種類	法量 (cm)			重量 (g)	色調	備考	登録No
					長さ	幅	厚さ				
76	-	-	北調査区 1号溝 埋土	不明	<2.8>	<2.2>	<0.6>	25	10YR8/3 淡黄橙	中世 凹面に布目	108-4
77	-	-	北調査区 P36 掘り方	不明	-	-	-	1.3	2.5Y7/1 灰白	小片	196-2
78	9	5	北調査区 東トレンチ 整地層1	平瓦小	<4.0>	<5.4>	<2.5>	40.2	10YR8/1 灰白	中世 凹面に布目 離れ砂	372
79	-	5	南調査区 整地層1一括	不明	<5.6>	<3.0>	1.3	17.5	10YR8/4 淡黄橙	中世 凹面に布目 凸面に欄目・離れ砂	397-2
80	9	5	重機 整地層1上面	平瓦	<14.8>	<5.8>	2.4	199.7	10YR8/2 灰白	中世 凹面に布目 凸面に欄目	5
81	9	5	北調査区 北トレンチ 整地層	平瓦	<11.7>	<8.0>	2.3	183.3	2.5Y8/3 淡黄	中世 凹面に布目 凸面に欄目	293279-2
82	9	5	北調査区 北トレンチ北西側	平瓦	<13.5>	<6.5>	1.6	98.0	5Y7/1 灰白	中世 凹面に布目 凸面に欄目・離れ砂 側面にケズリ	241
83	-	-	重機一括	不明	<3.8>	<4.0>	1.5	16.0	7.5YR8/3 淡黄橙	中世 凹面に布目 側面にケズリ	1-2
84	9	5	重機一括	丸瓦	<5.3>	<5.9>	1.5	56.7	10YR8/3 淡黄橙	中世 凹面に布目 凸面に欄目 側面にケズリ	2-2
85	-	-	重機一括	不明	<2.7>	<2.6>	1.6	8.5	10YR8/2 灰白	中世 凹面に布目 側面にケズリ	2-3

第7表 土壁観察表

No	図版	写真図版	出土位置・層位	法量 (cm)			重量 (g)	スサの有無	備考	登録No
				長さ	幅	厚さ				
86	-	-	北調査区 1号溝埋土		1.2	1.3	1.1	1.1	有	23-3
87	-	-	北調査区 1号溝埋土	0.8~1.8	0.6~1.0	0.5~1.4	16.1	有	11個	108-6
88	-	-	北調査区 P8	0.9~2.8	0.8~2.0	0.5~1.4	9.6	無	3個	98-2
89	-	-	北調査区 P8 掘り方下位	1.9	1.0	0.8	1.8	無		119-2
90	-	-	北調査区 P12 埋土	0.9~1.5	0.5~1.0	0.4~0.9	1.3	無	2個	101-2

91	-	-	北調査区 P13 掘り方	0.8~1.9	0.5~1.6	0.6~1.1	8.8	無	7個	136-2
92	-	-	北調査区 P17 掘り方	3.3	2.2	0.9	5.2	無		188-2
93	-	-	北調査区 P17 埋土	1.7	1.3	0.9	1.9	無		160-2
94	-	-	北調査区 P28 埋土	1.3	1.2	1.4	2.5	無		254-2
95	-	-	北調査区 P31 埋土	1.1~1.5	0.9~2.2	0.9~1.5	4.4	有	2個	210-2
96	-	-	北調査区 P34 掘り方下位	0.9	0.6	1.0	5.5	無		147-2
97	-	-	北調査区 P36	1.6	1.2	0.7	1.2	無		148-2
98	-	-	北調査区 P43	1.9	1.4	0.8	1.5	有		271-2
99	-	-	北調査区 P46 埋土	2.5	2.2	1.8	11.0	有		214-2
100	-	-	北調査区 P54 掘り方	1.5	0.7	0.8	0.9	無		178-2
101	-	-	北調査区 北トレンチ 整地層1	1.2~4.0	0.8~1.5	1.7~2.0	13.1	有	2個	328-2
102	-	-	北調査区 北トレンチ 整地層1	1.0	0.8	0.7	0.5	無		413-2
103	-	-	北調査区 北壁付近 整地層1	1.0~1.5	1.0~1.2	0.8~1.3	5.5	無	3個	52-2
104	-	-	北調査区 西壁付近 整地層1	1.5	1.4	0.8	1.9	無		53-2
105	-	-	北調査区 整地層1	2.2	1.5	2.5	7.4	無		92-3
106	-	-	北調査区 整地層1上面	2.0	1.2	0.9	2.6	有		9-2
107	-	-	北調査区 Ⅱ層	1.2~2.2	1.0~1.7	1.5	6.1	無	2個	10-3
108	-	-	北調査区 整地層1上面	2.0	1.5	1.8	5.1	有		48-2
109	-	-	北調査区 北トレンチ2号溝周辺 整地層	1.5	1.1	1.5	2.2	無		374-2
110	-	-	北調査区 トレンチ1 整地層~下	2.5	2.2	1.5	6.9	有		276-2
111	-	-	北調査区 南壁切り時	1.4	1.0	0.7	1.3	有		17-2
112	-	-	北調査区 北トレンチ 溝幅	1.0	0.7	0.7	0.5	無		156-2
113	-	-	北調査区 北トレンチ北西側	2.0	1.0	2.1	3.1	無		262-2
114	-	-	北調査区 北トレンチ北西側	1.8	1.0	1.0	1.6	有		412-2
115	-	-	北調査区 Ⅱ層鉄分集積層	1.5~1.7	1.0~1.3	0.7~0.8	2.6	無	2個	21-3
116	-	-	南~北調査区 東壁 Ⅲ層	1.5	1.5	1.5	2.7	無		33-2

第8表 金属製品観察表

No.	国取	写真 図取	出土位置・層位	種類	法量 (cm)			重量 (g)	備考	登録No.
					長さ	幅	厚さ			
117	9	5	北調査区 1号溝埋土	鉄 角釘	<3.1>	0.7	0.6	3.9		108-5
118	9	5	北調査区 P2 柱前跡	鉄 角釘	3.1	1.0	0.9	3.7		111-2
119	-	-	北調査区 P12 掘り方	鉄 角釘か	3.5	1.4	0.8	3.0		141-2
120	9	5	北調査区 整地層1	鉄 楔か	4.9	1.7	0.6	7.9		400
121	9	5	北調査区 北トレンチ 整地層1	鉄 鋸か	<5.7>	0.7	0.8	10.8		278
122	9	5	北調査区	鉄 角釘	<6.5>	0.7	0.7	7.4		35-2
123	-	-	北調査区 整地層	鉄 不明	3.9	2.6	1.5	9.2		279-3
124	-	-	北調査区 整地層	鉄 角釘か	3.0	1.7	1.3	3.7		279-5
125	9	5	北調査区 トレンチ1 整地層~下	鉄 角釘か	<4.3>	0.5	0.4	1.8		276-3

第9表 鉄滓観察表

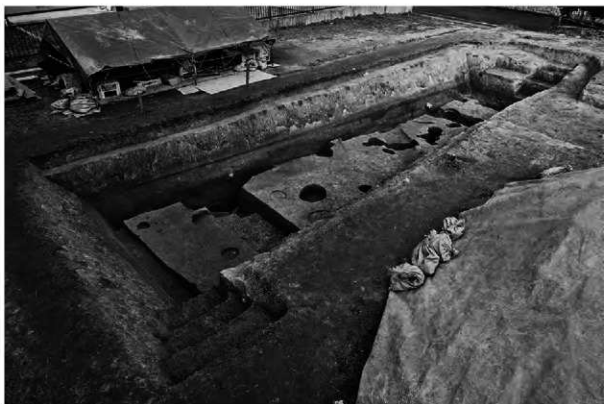
No.	国取	写真 図取	出土位置・層位	重量 (g)	磁着	種類	備考	登録No.
126	-	-	北調査区 P14 埋土	17.0	有	鉄滓		204-2
127	-	-	北調査区 P28 埋土	170.7	有	鉄滓		254-3
128	-	-	北調査区 整地層	27.0	有	鉄滓		279-6

第10表 種子観察表

No.	国取	写真 図取	出土位置・層位	種類	備考	登録No.
129	-	-	北調査区 P25 柱前跡	桃		192-1
130	-	-	北調査区 P28 埋土	桃		256
131	-	-	南調査区 南側深掘り	桃・不明種子		249-4
132	-	-	南調査区 東側深掘り	桃		267-3

第11表 石製品観察表

No.	国取	写真 図取	出土位置・層位	種別	法量 (cm)			重量 (g)	色調	備考	登録No.
					長さ	幅	厚さ				
133	-	5	北調査区 P44 根石付近	砥石	9.3	7.9	2.1	251.4	10YR8/2灰白		238-2



北調査区全景（南西から）



北調査区北壁断面1（南から）



北調査区北壁断面2（南から）



北調査区北壁断面3（南から）



北調査区北壁断面4（南から）





北調査区西側全景 1 (北から)



北調査区中央全景 2 (北から)



北調査区全景 (南西から)



北調査区全景 (南東から)



北調査区 トレンチ2 西壁 (東から)



30SD1 南壁断面 (北から)



北調査区西壁断面 (東から)



北調査区東壁断面 (西から)



北調査区西側全景3 (北から)



30SK1全景 (南東から)



南調査区全景 (東から)



南調査区全景 (北から)



南調査区西壁断面 (東から)



南調査区南壁断面 (北から)

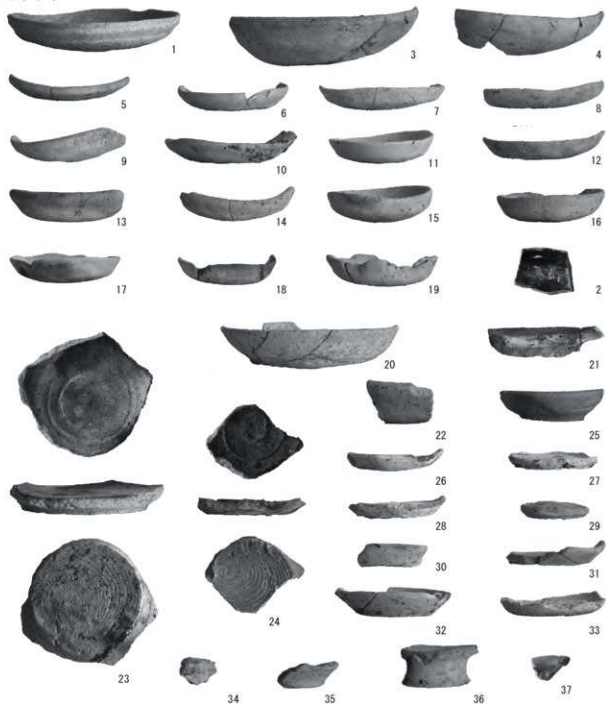


南調査区東壁 (西から)

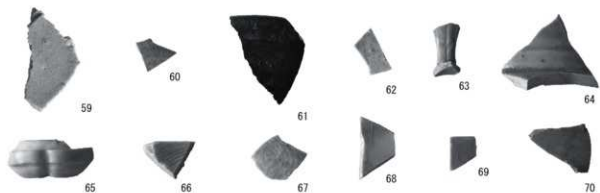


南調査区東壁 (西から)

かわらけ

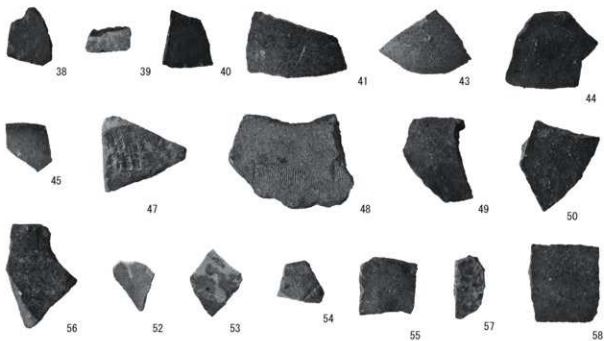


中国産陶磁器



写真図版4 出土遺物(1)

## 国産陶器



## 土師器



## 瓦



## 石製品



## 金属製品



写真図版5 出土遺物(2)

---

岩手県平泉町文化財調査報告書第146集

## 平泉遺跡群発掘調査報告書

祇園Ⅱ遺跡第20次  
伽羅之御所跡第31次  
志羅山遺跡第120・121次

国衡館跡第16次  
西光寺跡第14・15次  
花立Ⅱ遺跡第30次

印刷 令和6年3月27日

発行 令和6年3月31日

編集・発行 平泉町教育委員会  
〒029-4102 岩手県西磐井郡平泉町平泉字志羅山45番地2  
電話 (0191) 46-2111 ㊟ FAX (0191) 46-2015

印刷 株式会社 一関プリント社  
〒029-0031 岩手県一関市青葉一丁目7-24  
電話 (0191) 23-4586 ㊟